平成 27 年度

男女共同参画に関する
市　民　意　識　調　査
報　告　書

平成 28 年 3 月

燕　市
企画財政部地域振興課

目　次

Ⅰ　調査の概要 1

Ⅱ　調査結果の概要

１．男女の地位の平等について 5
(1) 男女の地位の平等感 5
(2) 男女平等社会の実現のために必要なこと 23
２．家庭生活等に関する考え方について 25
(1) 男性は仕事、女性は家庭という考え方 25
(2) 家庭生活等における役割分担 35
３．仕事と生活の調和（ワーク･ライフ･バランス）について 63
(1) 生活時間について 63
(2) 仕事と家庭生活・地域活動などの位置づけ 70
(3) 男性が家庭生活・地域活動に積極的に参加するために必要なこと 70
(4) 男性の育児休業・介護休業の取得について 71
(5) 育児休業・介護休業が取りづらい理由 75
(6) ワーク･ライフ･バランスの効果 76
４．女性の社会参画について 77
(1) 女性の職業と生活設計についての考え方 77
(2) 女性が働き続けるために必要なこと 79
(3) 政策・方針決定の場への女性の参画について 81
(4) 防災・災害・復興の場での女性の参画等について 83
５．男女の人権について 84
(1) セクシュアル･ハラスメントの経験 84
(2) セクシュアル･ハラスメントの内容 85
(3) ドメスティック・バイオレンスの経験 89
(4) ドメスティック・バイオレンスの内容 91
(5) ドメスティック・バイオレンスに関する相談状況 93
(6) ドメスティック・バイオレンスに関する相談先 93
(7) ドメスティック・バイオレンスに関する相談をしなかった理由 94
６．男女共同参画社会に向けた法制度等について 97
(1) 男女共同参画社会に関する言葉の認知度 97
(2) 男女共同参画社会推進のために市が力を入れるべきこと 99

(付) 調　査　票

Ⅰ　調査の概要

１ 調査の目的

男女共同参画に関する市民の意識と実態を把握するとともに、平成 29 年度を始期とする、燕市男女共同参画推進条例に基づく「男女共同参画基本計画」策定の基礎資料とすることを目的に実施しました。

２ 調査項目

(1) 男女の地位の平等について
(2) 家庭生活等に関する考え方について
(3) 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について
(4) 女性の社会参画について
(5) 男女の人権について
(6) 男女共同参画社会に向けた法制度等について
(7) ご意見・ご要望等
(8) 回答者の属性

３ 調査の設計

(1) 調査地域：燕市全域
(2) 調査対象：満 18 歳以上の男女
(3) 標 本 数：2,000 人（住民基本台帳から無作為抽出）
(4) 調査方法：郵送法（配布・回収とも）
(5) 調査期間：平成 27 年 11 月 2 日～11 月 16 日

４ 回収結果

有効回収数（率）＝　860（43.0%）

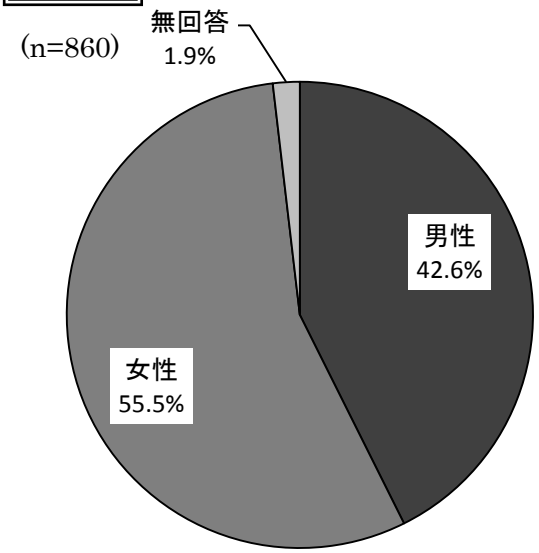
５ 報告書の見方

(1) 結果は百分率（%）で表示し、小数点以下第２位を四捨五入して算出しました。四捨五入の結果、個々の比率の合計が100%にならないことがあります。
また、複数回答の質問(２つ以上の回答を認めた質問)では、合計が100%を超えることがあります。
(2) 図表中の「n」とは回答者総数(または該当者質問での該当者数)のことで、100%が何人の回答に相当するかを示す比率算出の基数です。

6 回答者の構成

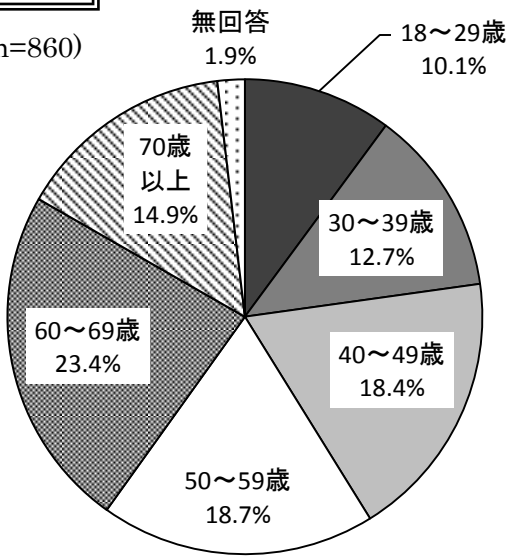
性別

(n=860)



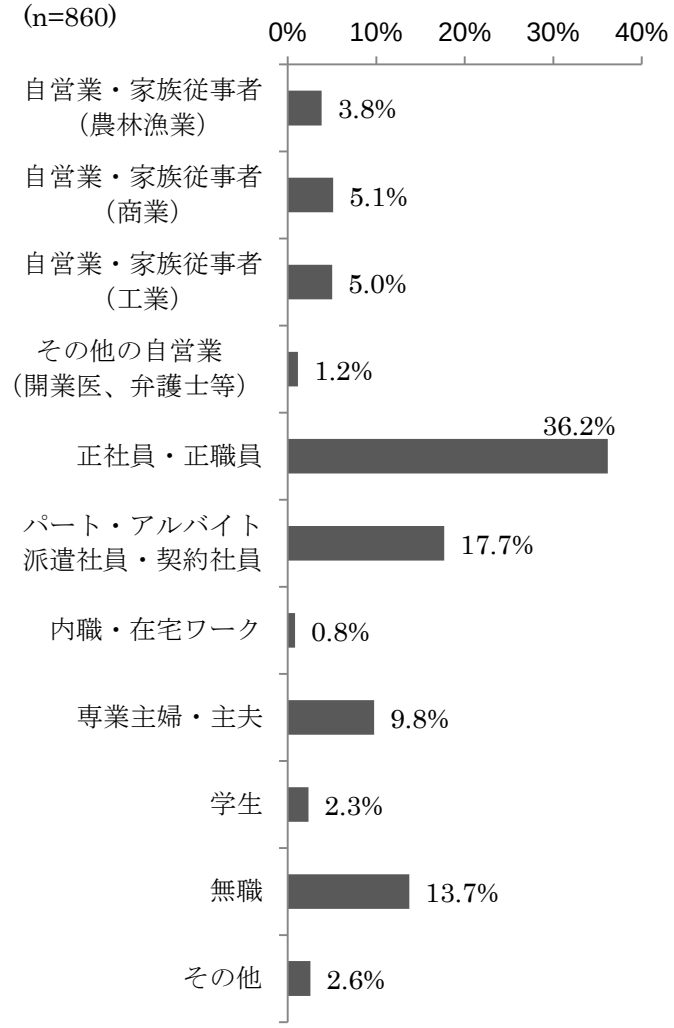
年齢

(n=860)



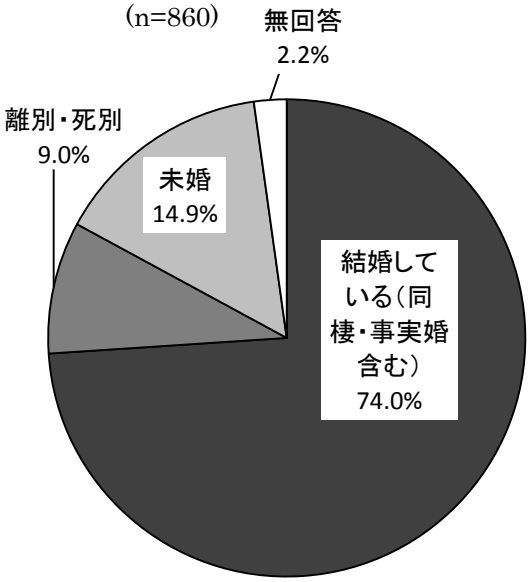
職業

(n=860)



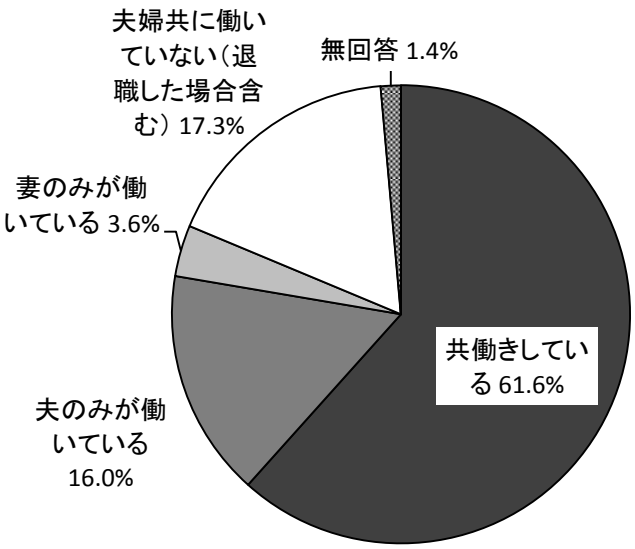
婚姻の状況

(n=860)



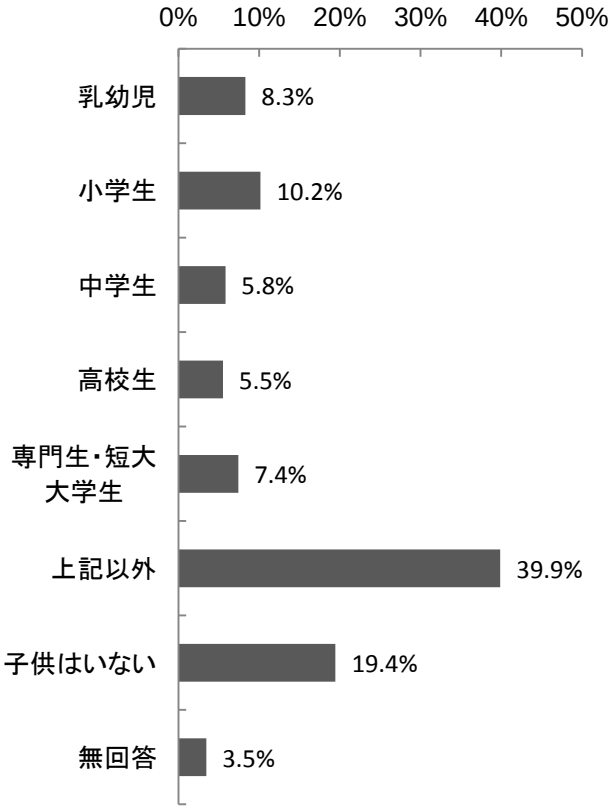
共働きの状況

(n=636)



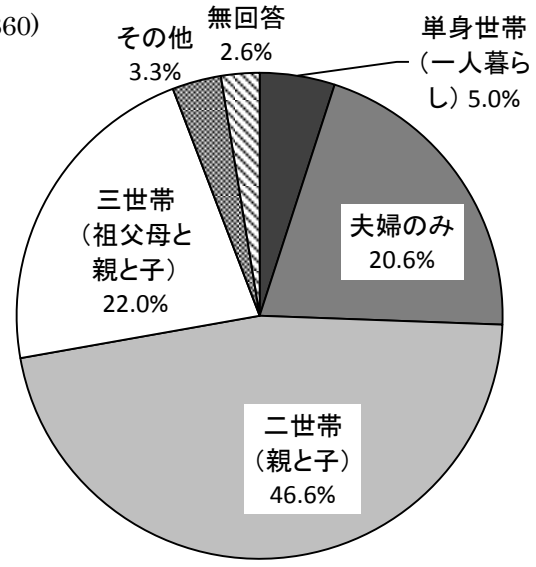
子供の状況

(n=860)



家族構成

(n=860)



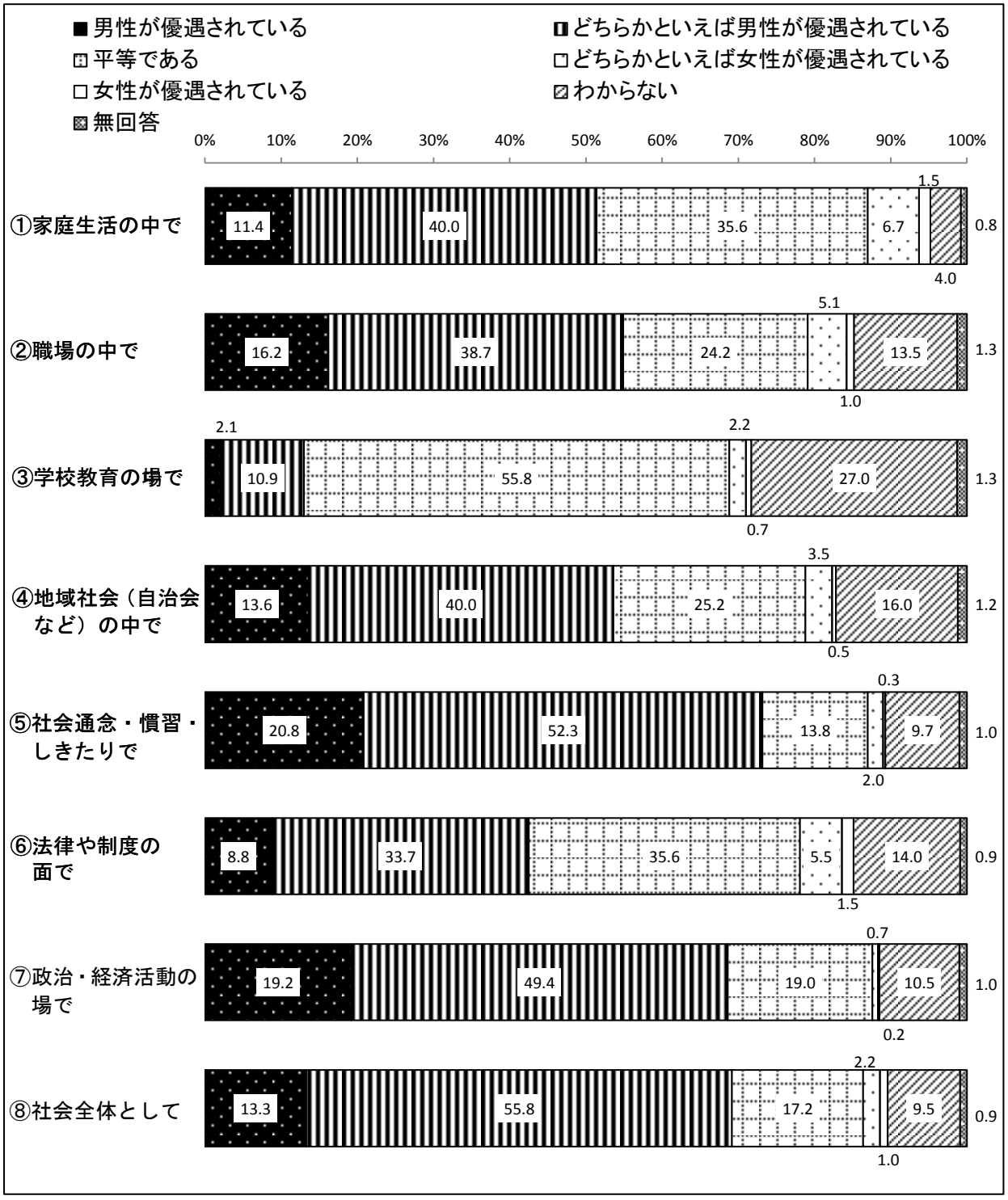
回答者の構成		合計	性別			年齢別						
			男性	女性	無回答	18～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70歳以上	無回答
全体結果		860	42.6	55.5	1.9	10.1	12.7	18.4	18.7	23.4	14.9	1.9
性別	男性	366	100.0	0.0	0.0	10.7	13.7	17.2	17.8	24.3	16.4	0.0
	女性	478	0.0	100.0	0.0	10.0	12.3	19.9	20.1	23.4	14.2	0.0
	無回答	16	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
年齢別	18～29歳 計	87	44.8	55.2	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～29歳 男性	39	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	18～29歳 女性	48	0.0	100.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	30～39歳 計	109	45.9	54.1	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	30～39歳 男性	50	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	30～39歳 女性	59	0.0	100.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～49歳 計	158	39.9	60.1	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～49歳 男性	63	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40～49歳 女性	95	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	50～59歳 計	161	40.4	59.6	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	50～59歳 男性	65	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	50～59歳 女性	96	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0
	60～69歳 計	201	44.3	55.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	60～69歳 男性	89	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	60～69歳 女性	112	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0
	70～79歳 計	128	46.9	53.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	70歳以上 男性	60	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	70歳以上 女性	68	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	0.0
	無回答 計	16	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	無回答 男性	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
	無回答 女性	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－
職業別	自営業・家事従事者（農林漁業）	33	54.5	45.5	0.0	0.0	3.0	3.0	30.3	33.3	30.3	0.0
	自営業・家事従事者（商業）	44	43.2	56.8	0.0	0.0	4.5	11.4	20.5	31.8	31.8	0.0
	自営業・家事従事者（工業）	43	53.5	46.5	0.0	2.3	9.3	16.3	16.3	39.5	16.3	0.0
	その他の自営業（開業医、弁護士等）	10	50.0	50.0	0.0	0.0	20.0	30.0	20.0	10.0	20.0	0.0
	正社員・正職員	311	57.2	42.8	0.0	13.8	21.5	28.3	23.5	12.2	0.6	0.0
	パート・アルバイト・派遣社員・契約社員	152	20.4	79.6	0.0	10.5	13.8	27.0	23.7	22.4	2.6	0.0
	内職・在宅ワーク	7	42.9	57.1	0.0	28.6	14.3	14.3	14.3	14.3	14.3	0.0
	専業主婦・主夫	84	0.0	100.0	0.0	4.8	9.5	7.1	13.1	44.0	21.4	0.0
	学生	20	35.0	65.0	0.0	95.0	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	無職	118	57.6	42.4	0.0	0.8	1.7	3.4	2.5	36.4	55.1	0.0
	その他	22	63.6	36.4	0.0	4.5	0.0	9.1	40.9	22.7	22.7	0.0
	無回答	16	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
婚姻状況別	結婚している（同棲・事実婚含む）	636	44.3	55.7	0.0	3.6	12.6	19.2	21.9	26.4	16.4	0.0
	離別・死別	77	26.0	71.4	2.6	1.3	7.8	18.2	18.2	29.9	22.1	2.6
	未婚	128	49.2	50.8	0.0	49.2	18.0	17.2	6.3	7.0	2.3	0.0
	無回答	19	5.3	21.1	73.7	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3	21.1	73.7
共働きの状況別	共働きしている	392	43.1	56.9	0.0	4.6	16.3	27.8	27.3	18.1	5.9	0.0
	夫のみが働いている	102	49.0	51.0	0.0	3.9	12.7	11.8	22.5	34.3	14.7	0.0
	妻のみが働いている	23	56.5	43.5	0.0	0.0	4.3	0.0	21.7	56.6	17.4	0.0
	夫婦共に働いていない（退職した場合含む）	110	40.9	59.1	0.0	0.9	0.9	0.0	0.9	40.9	56.4	0.0
	無回答	9	55.6	44.4	0.0	0.0	11.1	11.1	33.3	44.4	0.0	0.0
子供の状況別	乳幼児	84	41.7	57.1	1.2	14.3	56.0	26.2	2.4	0.0	0.0	1.2
	小学生	103	48.5	51.5	0.0	2.9	28.2	28.3	8.7	1.9	0.0	0.0
	中学生	59	42.4	57.6	0.0	0.0	11.9	69.5	16.9	0.0	1.7	0.0
	高校生	56	35.7	60.7	3.6	0.0	0.0	62.5	28.6	3.6	1.8	3.6
	専門生・短大・大学生	75	46.7	52.0	1.3	4.0	0.0	38.7	46.7	4.0	5.3	1.3
	上記以外	404	41.6	57.2	1.2	0.5	0.2	2.7	27.7	42.6	25.0	1.2
	子供はいない	197	46.2	51.8	2.0	35.5	20.3	18.8	9.6	7.6	6.1	2.0
	無回答	35	31.4	54.3	14.3	2.9	8.6	5.7	5.7	31.4	31.4	14.3
家族構成別	単身世帯（一人暮らし）	43	37.2	58.1	4.7	7.0	7.0	23.3	4.7	32.6	20.9	4.7
	夫婦のみ	177	39.0	59.3	1.7	6.2	10.7	7.3	14.7	30.5	28.8	1.7
	二世帯（親と子）	401	45.6	53.1	1.2	8.0	15.7	22.2	19.0	21.4	12.5	1.2
	三世帯（祖父母と親と子）	189	40.2	58.7	1.1	16.4	10.1	21.7	27.0	18.0	5.8	1.1
	その他	28	46.4	50.0	3.6	21.4	3.6	7.1	14.3	32.1	17.9	3.6
	無回答	22	40.9	45.5	13.6	18.2	18.2	13.6	9.1	18.2	9.1	13.6

Ⅱ　調査結果の概要

１．男女の地位の平等について

(1) 男女の地位の平等感について

問１　次のような場面・分野において男女の地位の平等について、あなたのお考えに最も近いものはどれですか。①~⑧それぞれの項目ごとに○をつけてください。
（○はそれぞれ１つだけ）　(n=860)



【全体結果】

「平等である」の割合が最も高い項目は、③「学校教育の場で」（55.8%）であり、過半数を占めている。次いで、①「家庭生活の中で」(35.6%)、⑥「法律や制度の面で」(35.6%)、④「地域社会（自治会など）の中で」（25.2%）となっている。

『男性が優遇されている（「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」の合計比率、以下同)』では、⑤「社会通念・慣習・しきたりで」(73.1%)、⑧「社会全体として」(69.1%)、⑦「政治・経済活動の場で」(68.6%)、②「職場の中で」(54.9%)、④「地域社会（自治会など）の中で」(53.6%)、①「家庭生活の中で」(51.4%）がいずれも過半数を占めている。

『女性が優遇されている（「女性が優遇されている」と「どちらかといえば女性が優遇されている」の合計比率、以下同)』では、①「家庭生活の中で」(8.2%)、⑥「法律や制度の面で」(7.0%)、②「職場の中で」(6.1%）の順となっている。

【前回調査（平成 23 年度）との比較】

「平等である」の割合が高い項目では、①「家庭生活の中で」（35.6%）が7.7ポイント増加し、⑥「法律や制度の面で」（35.6%）と同率で２番目に高くなった。

『男性が優遇されている』の割合が高い項目では、⑤「社会通念・慣習・しきたりで」(73.1%)が9ポイント増加し、⑧「社会全体として」(69.1%）が4.6ポイント減少したことにより１番割合が高くなった。

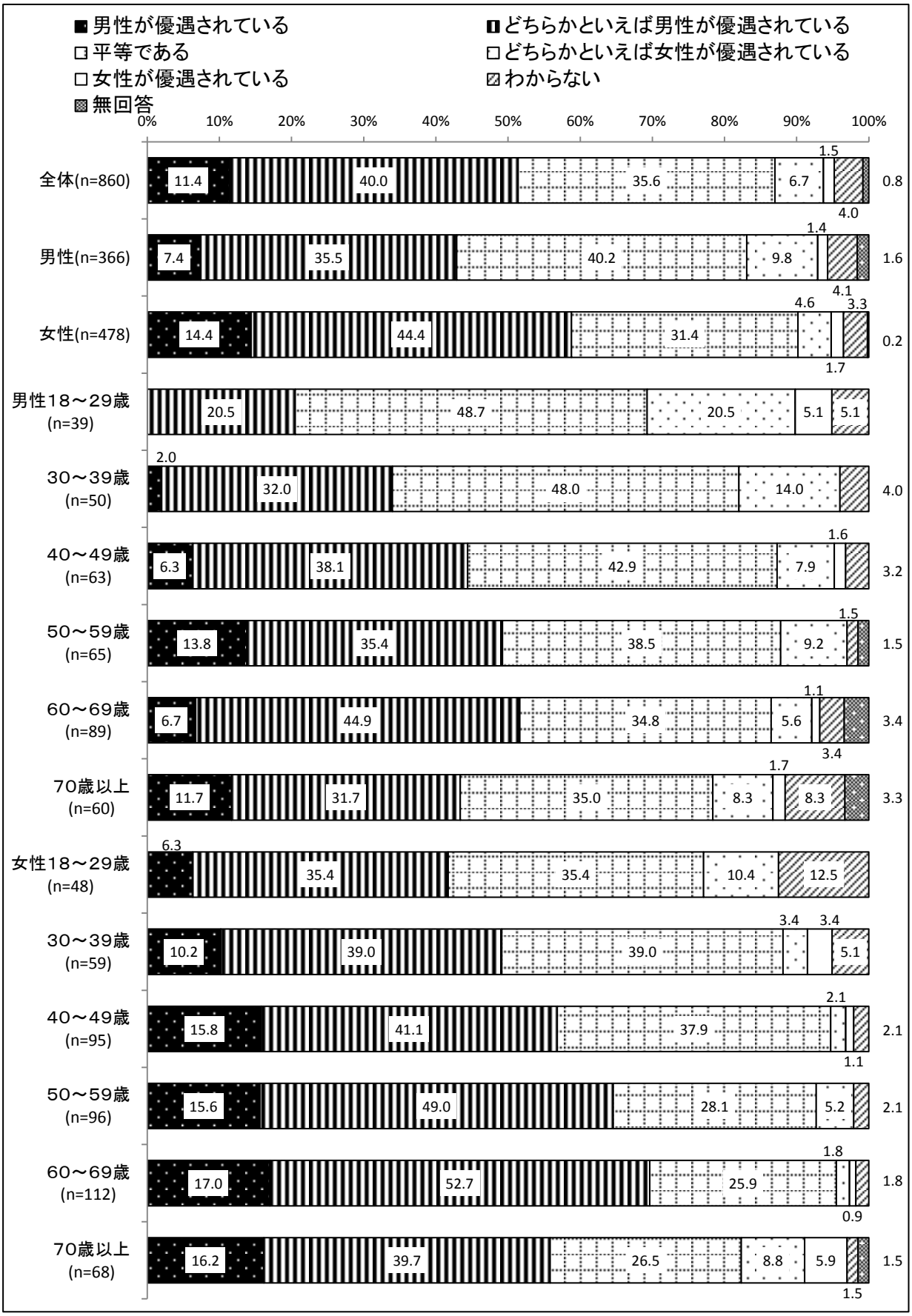
「平等である」の割合が高い項目

H23 年調査（n=893）		今回調査（n=860）	
・学校教育の場で	57.0%	・学校教育の場で	55.8%
・法律や制度の面で	34.7%	・法律や制度の面で	35.6%
・地域社会の中で	28.6%	・家庭生活の中で	35.6%
・家庭生活の中で	27.9%	・地域社会の中で	25.2%

『男性が優遇されている』の割合が高い項目

H23 年調査（n=893）		今回調査（n=860）	
・社会全体として	73.7%	・社会通念・慣習・しきたりで	73.1%
・社会通念・慣習・しきたりで	64.1%	・社会全体として	69.1%
・政治・経済活動の場で	55.2%	・政治・経済活動の場で	68.6%
・職場の中で	54.7%	・職場の中で	54.9%
・家庭生活の中で	52.2%	・地域社会の中で	53.6%
・地域社会の中で	42.9%	・家庭生活の中で	51.4%

①家庭生活の中で


■男性が優遇されている
◧どちらかといえば男性が優遇されている
□平等である
□どちらかといえば女性が優遇されている
□女性が優遇されている
▨わからない
▩無回答
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
全体(n=860)
11.4
40.0
35.6
6.7
1.5
4.0
0.8
男性(n=366)
7.4
35.5
40.2
9.8
1.4
4.1
1.6
女性(n=478)
14.4
44.4
31.4
4.6
1.7
3.3
0.2
男性18～29歳 (n=39)
20.5
48.7
20.5
5.1
5.1
30～39歳 (n=50)
2.0
32.0
48.0
14.0
4.0
40～49歳 (n=63)
6.3
38.1
42.9
7.9
1.6
3.2
50～59歳 (n=65)
13.8
35.4
38.5
9.2
1.5
1.5
60～69歳 (n=89)
6.7
44.9
34.8
5.6
1.1
3.4
3.4
70歳以上 (n=60)
11.7
31.7
35.0
8.3
1.7
8.3
3.3
女性18～29歳 (n=48)
6.3
35.4
35.4
10.4
12.5
30～39歳 (n=59)
10.2
39.0
39.0
3.4
3.4
5.1
40～49歳 (n=95)
15.8
41.1
37.9
2.1
1.1
2.1
50～59歳 (n=96)
15.6
49.0
28.1
5.2
2.1
60～69歳 (n=112)
17.0
52.7
25.9
1.8
0.9
1.8
70歳以上 (n=68)
16.2
39.7
26.5
8.8
5.9
1.5
1.5

【全体結果】

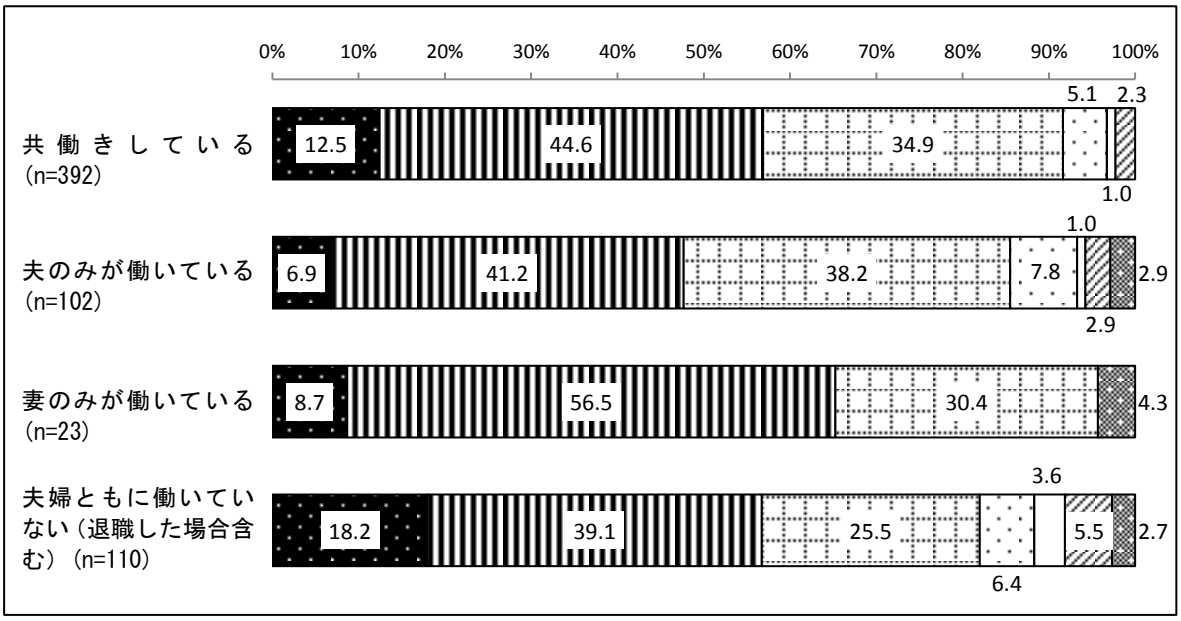
家庭生活における男女の地位の平等感については、「平等である」は 35.6%、『男性が優遇されている』は 51.4%となっている。

【性別・年齢階層別】

「平等である」（男性 40.2%、女性 31.4%）は男性の方が 8.8 ポイント高い。『男性が優遇されている』（男性 42.9%、女性 58.8%）は、女性の方が 15.9 ポイント高い。

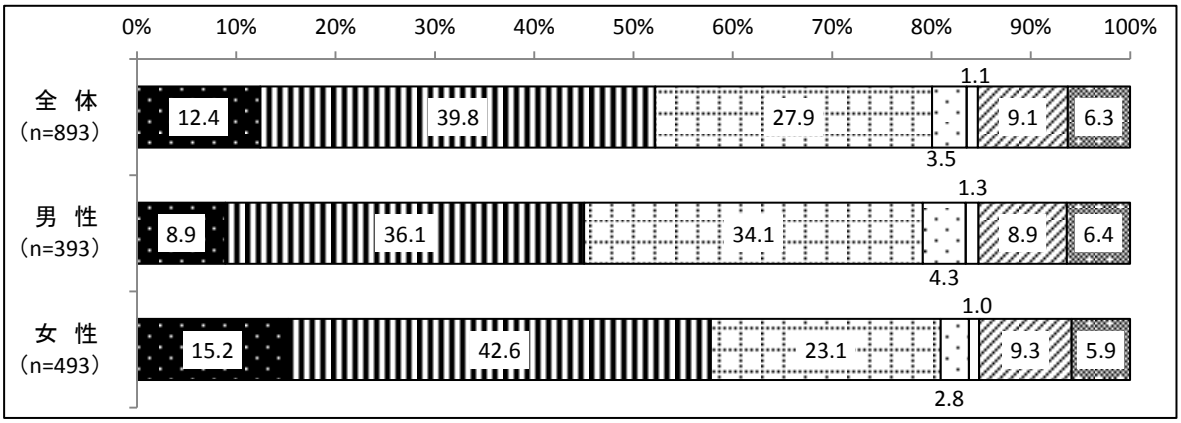
年齢別にみると、全ての年代で「平等である」の割合が女性よりも男性の方が高くなる傾向が見られた。また、男女ともに中～高齢層で『男性が優遇されている』の割合が高く、60 歳代（男性 51.6%、女性 69.7%）、50 歳代（男性 49.2%、女性 64.6%）、の順になっている。

【就労状況別】



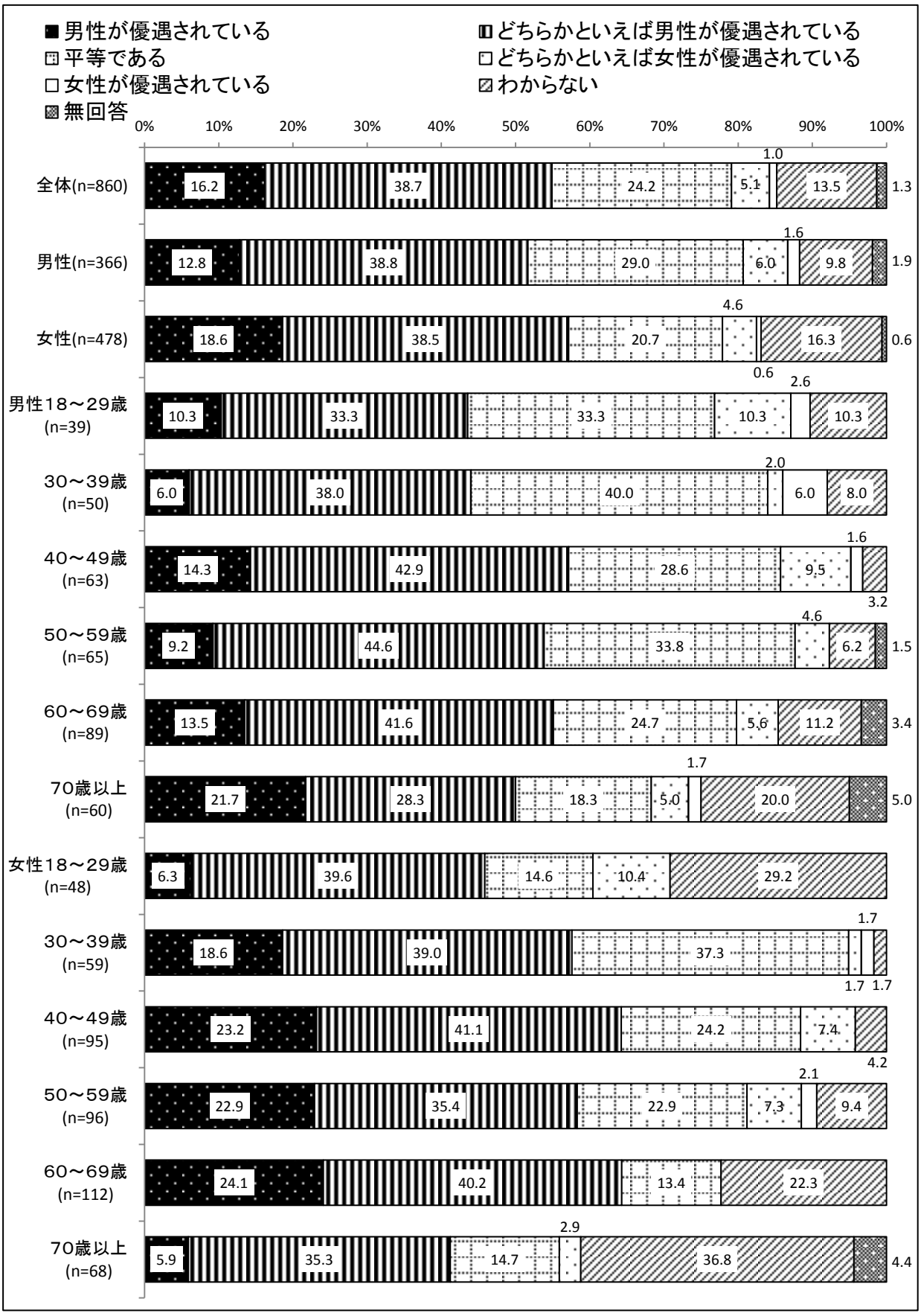
就労状況による回答状況は、あまり違いのない結果となっている。

【前回調査（平成 23 年度）との比較】



「平等である」（今回 35.6%、前回 27.9%）は、前回より 7.7 ポイント増加した。『男性が優遇されている』は前回との差はほとんど見られない。

②職場の中で


■男性が優遇されている
▨どちらかといえば男性が優遇されている
□平等である
▫どちらかといえば女性が優遇されている
□女性が優遇されている
▨わからない
▩無回答
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
全体(n=860) 16.2 38.7 24.2 5.1 1.0 13.5 1.3
男性(n=366) 12.8 38.8 29.0 6.0 1.6 9.8 1.9
女性(n=478) 18.6 38.5 20.7 4.6 16.3 0.6
男性18～29歳 (n=39) 10.3 33.3 33.3 10.3 0.6 2.6 10.3
30～39歳 (n=50) 6.0 38.0 40.0 2.0 6.0 8.0
40～49歳 (n=63) 14.3 42.9 28.6 9.5 1.6 3.2
50～59歳 (n=65) 9.2 44.6 33.8 4.6 6.2 1.5
60～69歳 (n=89) 13.5 41.6 24.7 5.6 11.2 3.4
70歳以上 (n=60) 21.7 28.3 18.3 5.0 1.7 20.0 5.0
女性18～29歳 (n=48) 6.3 39.6 14.6 10.4 29.2
30～39歳 (n=59) 18.6 39.0 37.3 1.7 1.7 1.7
40～49歳 (n=95) 23.2 41.1 24.2 7.4 4.2
50～59歳 (n=96) 22.9 35.4 22.9 7.3 2.1 9.4
60～69歳 (n=112) 24.1 40.2 13.4 22.3
70歳以上 (n=68) 5.9 35.3 14.7 2.9 36.8 4.4

【全体結果】

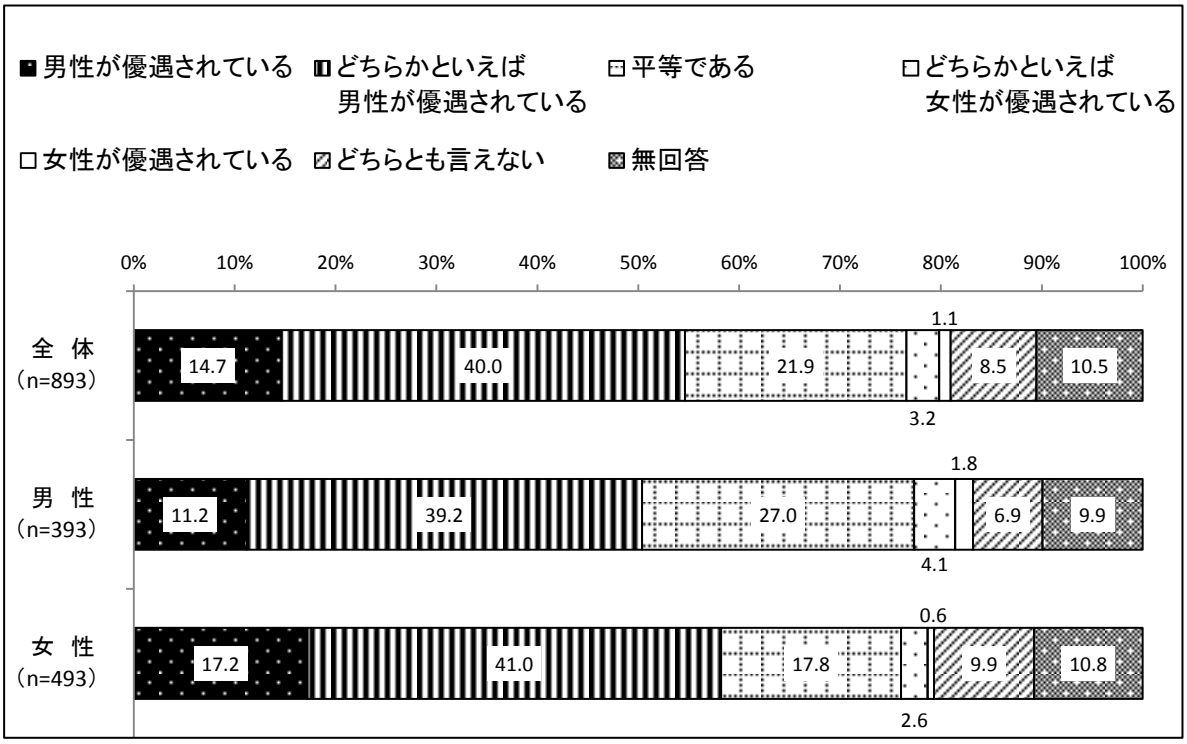
職場における男女の地位の平等感については、「平等である」は 24.2%、『男性が優遇されている』が 54.9%で過半数を占めている。

【性別・年齢階層別】

「平等である」（男性 29.0%、女性 20.7%）は、男性の方が 8.3 ポイント高い。『男性が優遇されている』（男性 51.6%、女性 57.1%）は、女性の方が 5.5 ポイント高い。

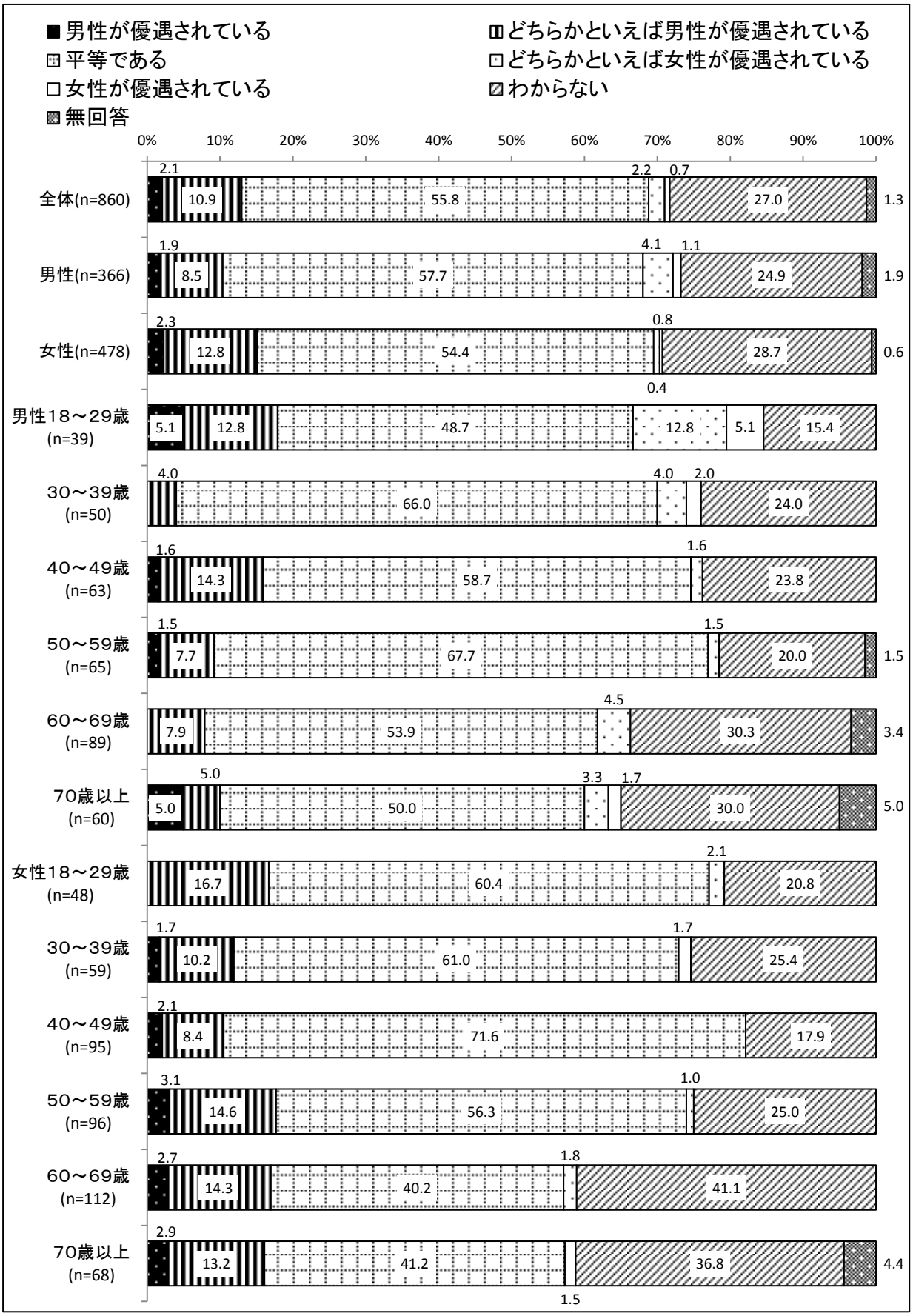
年齢別にみると、「平等である」は、30 歳代（男性 40.0%、女性 37.3%）の割合が 1 番高く、『男性が優遇されている』は、女性の 30 歳代（57.6%）と、40 歳代（男性 57.2%、女性 64.3%）、50 歳代（男性 53.8%、女性 58.3%）、60 歳代（男性 55.1%、女性 64.3%）で過半数を超えている。

【前回調査（平成 23 年度）との比較】



「平等である」（今回 24.2%、前回 21.9%）は前回よりも 2.3 ポイント増加した。『男性が優遇されている』は、前回との差はほとんどみられない。

③学校教育の場で


■男性が優遇されている
▥どちらかといえば男性が優遇されている
▦平等である
▣どちらかといえば女性が優遇されている
□女性が優遇されている
▨わからない
▩無回答
0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
全体(n=860) 2.1 10.9 55.8 2.2 0.7 27.0 1.3
男性(n=366) 1.9 8.5 57.7 4.1 1.1 24.9 1.9
女性(n=478) 2.3 12.8 54.4 0.8 28.7 0.6
男性18～29歳 (n=39) 0.4 5.1 12.8 48.7 12.8 5.1 15.4
30～39歳 (n=50) 4.0 66.0 4.0 2.0 24.0
40～49歳 (n=63) 1.6 14.3 58.7 1.6 23.8
50～59歳 (n=65) 1.5 7.7 67.7 1.5 20.0 1.5
60～69歳 (n=89) 7.9 53.9 4.5 30.3 3.4
70歳以上 (n=60) 5.0 5.0 50.0 3.3 1.7 30.0 5.0
女性18～29歳 (n=48) 16.7 60.4 2.1 20.8
30～39歳 (n=59) 1.7 10.2 61.0 1.7 25.4
40～49歳 (n=95) 2.1 8.4 71.6 17.9
50～59歳 (n=96) 3.1 14.6 56.3 1.0 25.0
60～69歳 (n=112) 2.7 14.3 40.2 1.8 41.1
70歳以上 (n=68) 2.9 13.2 41.2 36.8 4.4 1.5

【全体結果】

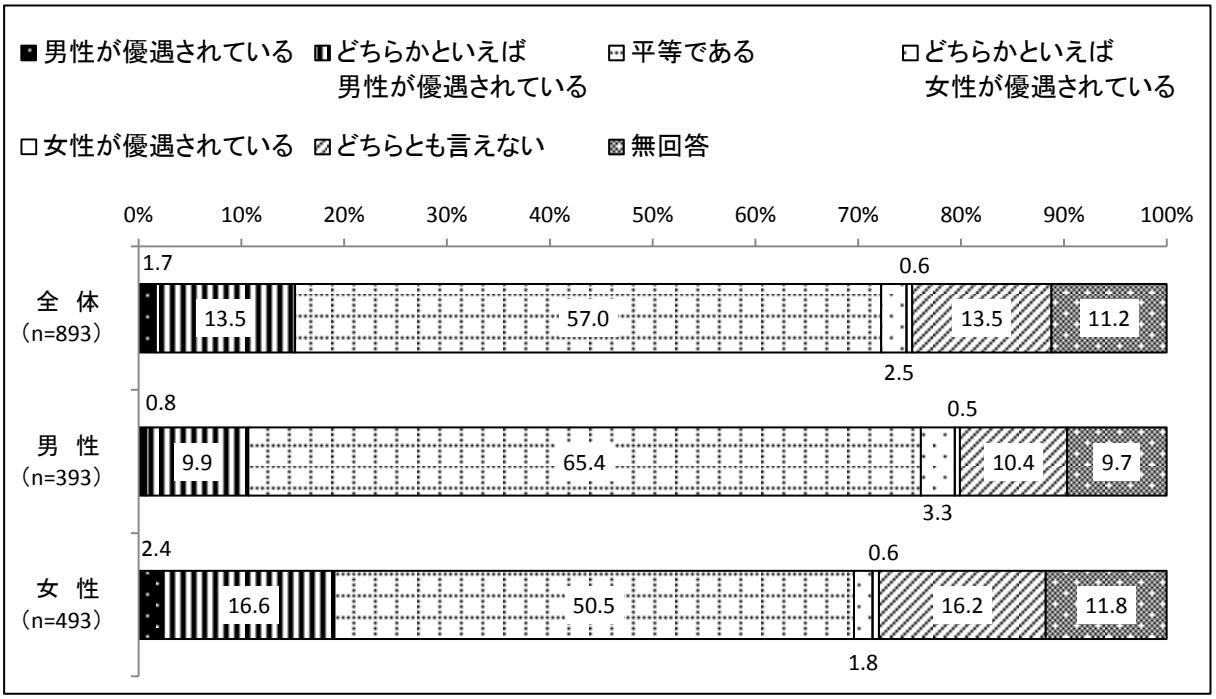
学校教育における男女の地位の平等感については、「平等である」が 55.8%で全８項目の中で最も割合が高い。『男性が優遇されている』は 13.0%、『女性が優遇されている』は 2.9%、「わからない」が 27.0%であった。

【性別・年齢階層別】

「平等である」（男性 57.7%、女性 54.4%）は、男性の方が 3.3 ポイント高い。『男性が優遇されている』（男性 10.4%、女性 15.1%）は、女性の方が 4.7 ポイント高い。

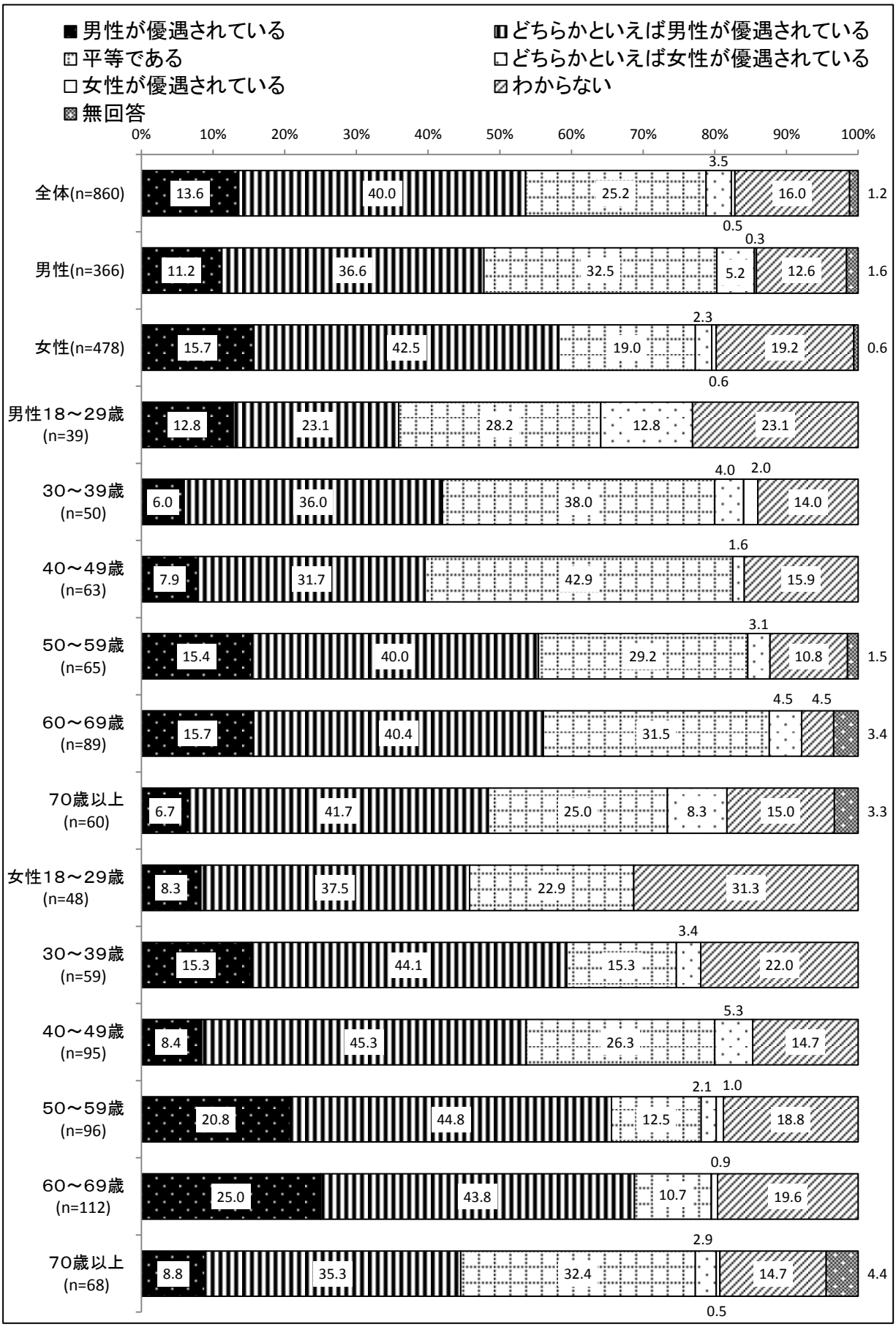
年齢別にみると、「平等である」は、男性の 50 歳代（67.7%）、30 歳代（66.0%）と、女性の 40 歳代（71.6%）、30 歳代（61.0%）で特に高くなっている。

【前回調査（平成 23 年度）との比較】



「平等である」（今回 55.8%、前回 57%）は 1.2 ポイント減少したが、『男性が優遇されている』（今回 13.0%、前回 15.2%）が 2.2 ポイント、『女性が優遇されている』（今回 2.9%、前回 3.1%）が 0.2 ポイントそれぞれ減少し、「わからない」と「無回答」の合計（今回 28.3%、前回 24.7%）が 3.6 ポイント増加している結果となった。

④地域社会（自治会など）の中で



【全体結果】

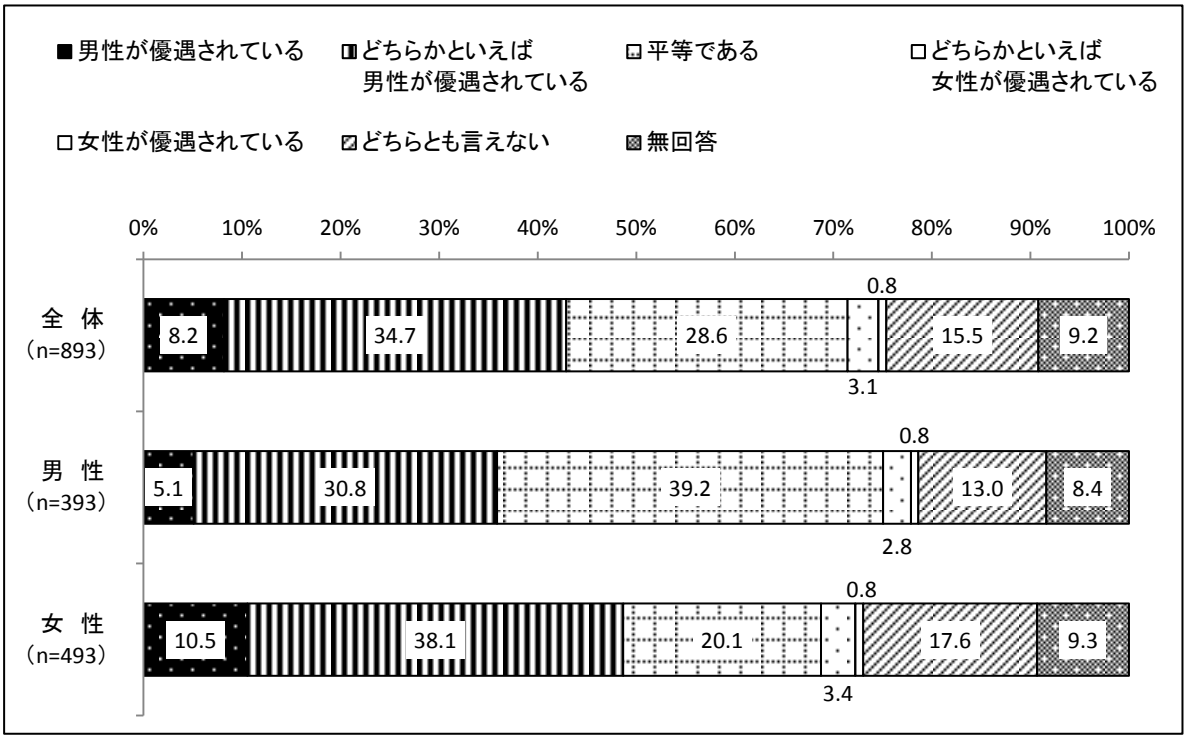
地域社会における男女の地位の平等感については、「平等である」は 25.2%、『男性が優遇されている』が 53.6%と過半数を占めている。

【性別・年齢階層別】

「平等である」（男性 32.5%、女性 19.0%）は、男性の方が 13.5 ポイント高い。『男性が優遇されている』（男性 47.8%、女性 58.2%）は、女性の方が 10.4 ポイント高い。

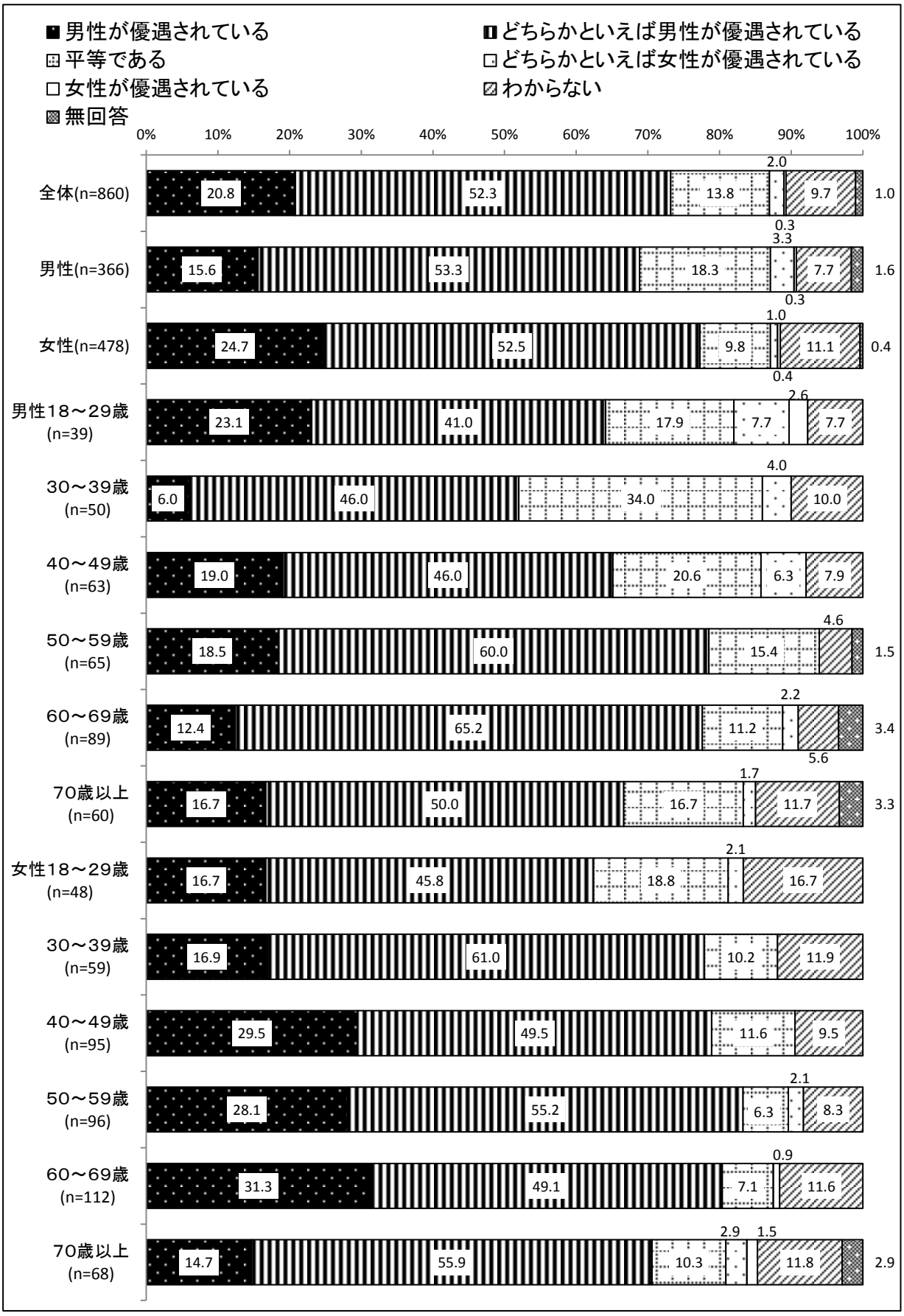
年齢別にみると、『男性が優遇されている』の割合が、男女ともに 50 歳代（男性 55.4%、女性 65.6%）と 60 歳代（男性 56.1%、女性 68.8%）で特に高くなっている。

【前回調査（平成 23 年度）との比較】



「平等である」（今回 25.2%、前回 28.6%）は前回より 3.4 ポイント減少し、『男性が優遇されている』（今回 53.6%、前回 42.9%）が 10.7 ポイント増加した。

⑤社会通念・慣習・しきたりの中で



【全体結果】

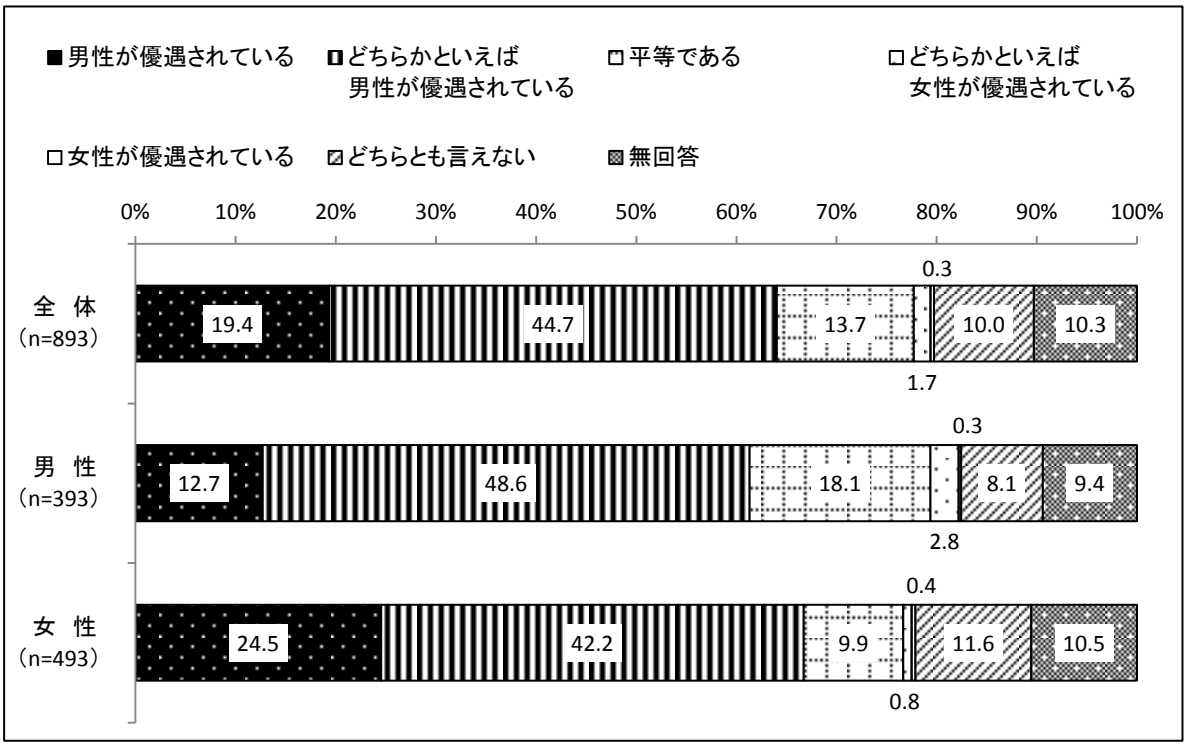
社会通念・慣習・しきたりにおける男女の地位の平等感については、「平等である」が 13.8%で全 8 項目の中で最も低い割合となった。対して、『男性が優遇されている』は 73.1%で、全 8 項目の中で最も高い割合となった。

【性別・年齢階層別】

「平等である」（男性 18.3%、女性 9.8%）は、男性の方が 8.5 ポイント高い。『男性が優遇されている』（男性 68.9%、女性 77.2%）は、女性の方が 8.3 ポイント高い。

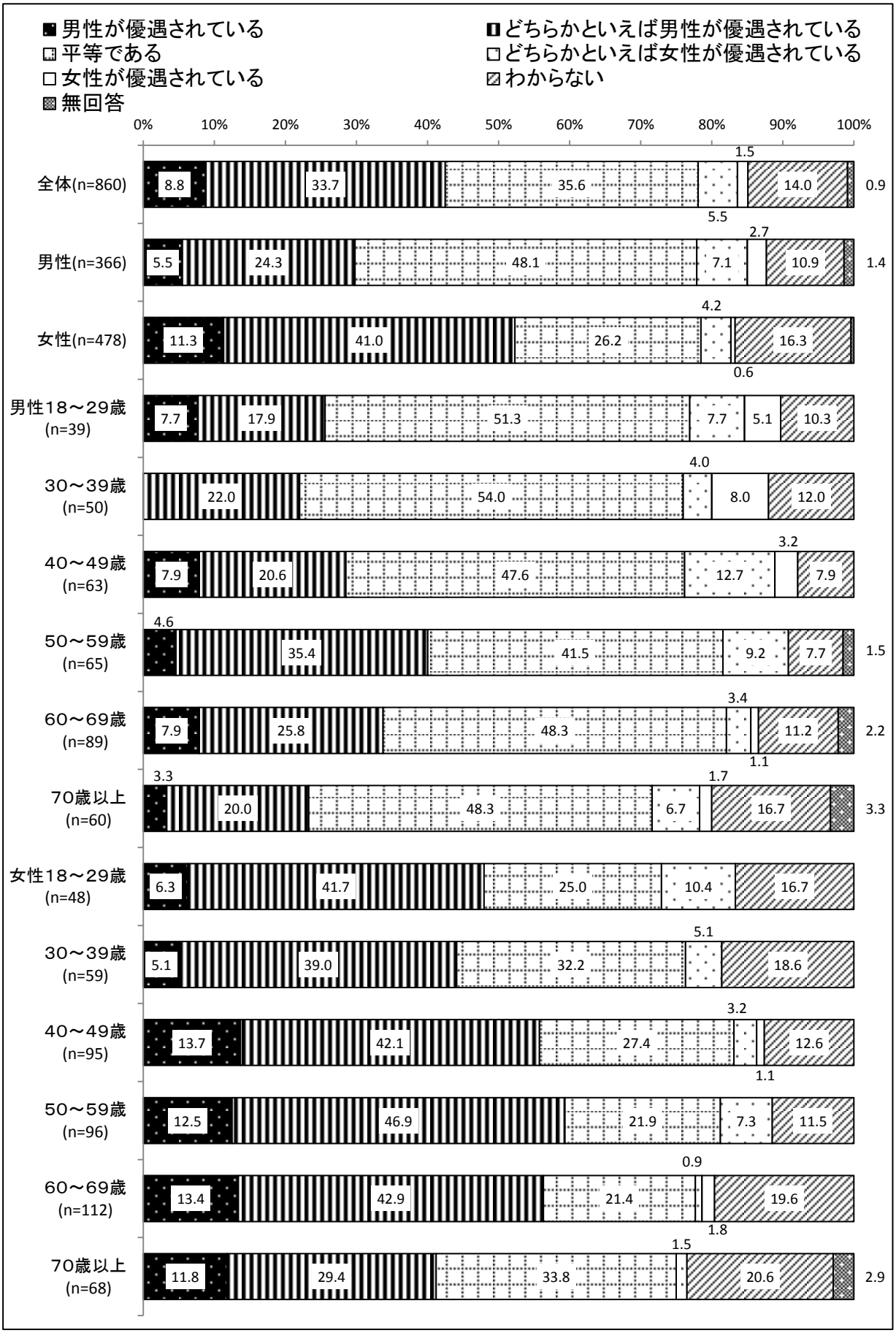
年齢別にみると、男女ともに 50 歳代（男性 78.5%、女性 83.3%）、60 歳代（男性 77.6%、女性 80.4%）で『男性が優遇されている』の割合が高くなっている。

【前回調査（平成 23 年度）との比較】



『男性が優遇されている』（今回 73.1%、前回 64.1%）が前回より 9 ポイント増加した。「平等である」と『女性が優遇されている』は、前回との差はほとんどみられない。

⑥法律や制度の面で



男性が優遇されている
どちらかといえば男性が優遇されている
平等である
どちらかといえば女性が優遇されている
女性が優遇されている
わからない
無回答
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
全体(n=860)
8.8
33.7
35.6
5.5
1.5
14.0
0.9
男性(n=366)
5.5
24.3
48.1
7.1
2.7
10.9
1.4
女性(n=478)
11.3
41.0
26.2
4.2
0.6
16.3
男性18～29歳 (n=39)
7.7
17.9
51.3
7.7
5.1
10.3
30～39歳 (n=50)
22.0
54.0
4.0
8.0
12.0
40～49歳 (n=63)
7.9
20.6
47.6
12.7
3.2
7.9
50～59歳 (n=65)
4.6
35.4
41.5
9.2
7.7
1.5
60～69歳 (n=89)
7.9
25.8
48.3
3.4
1.1
11.2
2.2
70歳以上 (n=60)
3.3
20.0
48.3
6.7
1.7
16.7
3.3
女性18～29歳 (n=48)
6.3
41.7
25.0
10.4
16.7
30～39歳 (n=59)
5.1
39.0
32.2
5.1
18.6
40～49歳 (n=95)
13.7
42.1
27.4
3.2
1.1
12.6
50～59歳 (n=96)
12.5
46.9
21.9
7.3
11.5
60～69歳 (n=112)
13.4
42.9
21.4
0.9
1.8
19.6
70歳以上 (n=68)
11.8
29.4
33.8
1.5
20.6
2.9

【全体結果】

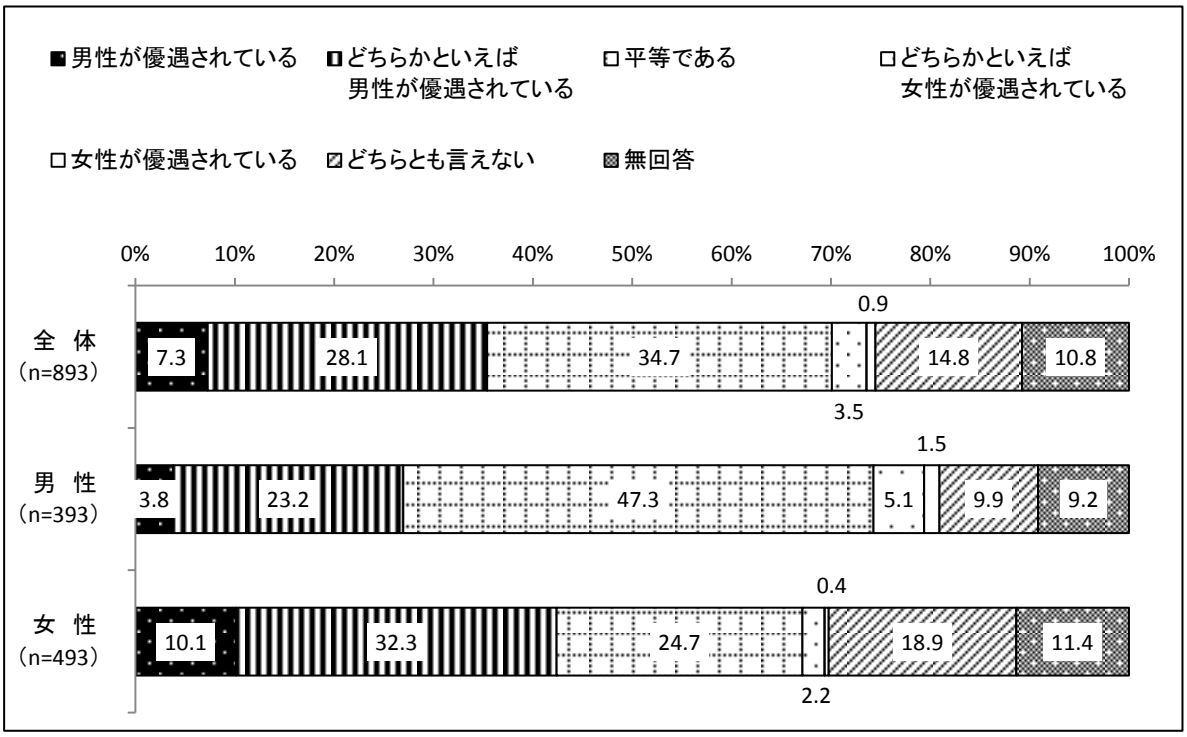
法律や制度における男女の地位の平等感については、「平等である」は 35.6%、『男性が優遇されている』が 42.5%である。

【性別・年齢階層別】

「平等である」（男性 48.1%、女性 26.2%）は、男性の方が 21.9 ポイント高く、『男性が優遇されている』（男性 29.8%、女性 52.3%）は、女性の方が 22.5 ポイント高くなっており、男女の意識の差が大きい。

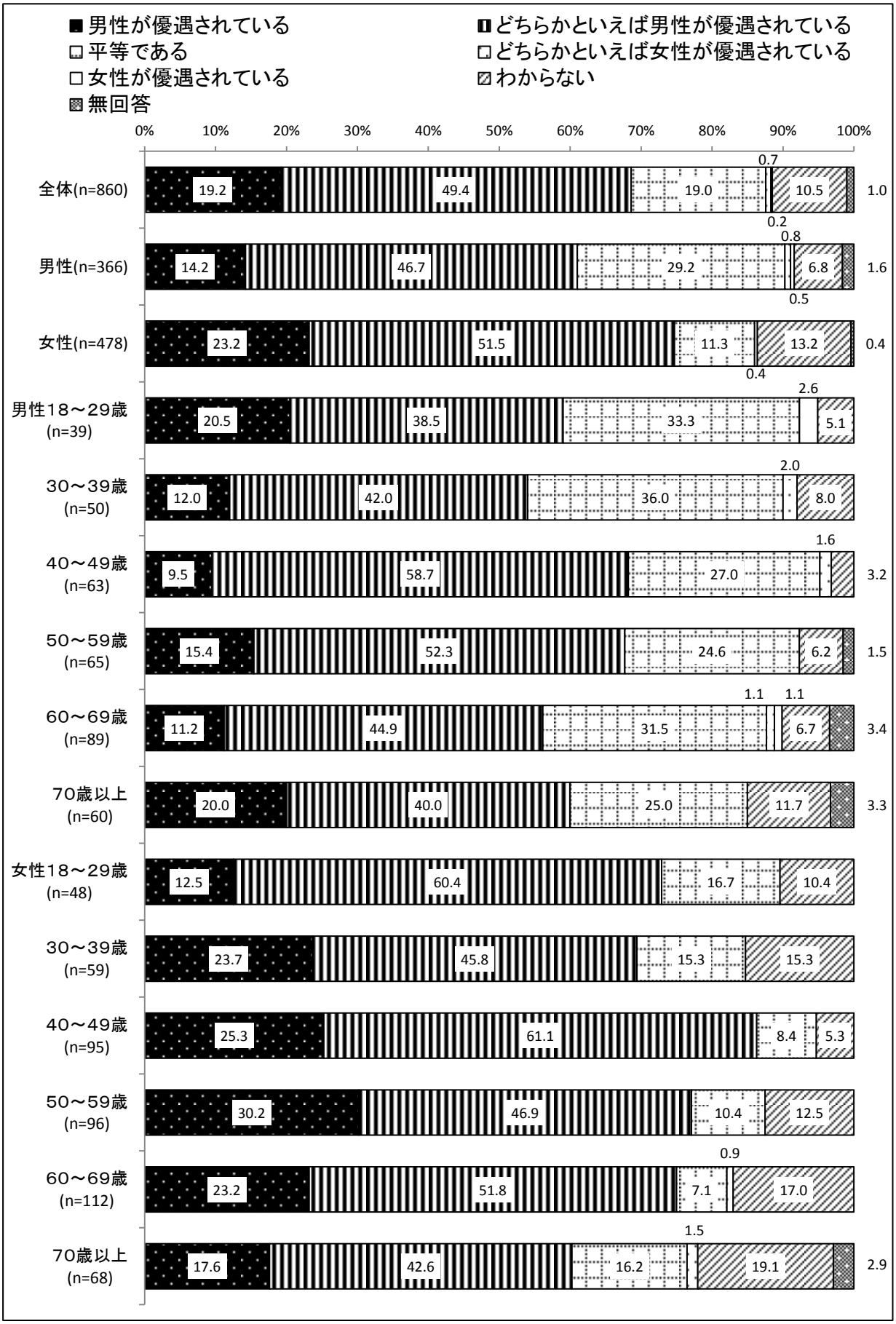
年齢別にみると、「平等である」は、30 歳代の男性（54.0%）の割合が最も高く、『男性が優遇されている』は、50 歳代の女性（59.4%）が最も高い。

【前回調査（平成 23 年度）との比較】



前回との差はほとんどみられない。

⑦政治・経済活動の場で


■男性が優遇されている
■どちらかといえば男性が優遇されている
□平等である
□どちらかといえば女性が優遇されている
□女性が優遇されている
▨わからない
▩無回答
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
全体(n=860)
19.2
49.4
19.0
0.7
10.5
1.0
男性(n=366)
14.2
46.7
29.2
0.2
0.8
6.8
1.6
女性(n=478)
23.2
51.5
11.3
0.5
13.2
0.4
男性18～29歳 (n=39)
20.5
38.5
33.3
0.4
2.6
5.1
30～39歳 (n=50)
12.0
42.0
36.0
2.0
8.0
40～49歳 (n=63)
9.5
58.7
27.0
1.6
3.2
50～59歳 (n=65)
15.4
52.3
24.6
6.2
1.5
60～69歳 (n=89)
11.2
44.9
31.5
1.1
1.1
6.7
3.4
70歳以上 (n=60)
20.0
40.0
25.0
11.7
3.3
女性18～29歳 (n=48)
12.5
60.4
16.7
10.4
30～39歳 (n=59)
23.7
45.8
15.3
15.3
40～49歳 (n=95)
25.3
61.1
8.4
5.3
50～59歳 (n=96)
30.2
46.9
10.4
12.5
60～69歳 (n=112)
23.2
51.8
0.9
7.1
17.0
70歳以上 (n=68)
17.6
42.6
16.2
1.5
19.1
2.9

【全体結果】

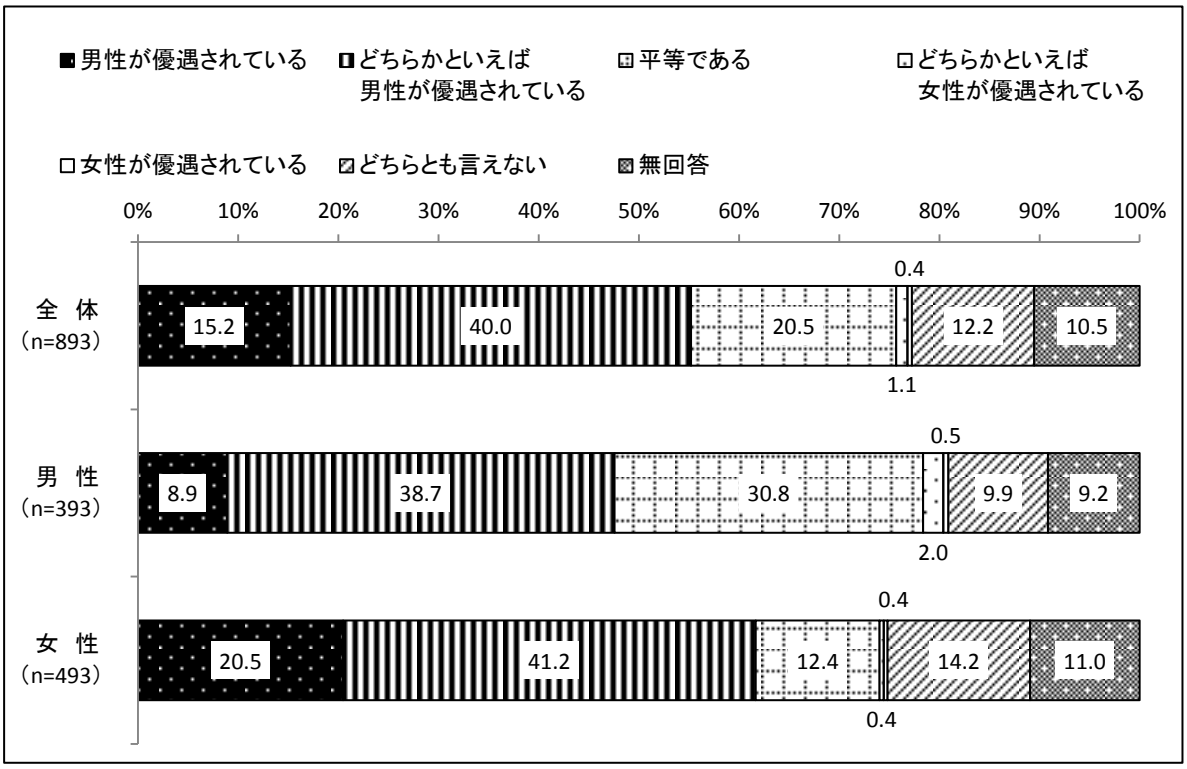
政治・経済活動の場における男女の地位の平等感について、「平等である」は 19.0%で、『男性が優遇されている』が 68.6%となっており、不平等感が強い傾向にある。

【性別・年齢階層別】

「平等である」（男性 29.2%、女性 11.3%）は、男性の方が 17.9 ポイント高い。『男性が優遇されている』（男性 60.9%、女性が 74.7%）は、女性の方が 13.8 ポイント高くなっている。

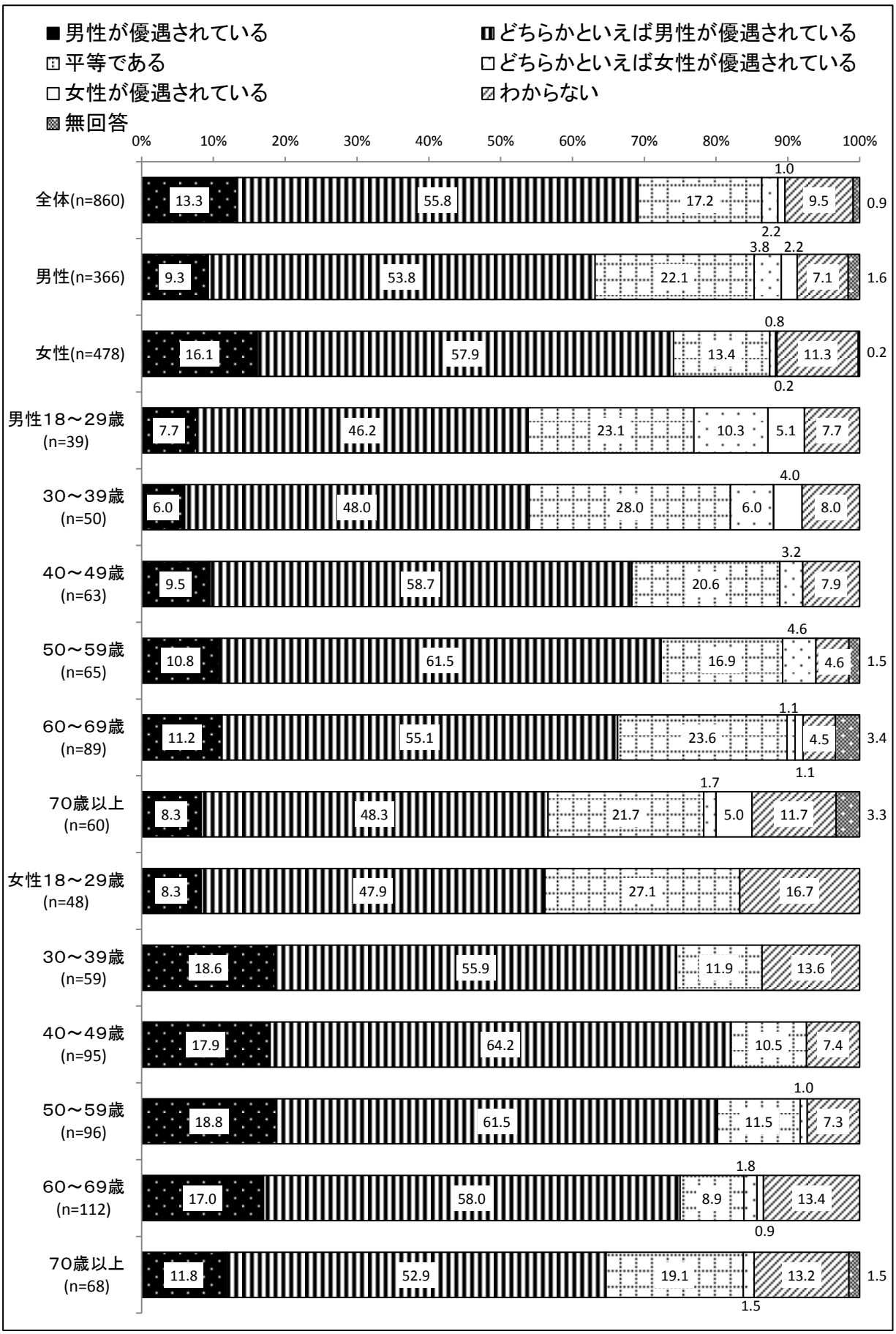
年齢別にみると、すべての年齢層で『男性が優遇されている』の割合が過半数を占めている。特に女性の 40 歳代（86.4%）が最も高い割合となっている。

【前回調査（平成 23 年度）との比較】



「平等である」（今回 19.0%、前回 20.5%）は、前回より 1.5 ポイント減少し、『男性が優遇されている』（今回 68.6%、前回 55.2%）が 13.4 ポイント増加し、不平等感が増加傾向である。

⑧社会全体として


■男性が優遇されている
▥どちらかといえば男性が優遇されている
▦平等である
□どちらかといえば女性が優遇されている
□女性が優遇されている
▨わからない
▩無回答
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
全体(n=860)
13.3
55.8
17.2
1.0
9.5
0.9
2.2
男性(n=366)
9.3
53.8
22.1
3.8
2.2
7.1
1.6
女性(n=478)
16.1
57.9
13.4
0.8
11.3
0.2
0.2
男性18～29歳 (n=39)
7.7
46.2
23.1
10.3
5.1
7.7
30～39歳 (n=50)
6.0
48.0
28.0
6.0
4.0
8.0
40～49歳 (n=63)
9.5
58.7
20.6
3.2
7.9
50～59歳 (n=65)
10.8
61.5
16.9
4.6
4.6
1.5
60～69歳 (n=89)
11.2
55.1
23.6
1.1
4.5
3.4
1.1
70歳以上 (n=60)
8.3
48.3
21.7
1.7
5.0
11.7
3.3
女性18～29歳 (n=48)
8.3
47.9
27.1
16.7
30～39歳 (n=59)
18.6
55.9
11.9
13.6
40～49歳 (n=95)
17.9
64.2
10.5
7.4
50～59歳 (n=96)
18.8
61.5
11.5
1.0
7.3
60～69歳 (n=112)
17.0
58.0
8.9
1.8
13.4
0.9
70歳以上 (n=68)
11.8
52.9
19.1
13.2
1.5
1.5

【全体結果】

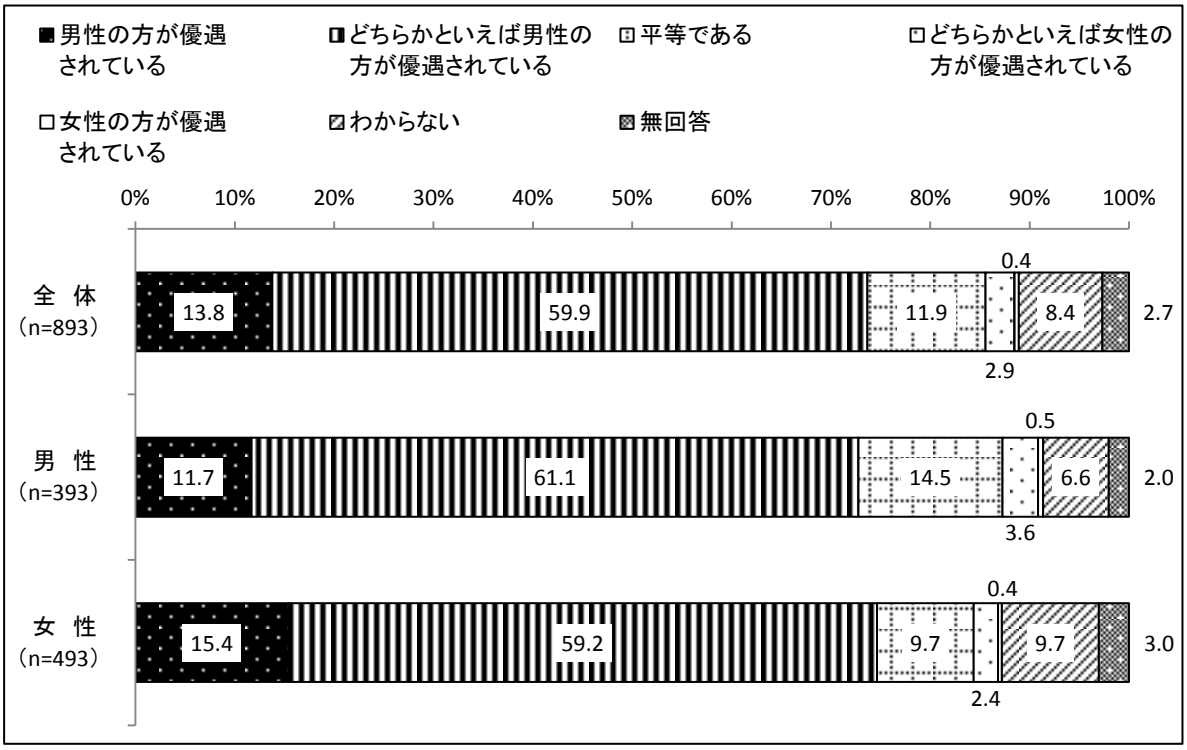
社会全体としての男女の地位の平等感について、『男性が優遇されている』は 69.1%で、全 8 項目の中で 2 番目に高い割合となった。「平等である」は 17.2%であり、不平等感が強い傾向にある。

【性別・年齢階層別】

「平等である」（男性 22.1%、女性 13.4%）は、男性の方が 8.7 ポイント高い。『男性が優遇されている』（男性 63.1%、女性 74.0%）は、女性の方が 10.9 ポイント高くなっている。女性の方が不平等感を強く感じている。

年齢別にみると、『男性が優遇されている』は、男性は 50 歳代（72.3%）、女性では 40 歳代（82.1%）が最も高い割合となった。「平等である」は、男女ともに若い世代の方が、高い割合を示す結果となった。

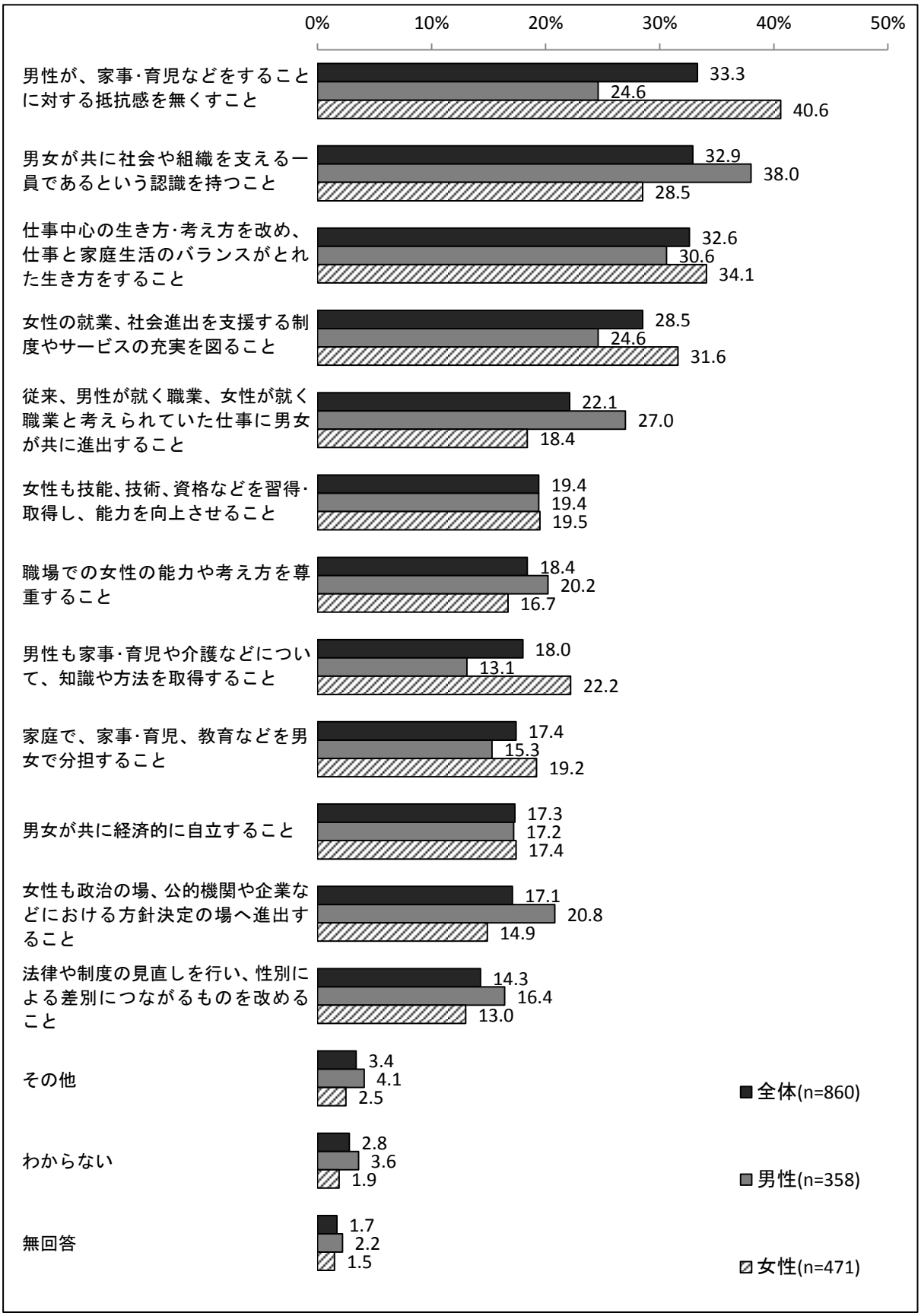
【前回調査（平成 23 年度）との比較】



「平等である」（今回 17.2%、前回 11.9%）は、前回より 5.3 ポイント増加している。『男性が優遇されている』（今回 69.1、前回 73.7%）は 4.6 ポイント減少している。

(2) 男女平等社会の実現のために必要なこと

問２　今後、男女が社会のあらゆる分野で平等になるために、必要なことは何だと思いますか。３つまでお選びください。（○は３つまで）



【全体結果】

「男性が家事・育児などをすることに対する抵抗感を無くすこと」（33.3%）の割合が最も高く、次いで「男女がともに社会や組織を支える一員であるという認識を持つこと」（32.9%）、「仕事中心の生き方・考え方を改め、仕事と家庭の生活のバランスがとれた生き方をすること」（32.6%）と続いている。

【性別による結果】

男性では、「男女がともに社会や組織を支える一員であるという認識を持つこと」（38.0%）、女性では「男性が家事・育児などをすることに対する抵抗感を無くすこと」（40.6%）が、それぞれ最も高い割合となった。

男女で最も差が大きいのは、「男性が家事・育児などをすることに対する抵抗感を無くすこと」（男性 24.6%、女性 40.6%）で 16 ポイントの差があった。

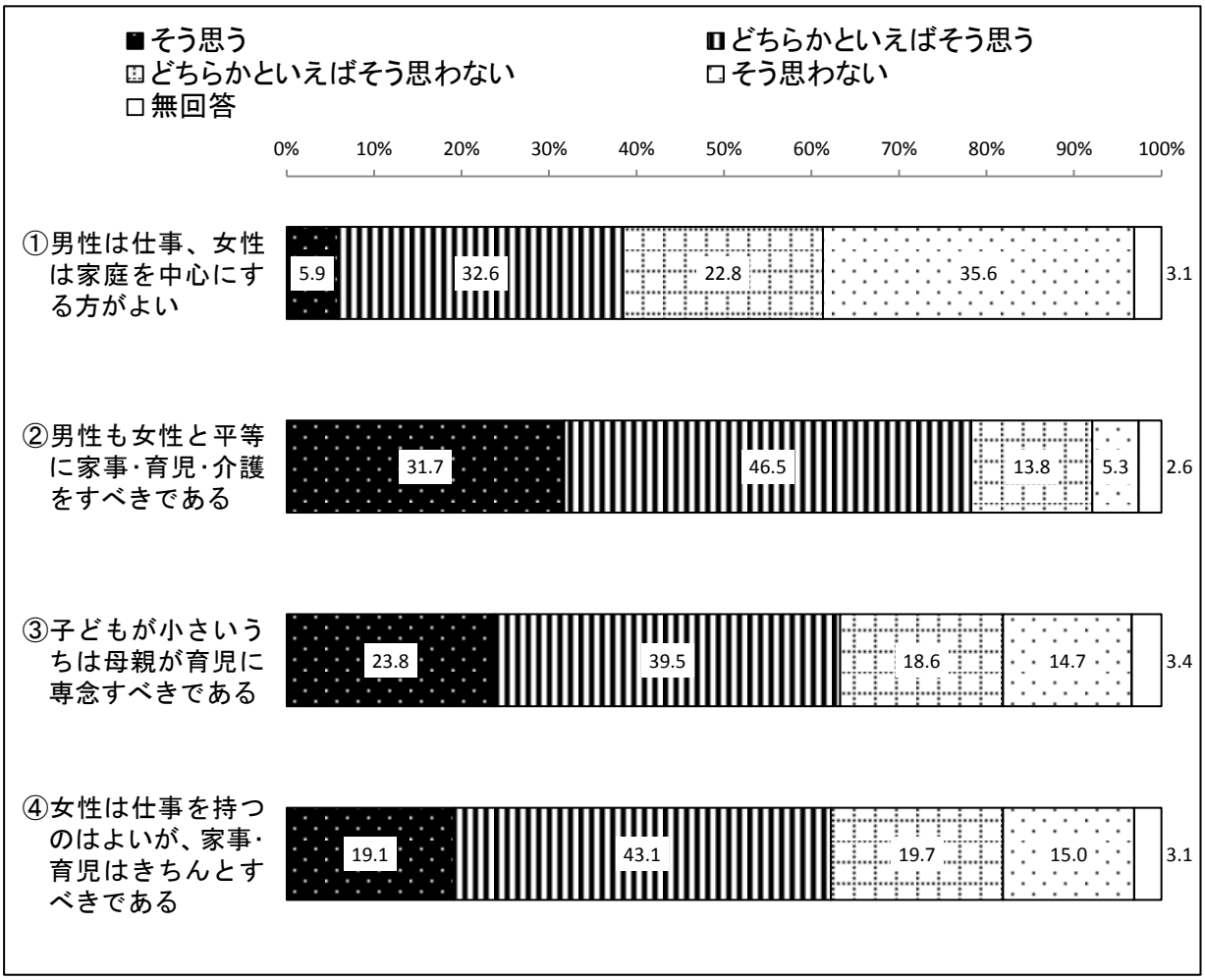
【前回調査との比較】

※この設問は今回の調査から追加した。

２．家庭生活等に関する考え方について

(1) 男性は仕事、女性は家庭という考え方

問３　あなたは次の①～④の考え方について、どのように思いますか。あなたの考え方に最も近いものを項目ごとに○をつけてください。　（n=860）

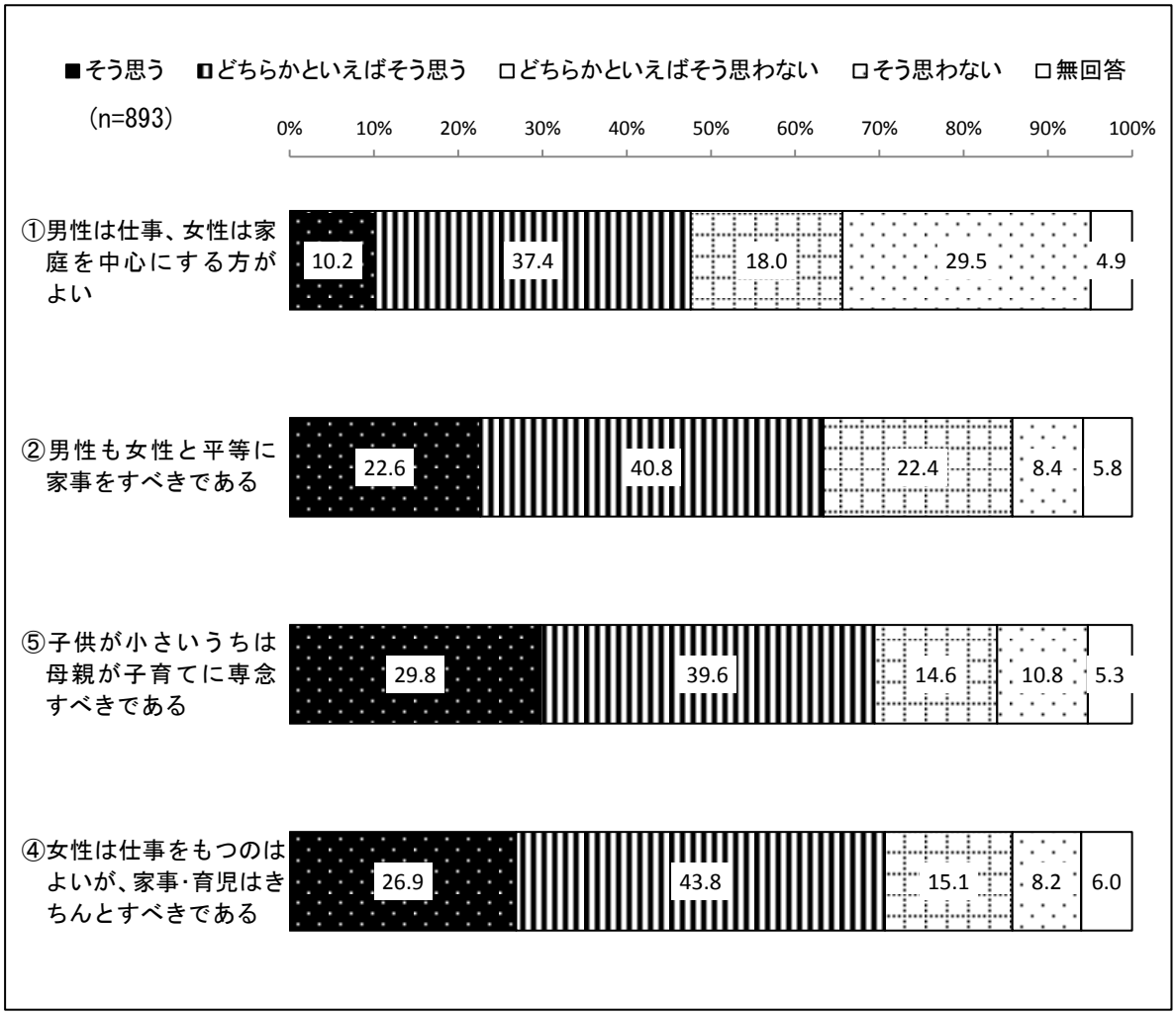


【全体結果】

『そう思う（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計比率、以下同)』の割合が最も高いのは、②「男性も女性と平等に家事・育児・介護をすべきである」（78.2%）となっている。

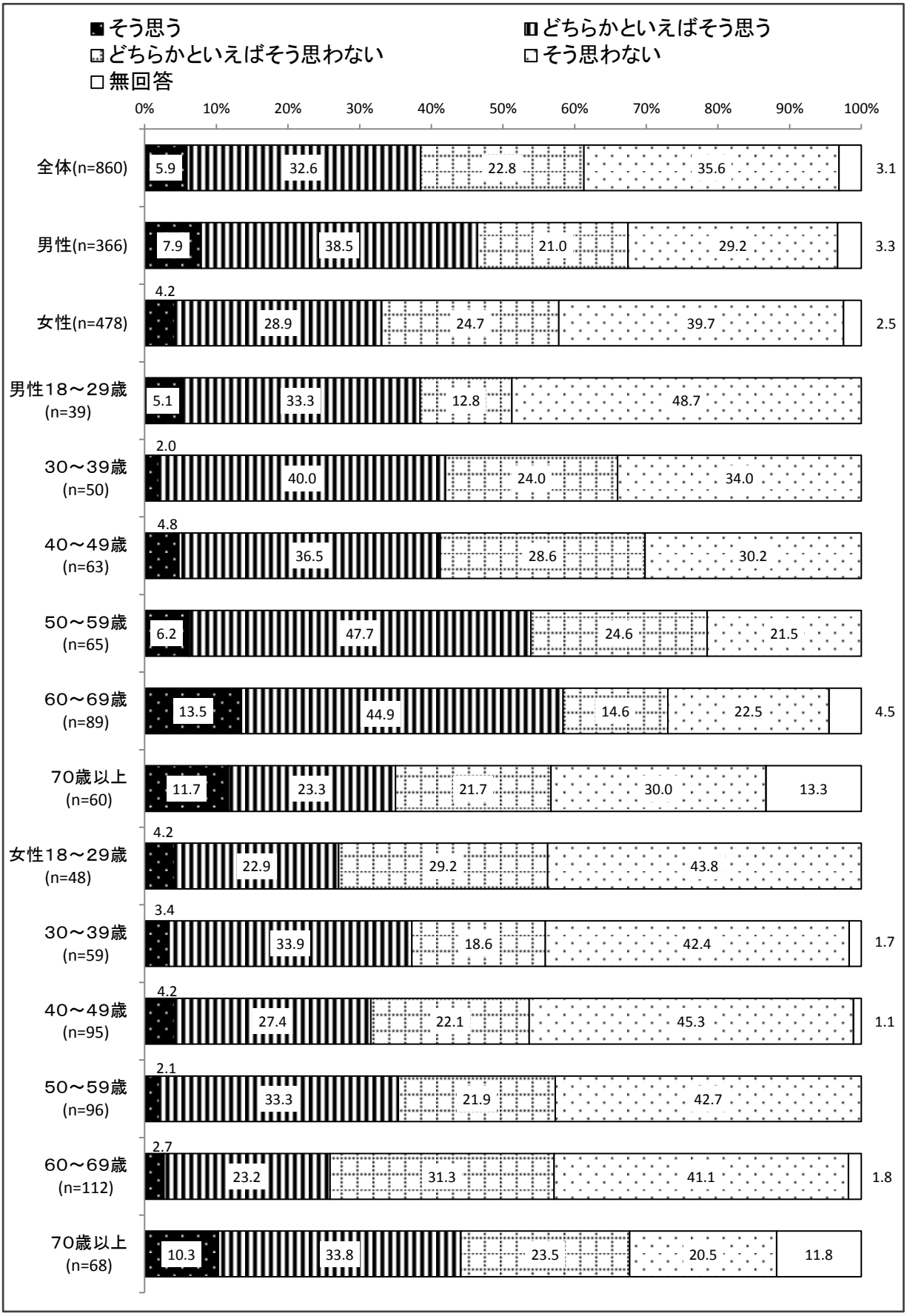
一方、『そう思わない（「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」の合計比率、以下同)』の割合が最も高いのは、①「男性は仕事、女性は家庭を中心にする方がよい」、(58.4%)であった。

【前回調査（平成 23 年度）との比較】



「男性は仕事、女性は家庭を中心にする方がよい」は、前回は『そう思う（47.6%）』の方が『そう思わない（47.5%）』より多かったが、今回は『そう思う（38.5%）』より『そう思わない（58.4%）』の方が多くなった。

①男性は仕事、女性は家庭を中心にする方がよい



【全体結果】

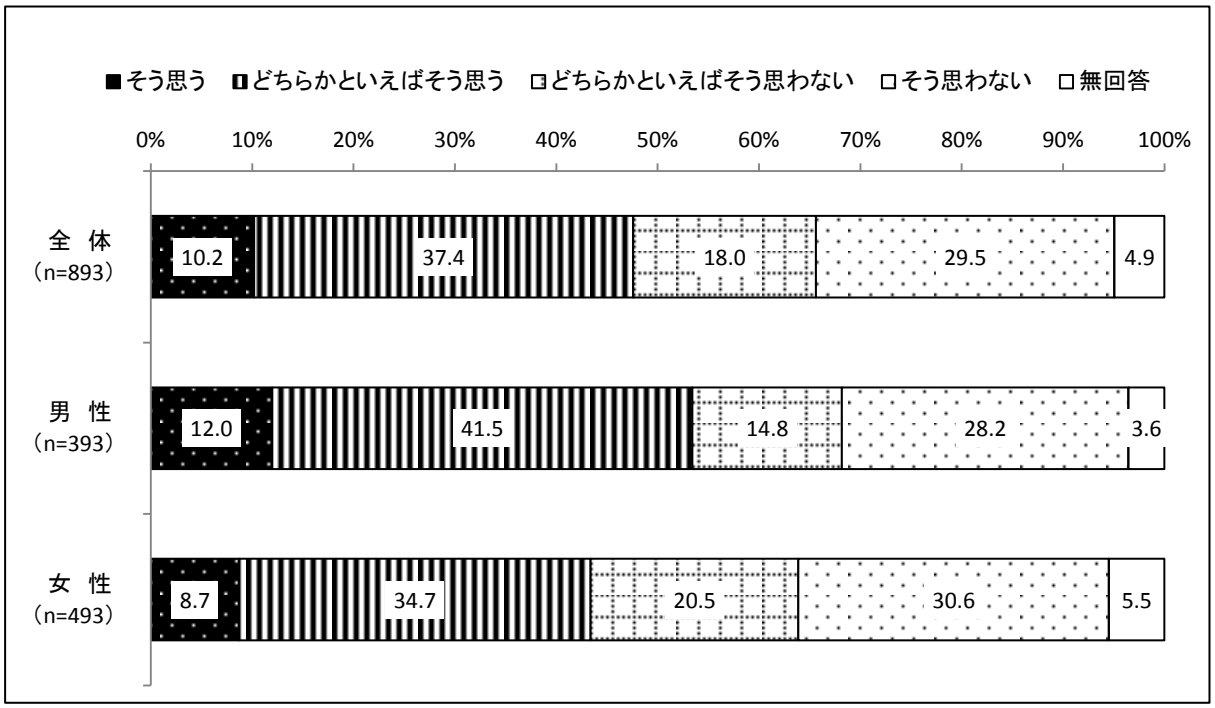
①「男性は仕事、女性は家庭を中心にする方がよい」という考え方に対して、『そう思う』の割合は 38.5%、『そう思わない』は 58.4%となり、『そう思わない』の方が 19.9 ポイント高い。

【性別・年齢階層別】

『そう思う』（男性 46.4%、女性 33.1%）の割合は、男性の方が 13.3 ポイント高い。『そう思わない』（男性 50.2%、女性 64.4%）は、女性の方が 14.2 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、男性は『そう思う』の割合が、70 歳以上を除き年齢が上がるにつれて高くなる傾向にあるが、女性では割合にばらつきがみられた。『そう思わない』は、女性の 18～29 歳（73.0%）が最も高い。

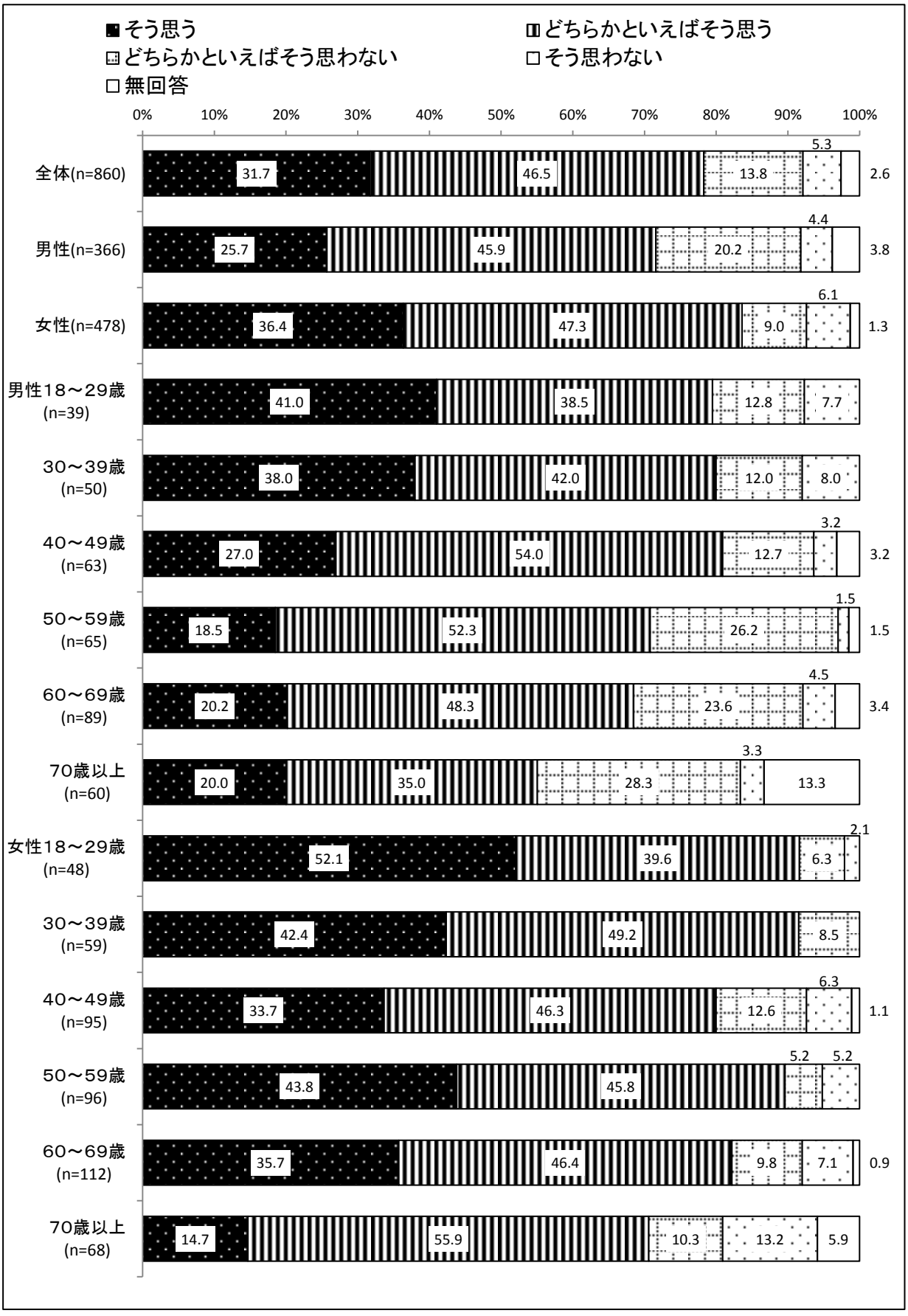
【前回調査（平成 23 年度）との比較】



『そう思う』（今回 38.5%、前回 47.6%）の割合は 9.1 ポイント減少し、『そう思わない』（今回 58.4%、前回 47.5%）が 10.9 ポイント増加した。

前回は『そう思う』と『そう思わない』の割合がほぼ同じであったが、今回は『そう思う』より『そう思わない』が 19.9 ポイント高くなり、前回と意識の変化が見られた。

②男性も女性と平等に家事・育児・介護をすべき



【全体結果】

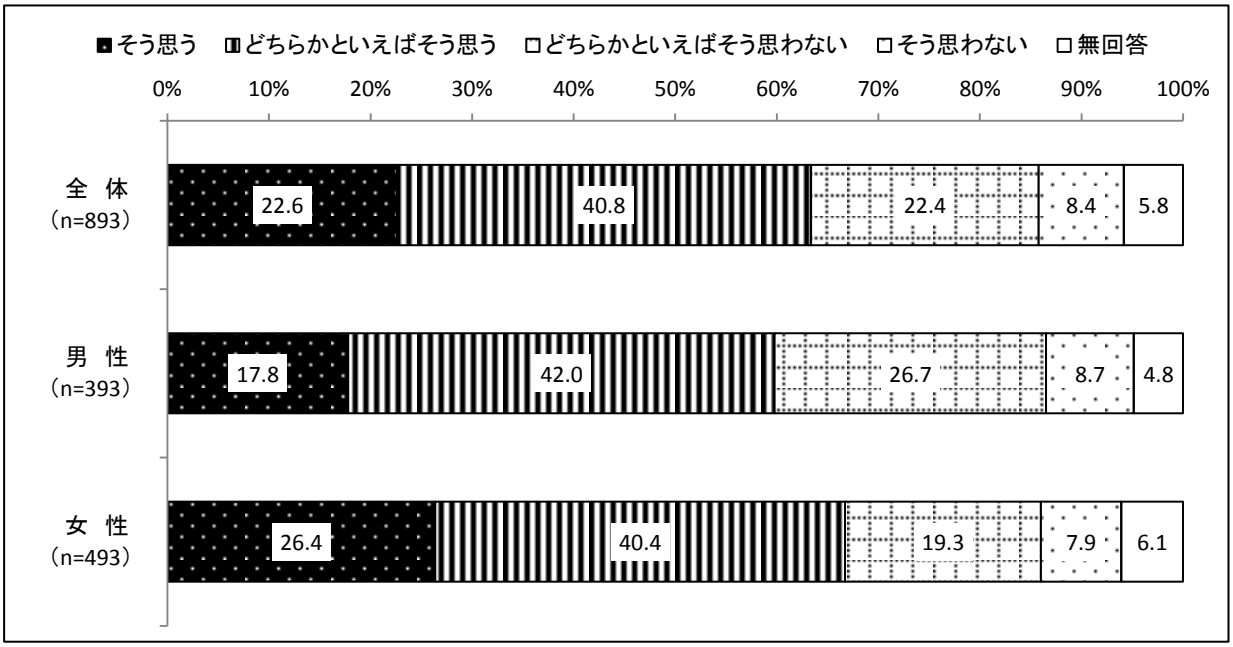
②「男性も女性と平等に家事・育児・介護をすべき」という考え方に、『そう思う』の割合は 78.2%で、全 4 項目中で最も高い割合となった。『そう思わない』は、19.1%となっている。

【性別・年齢階層別】

『そう思う』（男性 71.6%、女性 83.7%）の割合は女性の方が 12.1 ポイント高い。『そう思わない』（男性 24.6%、女性 15.1%）は男性の方が 9.5 ポイント高くなっている

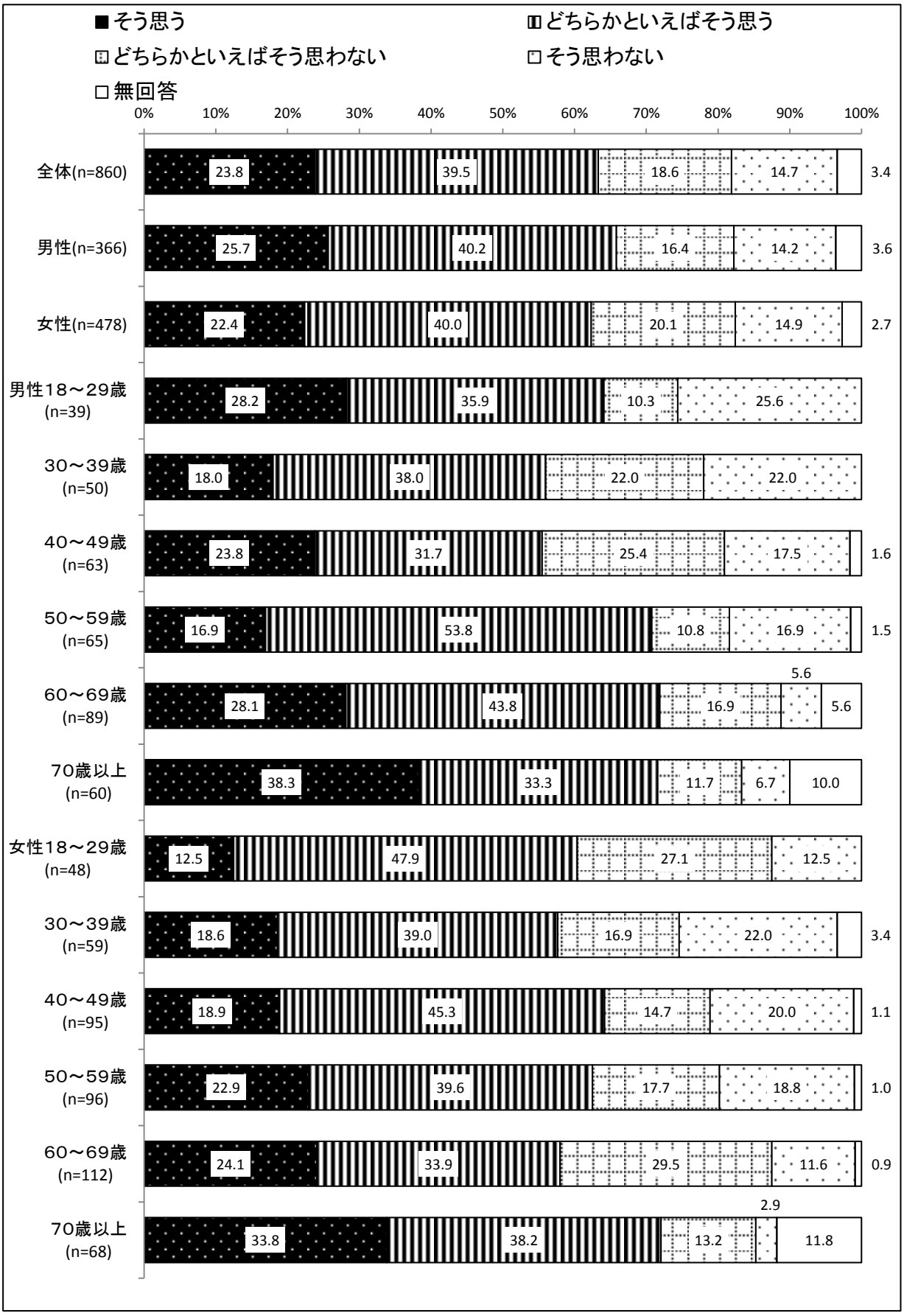
年齢別でみると、男女ともに若い年代で『そう思う』の割合が高い傾向が見られる。

【前回調査（平成 23 年度）との比較】



『そう思う』（今回 78.2%、前回 63.4%）の割合が、前回から 14.8 ポイント増加している。

③子どもが小さいうちは母親が育児に専念すべきである



【全体結果】

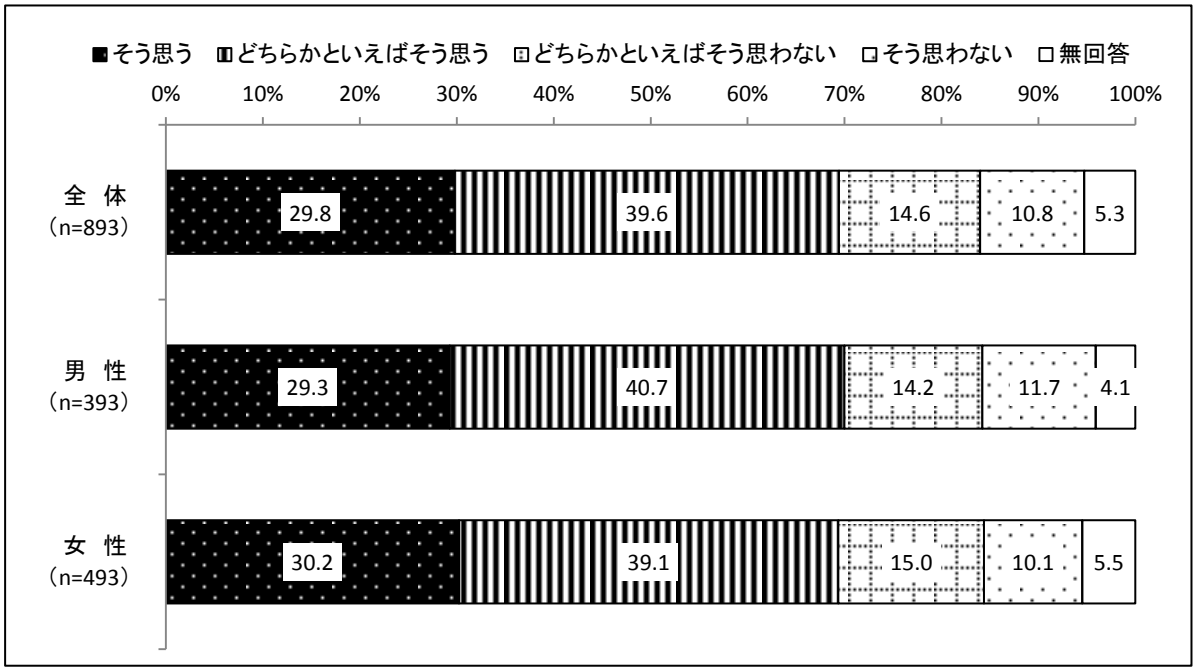
③「子どもが小さいうちは母親が育児に専念すべきである」という考え方に、『そう思う』の割合は 63.3%で、『そう思わない』は、33.3%となっている。

【性別・年齢階層別】

『そう思う』（男性 65.9%、女性 62.4%）の割合と、『そう思わない』（男性 30.6%、女性 35.0%）の割合は男女でほとんど差が見られないが、男女とも『そう思う』の割合が高い結果となった。

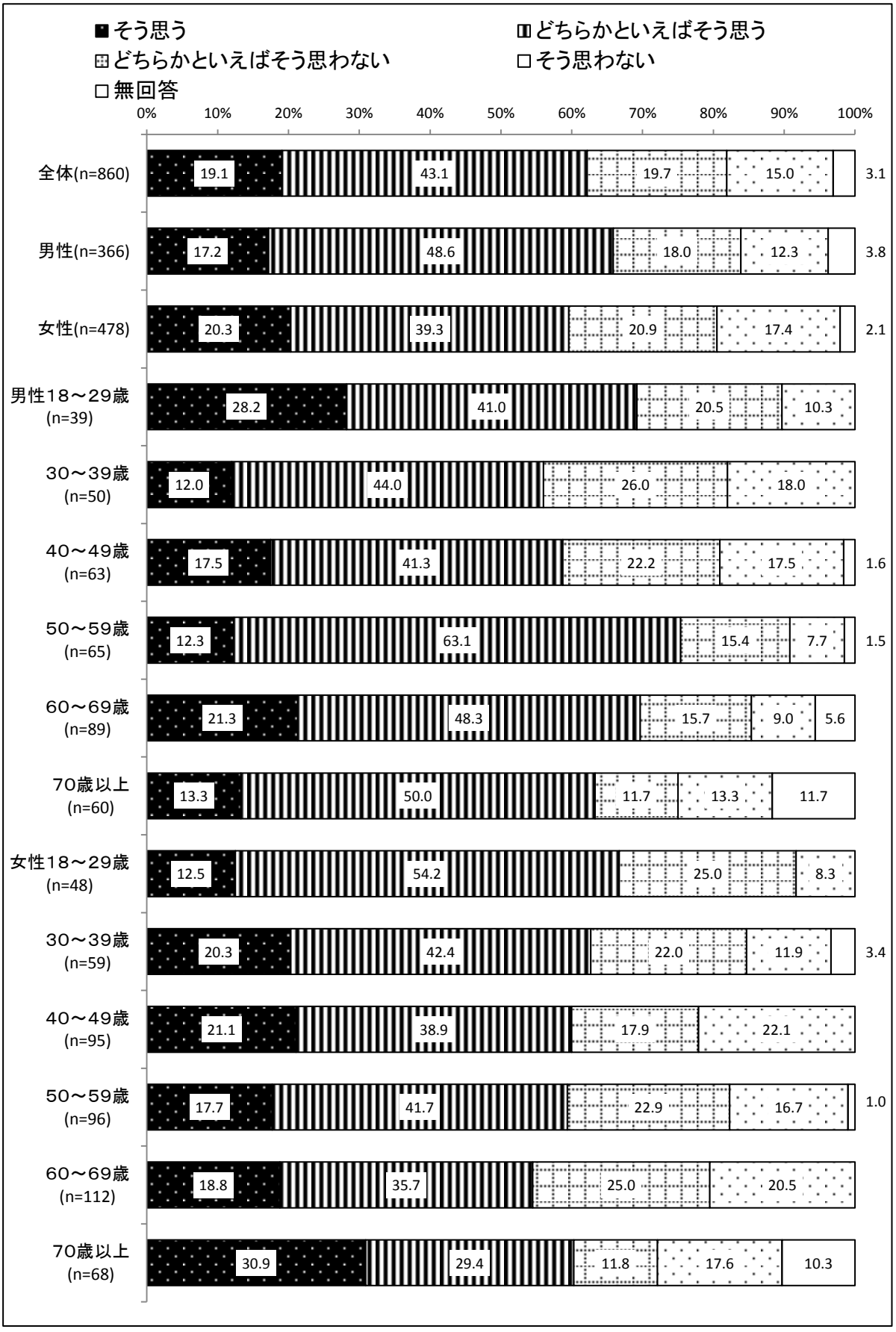
年齢別にみると、『そう思う』という割合がすべての年代で過半数を超えている。

【前回調査（平成 23 年度）との比較】



『そう思う』（今回 63.3%、前回 69.4%）の割合は、前回より 6.1 ポイント減少している。『そう思わない』（今回 33.3%、前回 25.4%）が 7.9 ポイント増加している。

④女性は仕事を持つのはよいが、家事・育児はきちんとすべきである



【全体結果】

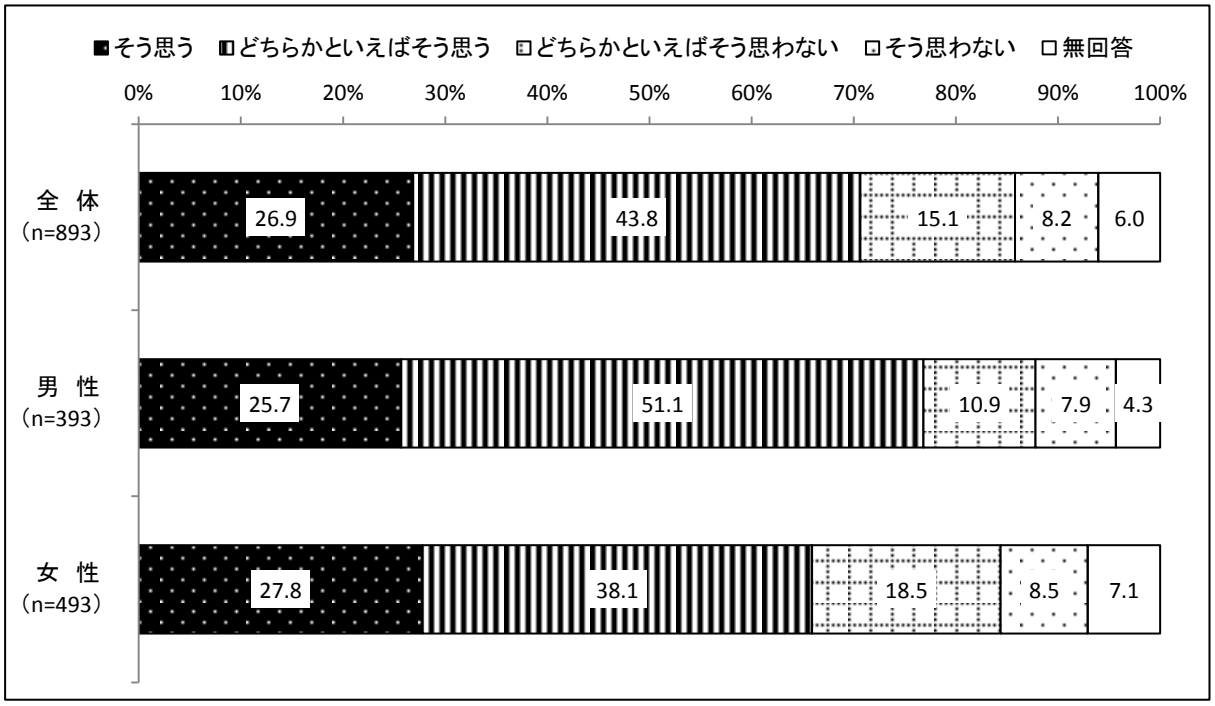
④「女性は仕事を持つのはよいが、家事・育児はきちんとすべきである」という考え方に、『そう思う』の割合は 62.2%、『そう思わない』は 34.7%となっている。

【性別・年齢階層別】

『そう思う』（男性 65.8%、女性 59.6%）は、男性の方が 6.2 ポイント高く、『そう思わない』（男性 30.3%、女性 38.3%）は、女性の方が 8 ポイント高い結果となった。

年齢別にみると、『そう思う』の割合が、30 歳代（男性 56.0%、女性 62.7%）と 40 歳代（男性 58.8%、女性 60.0%）は女性より男性の方が低くなっている。

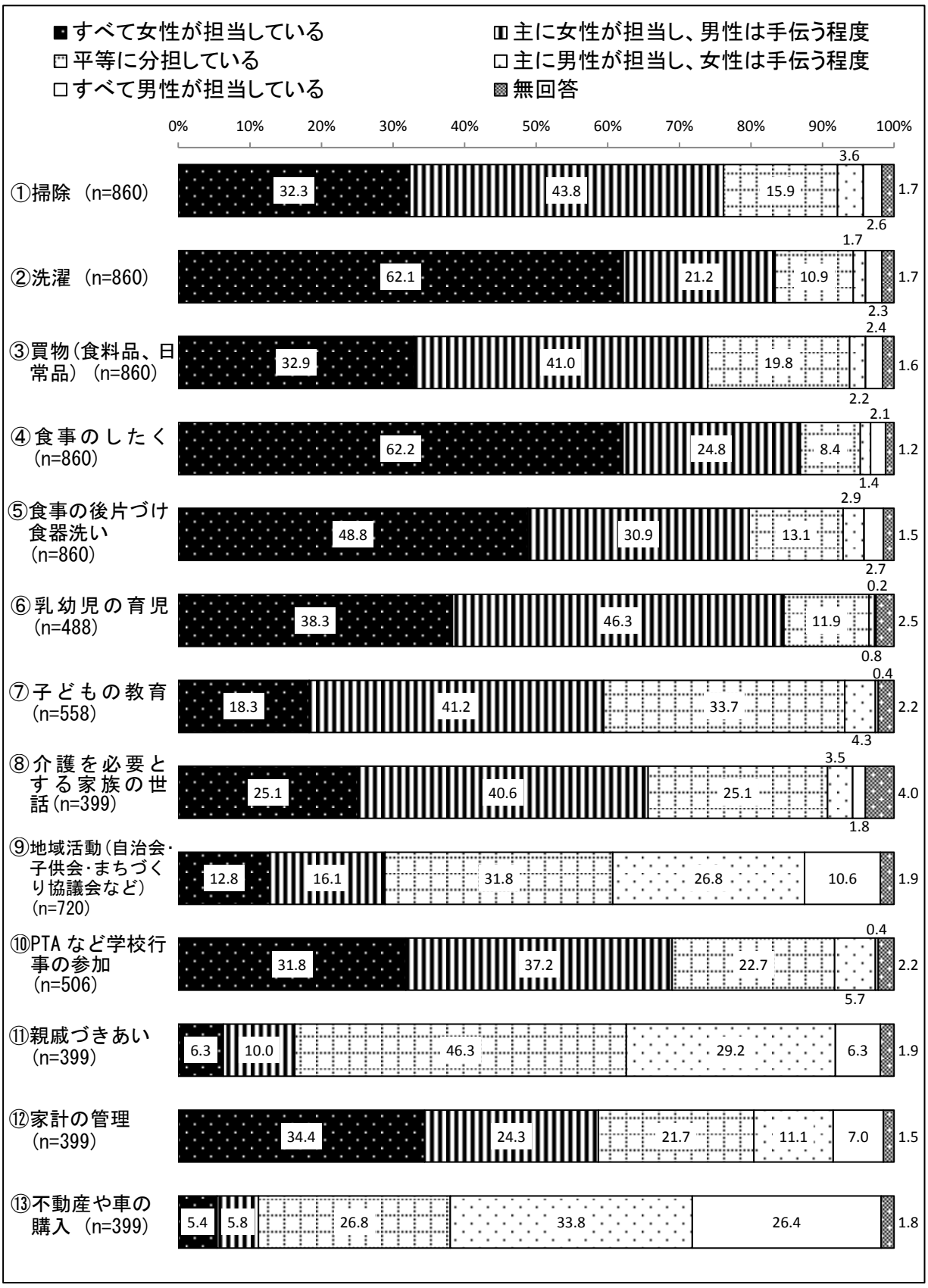
【前回調査（平成 23 年度）との比較】



『そう思う』（今回 62.2%、前回 70.7%）の割合は 8.5 ポイント減少している。一方、『そう思わない』（今回 34.7%、前回 23.3%）は 11.4 ポイント増加している。

(2)家庭生活等における役割分担

問４　家庭内の役割分担について、あなたの家庭では、次の事柄は主に誰が担当していますか。項目ごとに○をつけてください。（○はそれぞれ１つだけ）



※　⑥～⑬については、該当者数を基数に構成比を算出した。

【全体結果】

『女性が担当（「すべて女性が担当している」「主に女性が担当し、男性は手伝う程度」の合計比率、以下同)』の割合が高い項目は、④「食事のしたく」（87.0%）、⑥「乳幼児の育児」（84.6%）、②「洗濯」（83.3%）、⑤「食事の後片付け・食器洗い」（79.7%）、①「掃除」（76.1%）、③「買物」（73.9%）の順になっている。

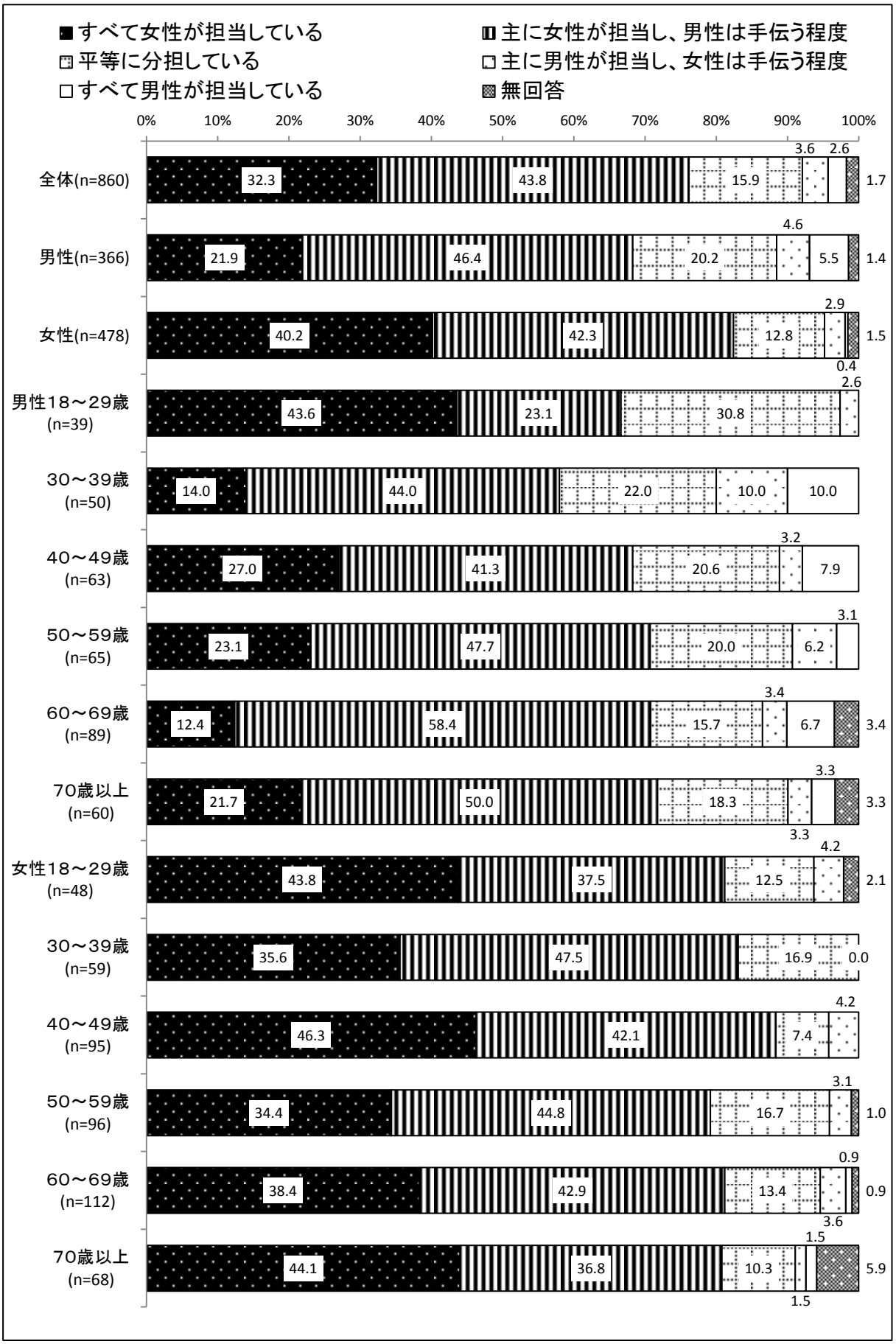
「平等に分担」の割合が高い項目は、⑪「親戚づきあい」（46.3%）、⑦「子どもの教育」（33.7%）、⑨「地域活動」（31.8%）、⑬「不動産や車の購入」（26.8%）の順となっている。

『男性が担当（「すべて男性が担当している」「主に男性が担当し女性は手伝う程度」の合計比率、以下同)』の割合が高い項目は、⑬「不動産や車の購入」（60.2%）、⑨「地域活動」（37.4%）、⑪「親戚づきあい」（35.5%）となっている。

【前回調査との比較】

※この設問は今回の調査から追加した。

①掃除


■すべて女性が担当している
▥主に女性が担当し、男性は手伝う程度
▦平等に分担している
□主に男性が担当し、女性は手伝う程度
□すべて男性が担当している
▩無回答
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
全体(n=860)
32.3
43.8
15.9
3.6
2.6
1.7
男性(n=366)
21.9
46.4
20.2
4.6
5.5
1.4
女性(n=478)
40.2
42.3
12.8
2.9
1.5
男性18～29歳 (n=39)
43.6
23.1
30.8
0.4
2.6
30～39歳 (n=50)
14.0
44.0
22.0
10.0
10.0
40～49歳 (n=63)
27.0
41.3
20.6
3.2
7.9
50～59歳 (n=65)
23.1
47.7
20.0
6.2
3.1
60～69歳 (n=89)
12.4
58.4
15.7
3.4
6.7
3.4
70歳以上 (n=60)
21.7
50.0
18.3
3.3
3.3
3.3
女性18～29歳 (n=48)
43.8
37.5
12.5
4.2
2.1
30～39歳 (n=59)
35.6
47.5
16.9
0.0
40～49歳 (n=95)
46.3
42.1
7.4
4.2
50～59歳 (n=96)
34.4
44.8
16.7
3.1
1.0
60～69歳 (n=112)
38.4
42.9
13.4
0.9
0.9
70歳以上 (n=68)
44.1
36.8
10.3
3.6
1.5
1.5
5.9

【全体結果】

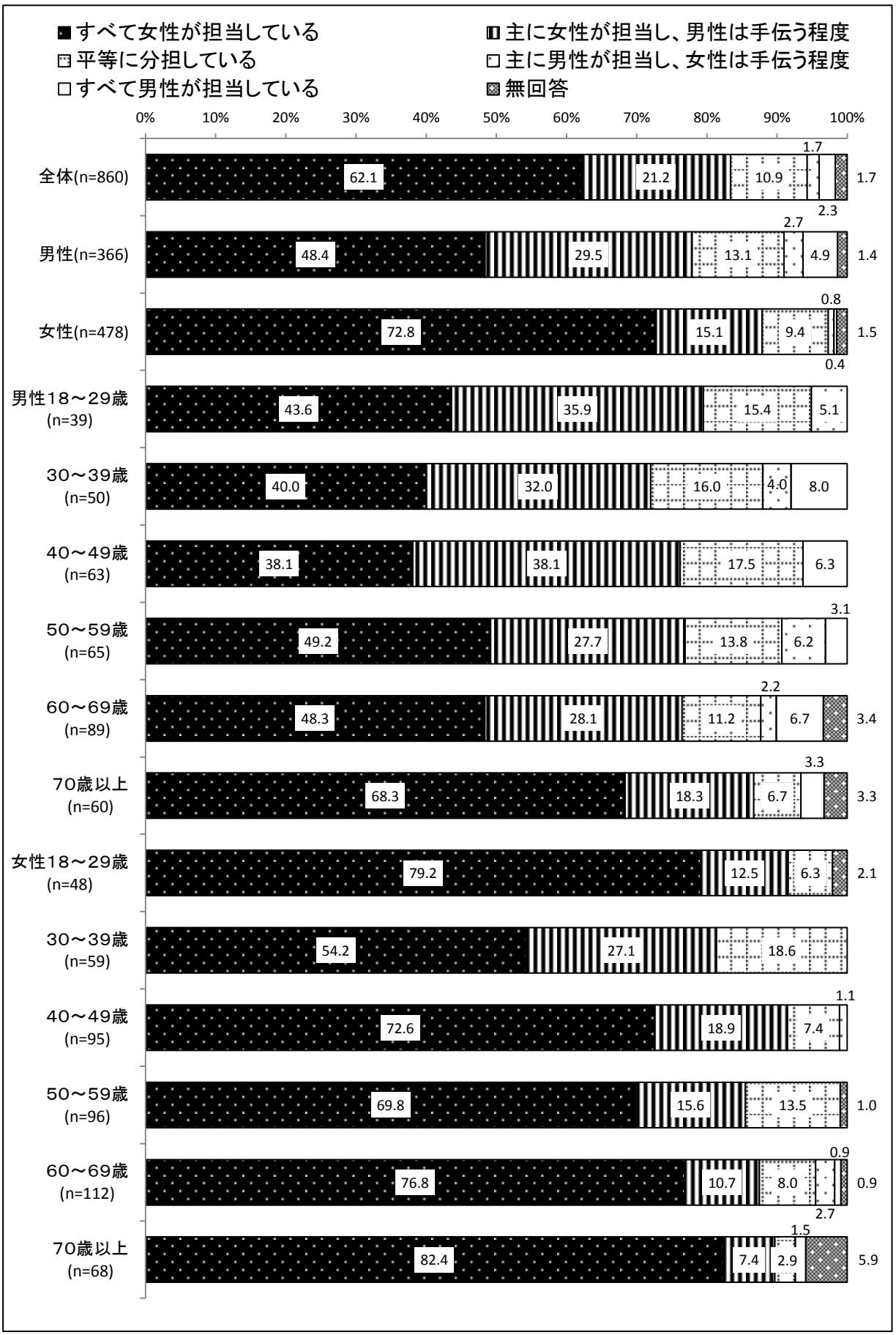
掃除は、『女性が担当』の割合が 76.1%で、そのうち「主に女性が担当し、男性は手伝う程度」の割合が 43.8%となっている。「平等に分担」は 15.9%、『男性が担当』は 6.2%という結果となった。

【性別・年齢階層別】

『女性が担当』（男性 68.3%、女性 82.5%）は、女性の方が 14.2 ポイント高くなっている。「平等に分担」（男性 20.2%、女性 12.8%）は、男性の方が 7.4 ポイント高い。

年齢別にみると、『平等に分担』の割合が、18～29 歳（男性 30.8%、女性 12.5%）が、他の年代と比べて男女の差が大きくなっている。また、『男性が担当』は、30 歳代（男性 20.0%、女性 0%）で男女の差が見られた。

②洗濯


■すべて女性が担当している
▥主に女性が担当し、男性は手伝う程度
▦平等に分担している
□主に男性が担当し、女性は手伝う程度
□すべて男性が担当している
▩無回答
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
全体(n=860)
62.1
21.2
10.9
1.7
1.7
男性(n=366)
48.4
29.5
13.1
2.7
4.9
2.3
1.4
女性(n=478)
72.8
15.1
9.4
0.8
1.5
男性18～29歳 (n=39)
43.6
35.9
15.4
0.4
5.1
30～39歳 (n=50)
40.0
32.0
16.0
4.0
8.0
40～49歳 (n=63)
38.1
38.1
17.5
6.3
50～59歳 (n=65)
49.2
27.7
13.8
6.2
3.1
60～69歳 (n=89)
48.3
28.1
11.2
6.7
2.2
3.4
70歳以上 (n=60)
68.3
18.3
6.7
3.3
3.3
女性18～29歳 (n=48)
79.2
12.5
6.3
2.1
30～39歳 (n=59)
54.2
27.1
18.6
40～49歳 (n=95)
72.6
18.9
7.4
1.1
50～59歳 (n=96)
69.8
15.6
13.5
1.0
60～69歳 (n=112)
76.8
10.7
8.0
0.9
0.9
70歳以上 (n=68)
82.4
7.4
2.9
1.5
2.7
5.9

【全体結果】

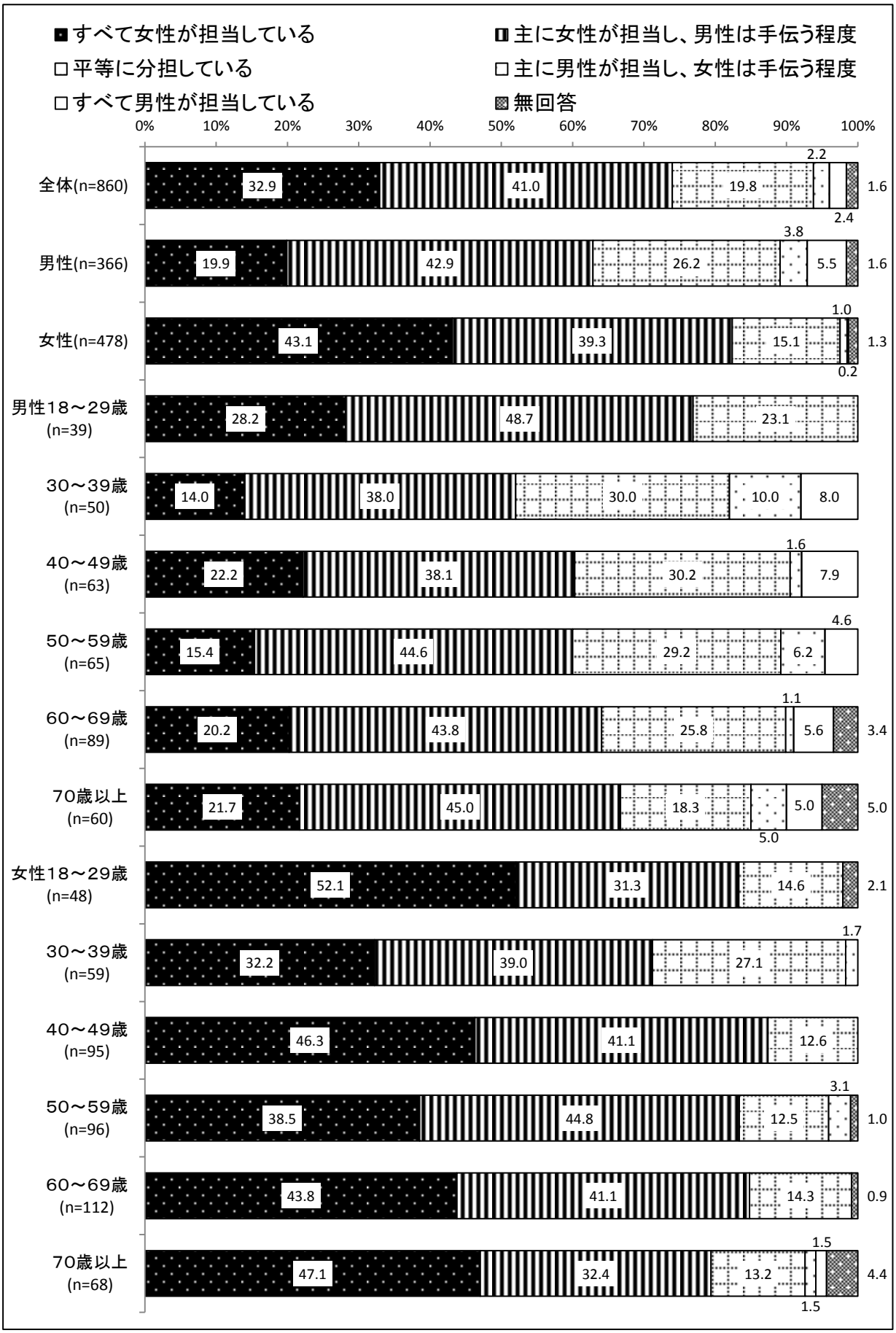
洗濯は、『女性が担当』の割合が 83.3%で、そのうち「すべて女性が担当」については 62.1%で、③「食事のしたく」に次いで 2 番目に高くなっている。「平等に分担」は 10.9%、『男性が担当』は 4.0%という結果となった。

【性別・年齢階層別】

『女性が担当』（男性 77.9%、女性 87.9%）は、女性の方が 10 ポイント高くなっている。「すべて女性が担当している」（男性 48.4%、女性 72.8%）は、女性の方が 24.4 ポイント高く、更に差が大きくなっている。

年齢別にみると、女性のすべての年代で『女性が担当』の割合は 80%を越えている。

③買物（食料品、日常品等）


■すべて女性が担当している
▮主に女性が担当し、男性は手伝う程度
□平等に分担している
□主に男性が担当し、女性は手伝う程度
□すべて男性が担当している
▩無回答
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
全体(n=860) 32.9 41.0 19.8 2.2 2.4 1.6
男性(n=366) 19.9 42.9 26.2 3.8 5.5 1.6
女性(n=478) 43.1 39.3 15.1 1.0 0.2 1.3
男性18～29歳 (n=39) 28.2 48.7 23.1
30～39歳 (n=50) 14.0 38.0 30.0 10.0 8.0
40～49歳 (n=63) 22.2 38.1 30.2 1.6 7.9
50～59歳 (n=65) 15.4 44.6 29.2 6.2 4.6
60～69歳 (n=89) 20.2 43.8 25.8 1.1 5.6 3.4
70歳以上 (n=60) 21.7 45.0 18.3 5.0 5.0 5.0
女性18～29歳 (n=48) 52.1 31.3 14.6 2.1
30～39歳 (n=59) 32.2 39.0 27.1 1.7
40～49歳 (n=95) 46.3 41.1 12.6
50～59歳 (n=96) 38.5 44.8 12.5 3.1 1.0
60～69歳 (n=112) 43.8 41.1 14.3 0.9
70歳以上 (n=68) 47.1 32.4 13.2 1.5 1.5 4.4

【全体結果】

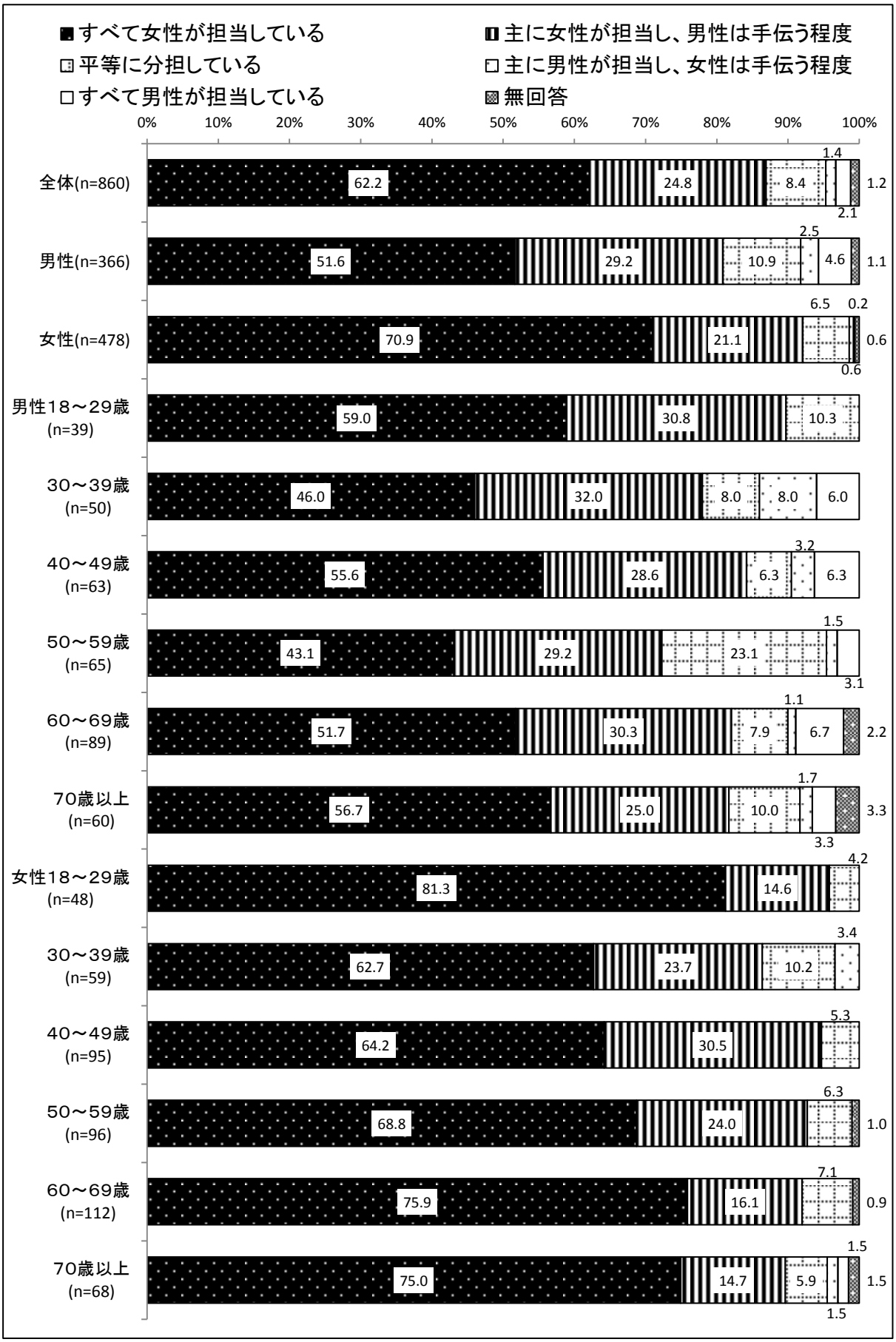
買物（食料品、日用品等）は、『女性が担当』の割合が 73.9%で、そのうち「主に女性が担当し、男性は手伝う程度」が 41.0%となっている。「平等に分担」は 19.8%、『男性が担当』は 4.6%という結果となった。

【性別・年齢階層別】

『女性が担当』（男性 62.8%、女性 82.4%）は、女性の方が 19.6 ポイント高くなっている。そのうち「すべて女性が担当している」（男性 19.9%、女性 43.1%）は、男女でおよそ２倍の差があった。

年齢別でみると、「平等に分担」や『男性が担当』の割合が、全ての年代で男性の方が女性より高い。

④食事のしたく


■すべて女性が担当している
▮主に女性が担当し、男性は手伝う程度
□平等に分担している
□主に男性が担当し、女性は手伝う程度
□すべて男性が担当している
▩無回答
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
全体(n=860) 62.2 24.8 8.4 1.4 2.1 1.2
男性(n=366) 51.6 29.2 10.9 2.5 4.6 1.1
女性(n=478) 70.9 21.1 6.5 0.2 0.6 0.6
男性18～29歳 (n=39) 59.0 30.8 10.3
30～39歳 (n=50) 46.0 32.0 8.0 8.0 6.0
40～49歳 (n=63) 55.6 28.6 6.3 3.2 6.3
50～59歳 (n=65) 43.1 29.2 23.1 1.5 3.1
60～69歳 (n=89) 51.7 30.3 7.9 1.1 6.7 2.2
70歳以上 (n=60) 56.7 25.0 10.0 1.7 3.3 3.3
女性18～29歳 (n=48) 81.3 14.6 4.2
30～39歳 (n=59) 62.7 23.7 10.2 3.4
40～49歳 (n=95) 64.2 30.5 5.3
50～59歳 (n=96) 68.8 24.0 6.3 1.0
60～69歳 (n=112) 75.9 16.1 7.1 0.9
70歳以上 (n=68) 75.0 14.7 5.9 1.5 1.5

【全体結果】

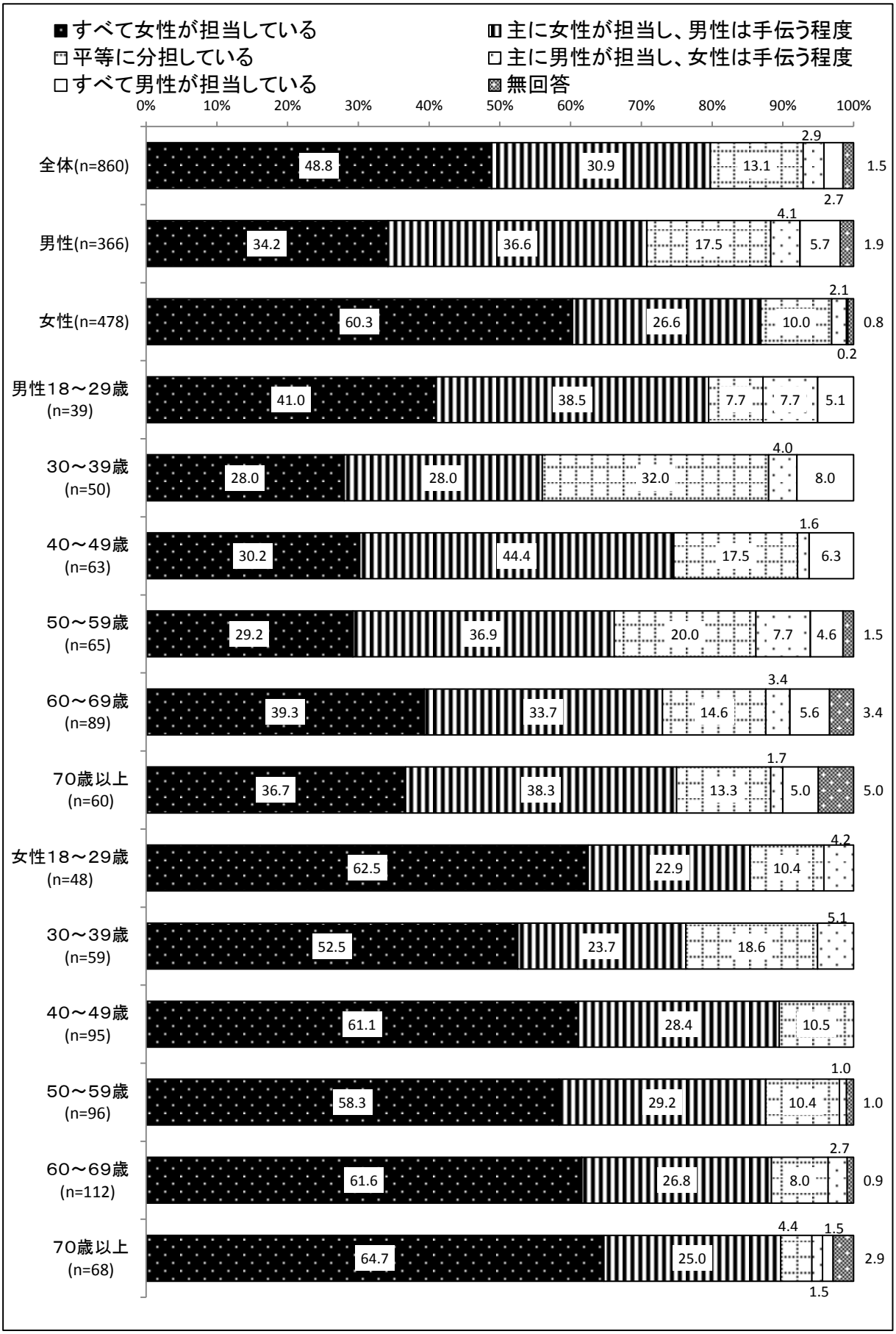
食事のしたくは、『女性が担当』の割合が 87.0%で 13 項目の中で最も高く、そのうち「すべて女性が担当」は 62.2%となっている。「平等に分担」は 8.4%、『男性が担当』は 3.5%という結果となった。

【性別・年齢階層別】

『女性が担当』（男性 80.8%、女性 92.0%）は、女性の方が 11.2 ポイント高く、「すべて女性が担当している」（男性 51.6%、女性 70.9%）は、女性の方が 19.3 ポイント高くなり、差が更に大きくなっている。

年齢別でみると、『女性が担当』の割合は男女ともに 18 歳～29 歳（男性 89.8%、女性 95.9%）と 40 歳代（男性 84.2%、女性 94.7%）で高くなっている。また、「すべて女性が担当している」は、男性は世代によってばらつきがあるが、女性は 18 歳～29 歳（81.3%）を除くと年代が上がるにつれて高くなる傾向が見られた。

⑤食事の後片付け、食器洗い



【全体結果】

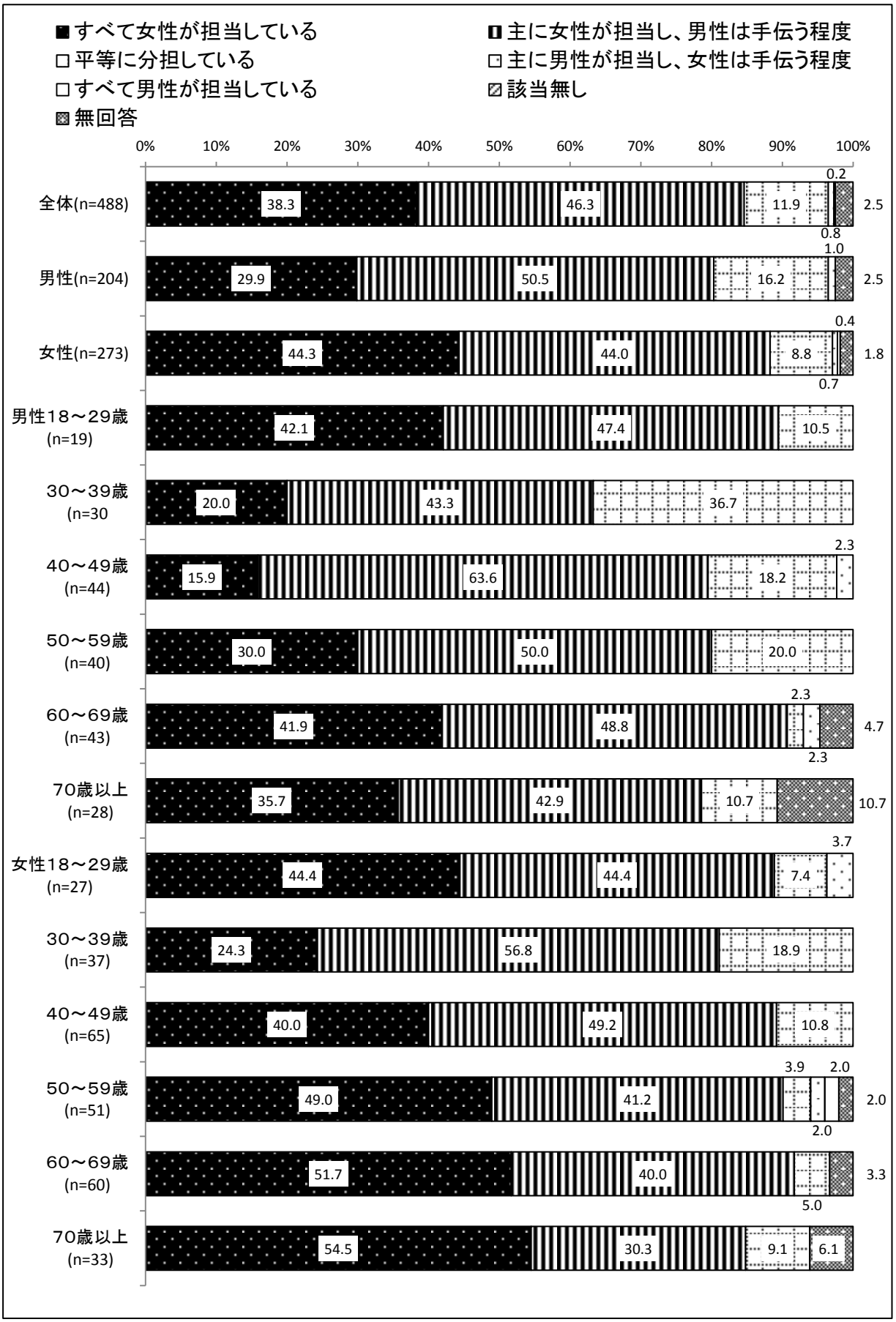
食事の後片付け、食器洗いは『女性が担当』の割合は 79.7%で、そのうち「すべて女性が担当」は 48.8%であり、13 項目中で 3 番目に高くなっている。「平等に分担」は 13.1%、『男性が担当』は 5.6%という結果となった。

【性別・年齢階層別】

『女性が担当』（男性 70.8%、女性 86.9%）は女性の方が 16.1 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、「平等に分担」の割合が、男女ともに 30 歳代（男性 32.0%、女性 18.6%）が他の年代に比べて高くなっている。「主に女性が担当し男性は手伝う程度」は、すべての年代で女性より男性の方が高くなっている。

⑥乳幼児の育児


■すべて女性が担当している
□平等に分担している
□すべて男性が担当している
▩無回答
◧主に女性が担当し、男性は手伝う程度
⊡主に男性が担当し、女性は手伝う程度
▨該当無し
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
全体(n=488)
38.3
46.3
11.9
0.2
0.8
2.5
男性(n=204)
29.9
50.5
16.2
1.0
2.5
女性(n=273)
44.3
44.0
8.8
0.4
0.7
1.8
男性18～29歳 (n=19)
42.1
47.4
10.5
30～39歳 (n=30
20.0
43.3
36.7
40～49歳 (n=44)
15.9
63.6
18.2
2.3
50～59歳 (n=40)
30.0
50.0
20.0
60～69歳 (n=43)
41.9
48.8
2.3
2.3
4.7
70歳以上 (n=28)
35.7
42.9
10.7
10.7
女性18～29歳 (n=27)
44.4
44.4
7.4
3.7
30～39歳 (n=37)
24.3
56.8
18.9
40～49歳 (n=65)
40.0
49.2
10.8
50～59歳 (n=51)
49.0
41.2
3.9
2.0
2.0
2.0
60～69歳 (n=60)
51.7
40.0
5.0
3.3
70歳以上 (n=33)
54.5
30.3
9.1
6.1

【全体結果】

「該当なし（372 サンプル）」を除いた 488 サンプルを基数に算出した結果である。

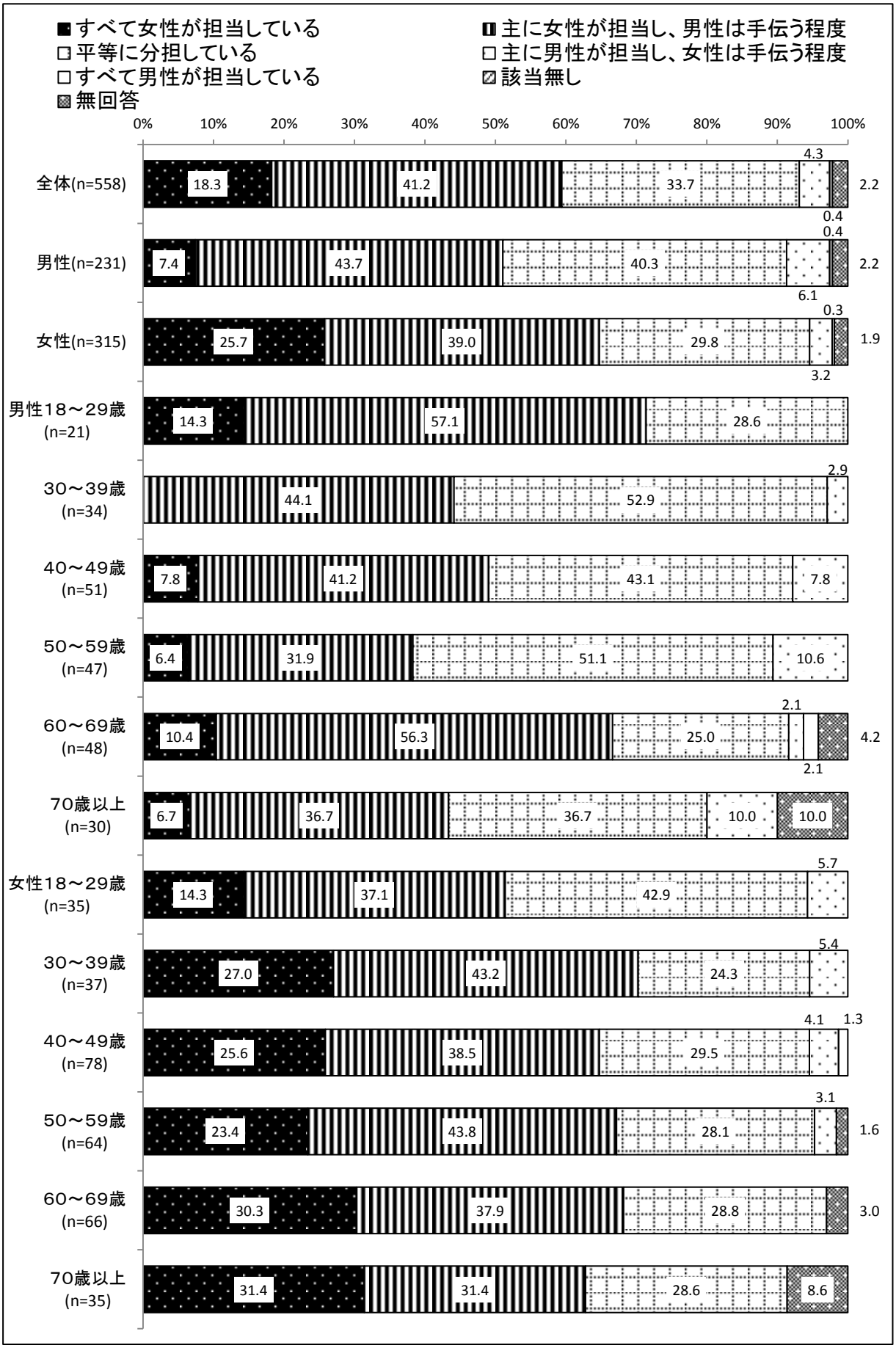
乳幼児の育児は、『女性が担当』の割合が 84.6%で高くなっている。「平等に分担」は 11.9%、『男性が担当』は 1.0%という結果となった。

【性別・年齢階層別】

『女性が担当』（男性 80.4%、女性 88.3%）は、男女であまり差がみられなかった。そのうち、「すべて女性が担当」（男性 29.9%、女性 44.3%）と「主に女性が担当し男性は手伝う程度」（男性 50.5%、女性 44.0%）の女性の割合が半々であるのに対し、男性の割合は、「主に女性が担当し男性は手伝う程度」の方が高くなっている。

年齢別にみると、「平等に分担」は、他の年代と比較すると男女ともに 30 歳代（男性 36.7%、女性 18.9%）が高くなっている。

⑦子どもの教育


■すべて女性が担当している
■平等に分担している
□すべて男性が担当している
▩無回答
▮主に女性が担当し、男性は手伝う程度
□主に男性が担当し、女性は手伝う程度
▨該当無し
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
全体(n=558)
18.3
41.2
33.7
4.3
2.2
0.4
男性(n=231)
7.4
43.7
40.3
0.4
2.2
6.1
女性(n=315)
25.7
39.0
29.8
0.3
1.9
3.2
男性18～29歳 (n=21)
14.3
57.1
28.6
30～39歳 (n=34)
44.1
52.9
2.9
40～49歳 (n=51)
7.8
41.2
43.1
7.8
50～59歳 (n=47)
6.4
31.9
51.1
10.6
60～69歳 (n=48)
10.4
56.3
25.0
2.1
4.2
2.1
70歳以上 (n=30)
6.7
36.7
36.7
10.0
10.0
女性18～29歳 (n=35)
14.3
37.1
42.9
5.7
30～39歳 (n=37)
27.0
43.2
24.3
5.4
40～49歳 (n=78)
25.6
38.5
29.5
4.1
1.3
50～59歳 (n=64)
23.4
43.8
28.1
3.1
1.6
60～69歳 (n=66)
30.3
37.9
28.8
3.0
70歳以上 (n=35)
31.4
31.4
28.6
8.6

【全体結果】

「該当なし（302 サンプル)」を除いた 558 サンプルを基数に算出した結果である。

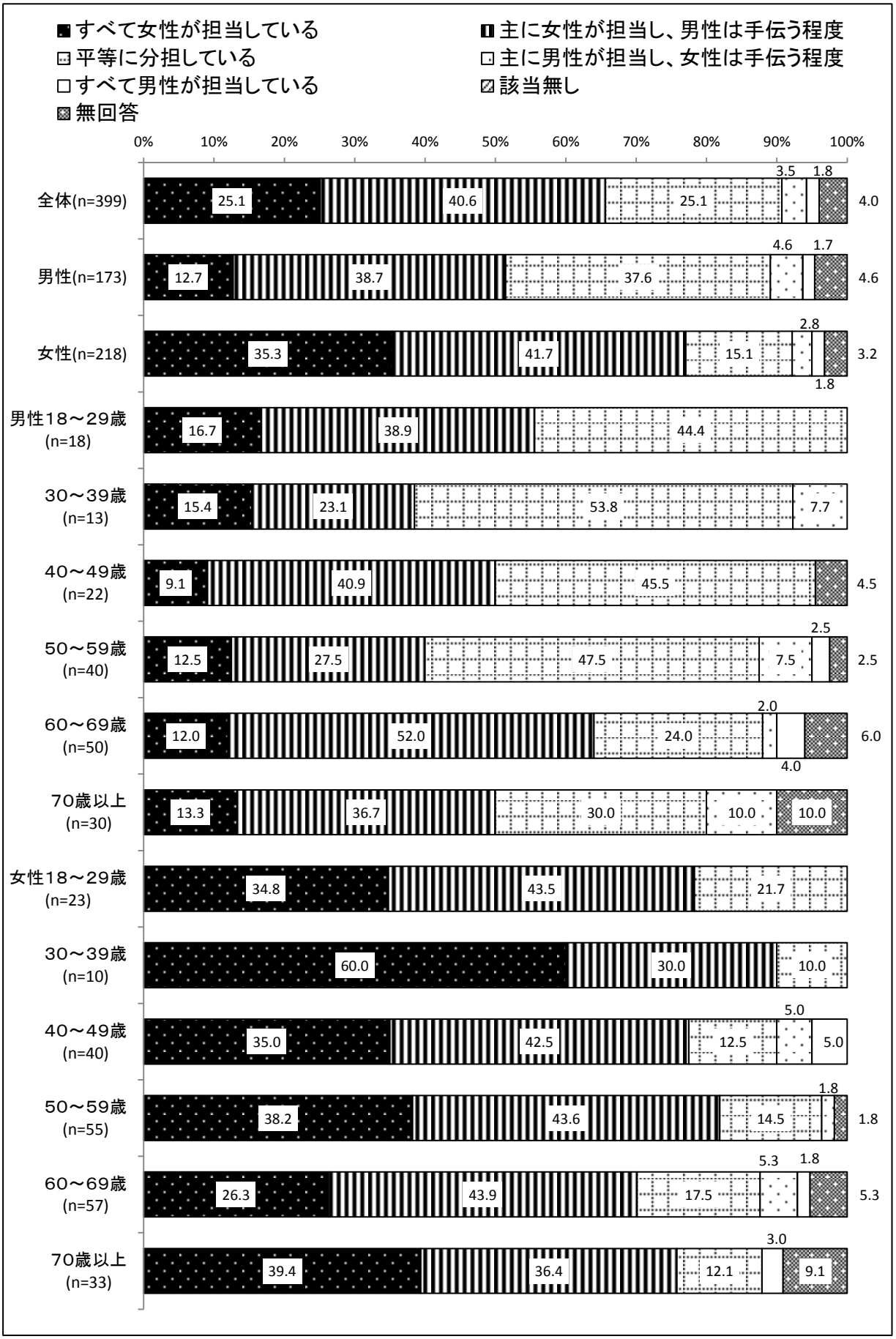
子どもの教育は、「平等に分担」の割合が 33.7%で、13 項目中で２番目に高い。『女性が担当』は 59.5%で、そのうち「主に女性が担当し男性は手伝う程度」が 41.2%である。『男性が担当』は 4.7%という結果となった。

【性別・年齢階層別】

「平等に分担」（男性 40.3%、女性 29.8%）は男性の方が 10.5 ポイント高くなっている。「すべて女性が担当」（男性 7.4%、女性 25.7%）は女性の方が 18.3 ポイント高くなっている。男女で差が見られた。

年齢別にみると、「すべて女性が担当している」の割合が、18 歳～29 歳（男性 14.3%、女性 14.3%）以外のすべての年代で男性と女性との間で大きな差が出る結果となっている。

⑧介護を必要とする家族の世話



【全体結果】

「該当なし（461 サンプル)」を除いた 399 サンプルを基数に算出した結果である。

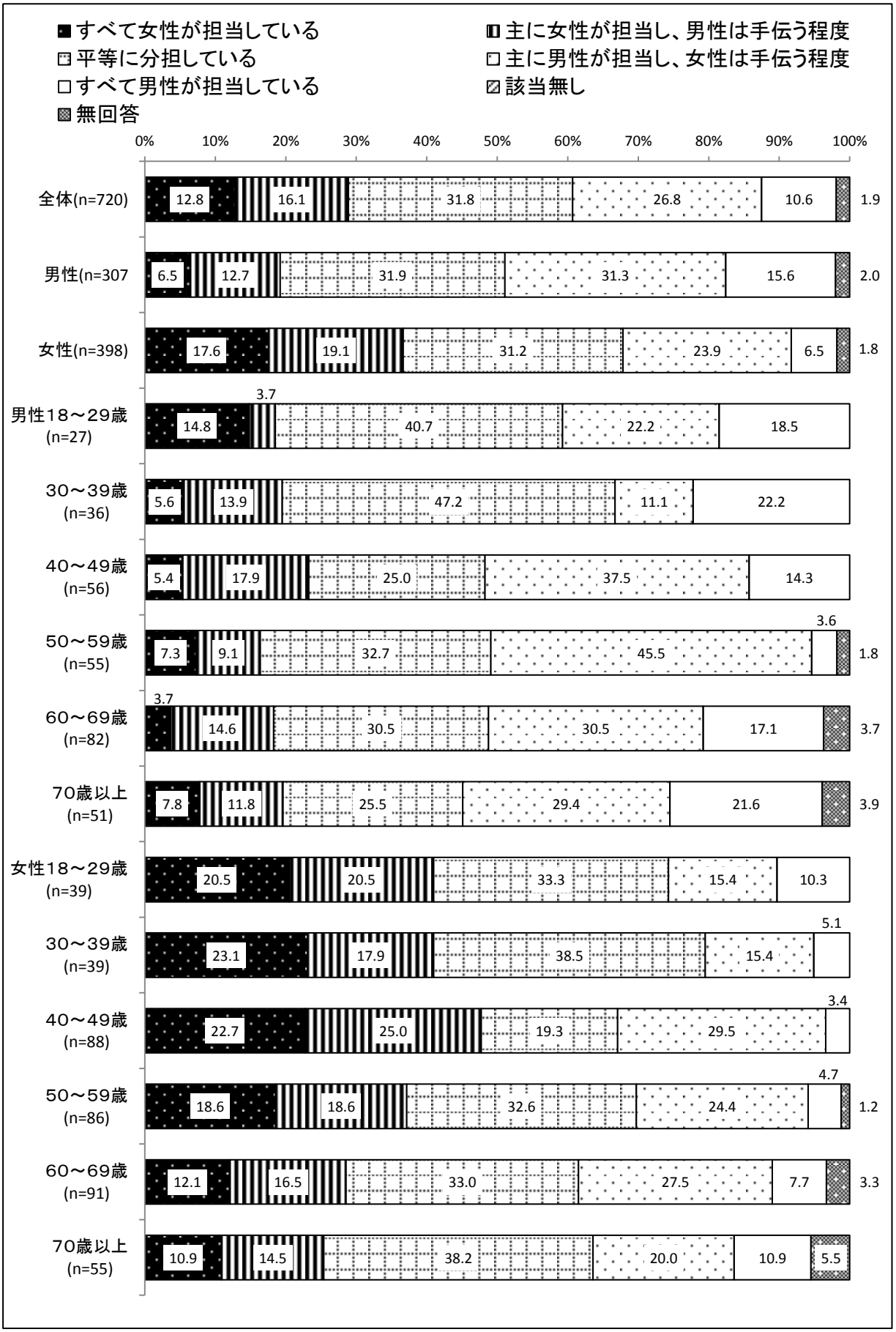
介護を必要とする家族の世話は、『女性が担当』の割合が 65.7%、「平等に分担」は 25.1%で、『男性が担当』は 5.3%という結果となった。

【性別・年齢階層別】

『女性が担当』（男性 51.4%、女性 77.0%）は、女性の方が 25.6 ポイント高く、男女の間で差が大きくなっている。また、「平等に分担」（男性 37.6%、女性 15.1%）は、男性の方が 22.5 ポイント高く、男女の間で差が大きくなっている。

年齢別にみると、「平等に分担」は、30 歳代（男性 53.8%、女性 10.0%)、40 歳代（男性 45.5%、女性 12.5%)、50 歳代（男性 47.5%、女性 14.5%）の男女の間で差が大きい傾向が見られた。

⑨地域活動（自治会・子供会・まちづくり協議会など）



【全体結果】

「該当なし（140 サンプル）」を除いた 720 サンプルを基数に算出した結果である。

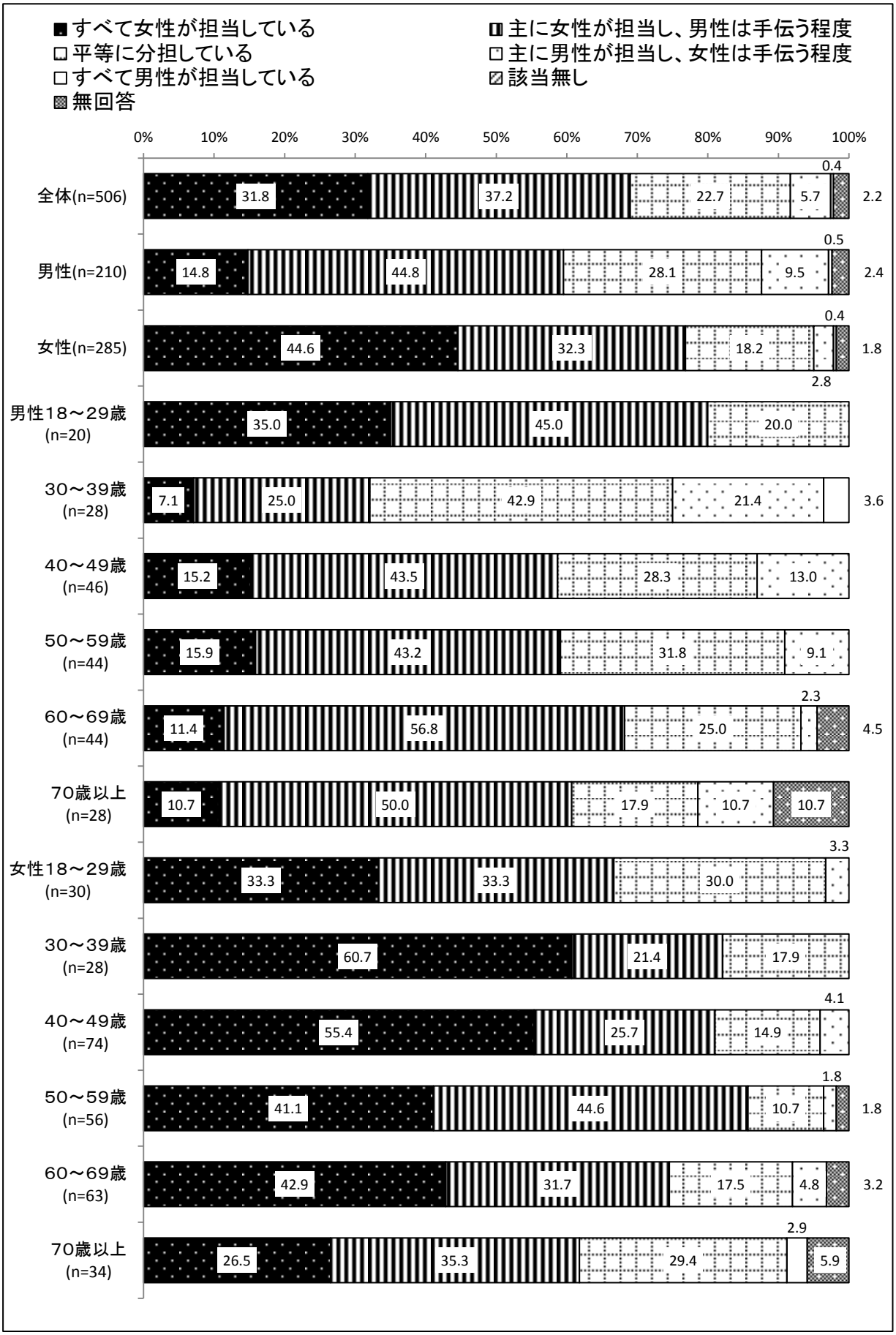
地域活動（自治会・子供会・まちづくり協議会）は、『男性が担当』の割合が 37.4%で、「不動産や車の購入」に次いで 2 番目に高い項目である。「平等に分担」は 31.8%、『女性が担当』は 28.9%という結果となった。

【性別・年齢階層別】

『男性が担当』（男性 46.9%、女性 30.4%）は男性の方が 16.5 ポイント高い。一方、『女性が担当』（男性 19.2%、女性 36.7%）は女性の方が 17.5 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、『平等に分担』は、男女ともに 30 歳代（男性 47.2%、女性 38.5%）が高くなっている。

⑩PTA など学校行事の参加



【全体結果】

「該当なし（354 サンプル）」を除いた 506 サンプルを基数に算出した結果である。

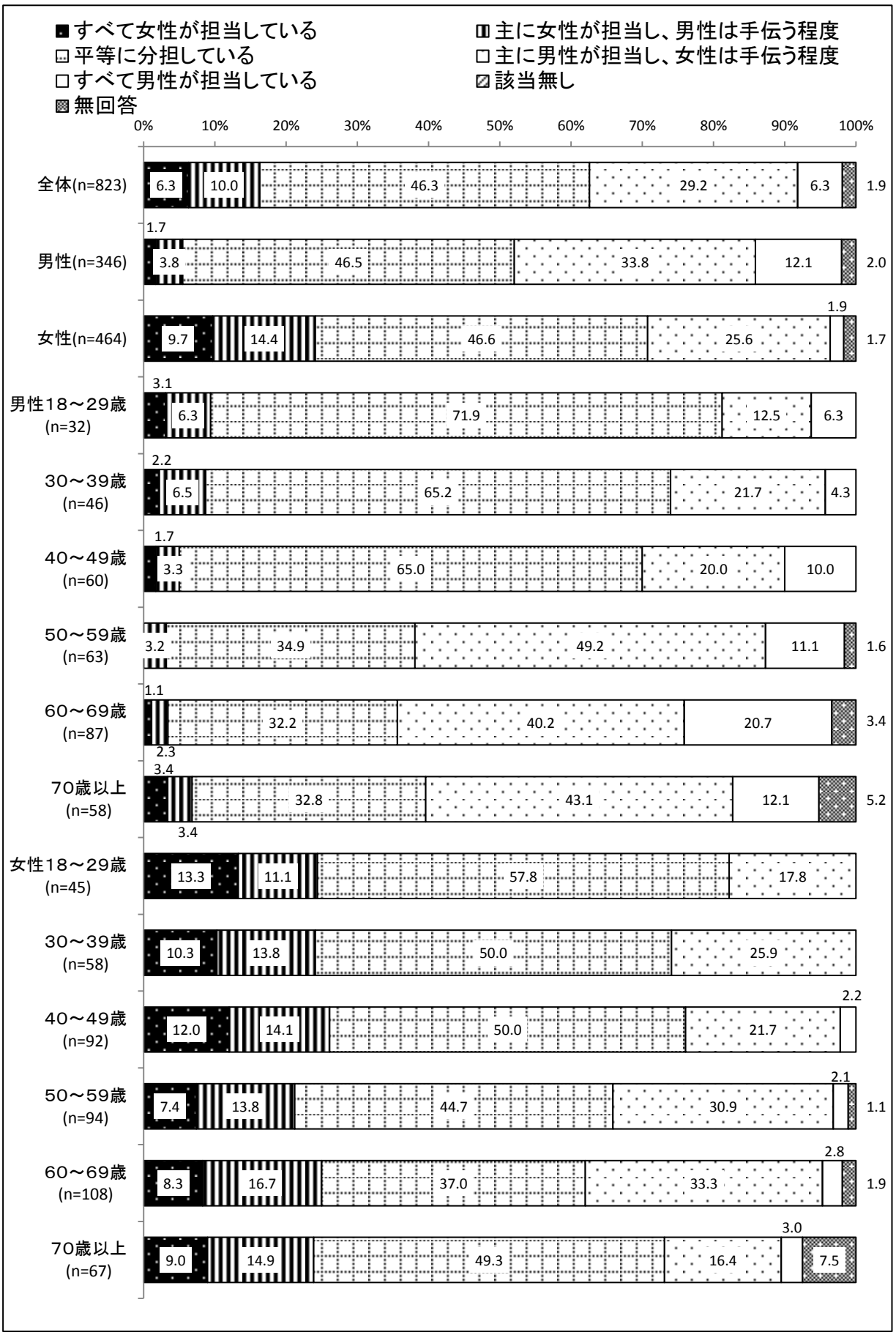
PTA など学校行事の参加は、『女性が担当』の割合が 69.0%、「平等に分担」は 22.7%、『男性が担当』は 6.1%という結果となった。

【性別・年齢階層別】

『女性が担当』（男性 59.6%、女性 76.9%）は女性の方が 17.3 ポイント高く、そのうち、「すべて女性が担当している」（男性 14.8%、女性 44.6%）は女性の方が 29.8 ポイント高くなっている。一方、「主に女性が担当し男性は手伝う程度」（男性 44.8%、女性 32.3%）は、男性方が 12.5 ポイント高い。

年齢別にみると、『女性が担当』は、18 歳～29 歳以外のすべての年代で、男女の間で差が大きく、30 歳代（男性 32.1%、女性 82.1%）が最も大きくなっている。

⑪親戚づきあい


■すべて女性が担当している
▨主に女性が担当し、男性は手伝う程度
□平等に分担している
□主に男性が担当し、女性は手伝う程度
□すべて男性が担当している
▨該当無し
▩無回答
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
全体(n=823)
6.3
10.0
46.3
29.2
6.3
1.9
男性(n=346)
1.7
3.8
46.5
33.8
12.1
2.0
女性(n=464)
1.9
9.7
14.4
46.6
25.6
1.7
男性18～29歳 (n=32)
3.1
6.3
71.9
12.5
6.3
30～39歳 (n=46)
2.2
6.5
65.2
21.7
4.3
40～49歳 (n=60)
1.7
3.3
65.0
20.0
10.0
50～59歳 (n=63)
3.2
34.9
49.2
11.1
1.6
60～69歳 (n=87)
1.1
32.2
40.2
20.7
3.4
70歳以上 (n=58)
2.3
3.4
32.8
43.1
12.1
5.2
女性18～29歳 (n=45)
3.4
13.3
11.1
57.8
17.8
30～39歳 (n=58)
10.3
13.8
50.0
25.9
40～49歳 (n=92)
2.2
12.0
14.1
50.0
21.7
50～59歳 (n=94)
2.1
7.4
13.8
44.7
30.9
1.1
60～69歳 (n=108)
2.8
8.3
16.7
37.0
33.3
1.9
70歳以上 (n=67)
3.0
9.0
14.9
49.3
16.4
7.5

【全体結果】

「該当なし（37 サンプル)」を除いた 823 サンプルを基数に算出した結果である。

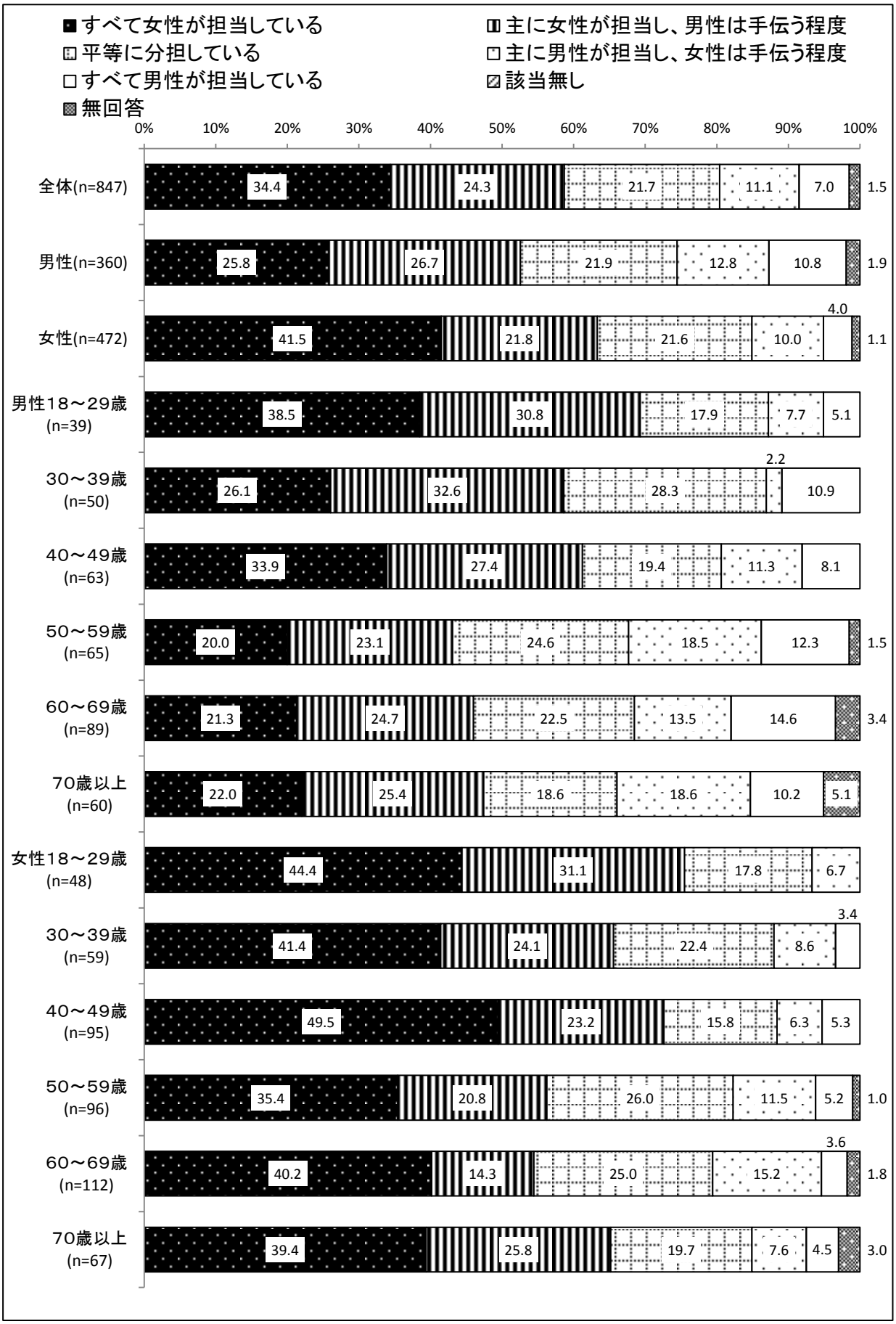
親戚づきあいは、「平等に分担」の割合が 46.3%で、全 13 項目中で最も高い。『女性が担当』が 16.3%、『男性が担当』は 35.5%という結果となった

【性別・年齢階層別】

「平等に分担」（男性 46.5%、女性 46.6%）は、男女で差はほとんど見られない。『女性が担当』（男性 5.5%、女性 24.1%）は、女性の方が 18.6 ポイント高い。一方、『男性が担当』（男性 45.9%、女性 27.5%）は、男性の方が 18.4 ポイント高くなっている。

年齢別にみると、『男性が担当』は 50 歳代男性（60.3%)、60 歳代男性（60.9%)、70 歳代男性（55.2%）で高くなっている。女性ではすべての年代で「平等に分担」の割合が高くなっている。

⑫家計の管理


■すべて女性が担当している
▥主に女性が担当し、男性は手伝う程度
▦平等に分担している
□主に男性が担当し、女性は手伝う程度
□すべて男性が担当している
▨該当無し
▩無回答
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
全体(n=847) 34.4 24.3 21.7 11.1 7.0 1.5
男性(n=360) 25.8 26.7 21.9 12.8 10.8 1.9
女性(n=472) 41.5 21.8 21.6 10.0 4.0 1.1
男性18～29歳 (n=39) 38.5 30.8 17.9 7.7 5.1
30～39歳 (n=50) 26.1 32.6 28.3 2.2 10.9
40～49歳 (n=63) 33.9 27.4 19.4 11.3 8.1
50～59歳 (n=65) 20.0 23.1 24.6 18.5 12.3 1.5
60～69歳 (n=89) 21.3 24.7 22.5 13.5 14.6 3.4
70歳以上 (n=60) 22.0 25.4 18.6 18.6 10.2 5.1
女性18～29歳 (n=48) 44.4 31.1 17.8 6.7
30～39歳 (n=59) 41.4 24.1 22.4 8.6 3.4
40～49歳 (n=95) 49.5 23.2 15.8 6.3 5.3
50～59歳 (n=96) 35.4 20.8 26.0 11.5 5.2 1.0
60～69歳 (n=112) 40.2 14.3 25.0 15.2 3.6 1.8
70歳以上 (n=67) 39.4 25.8 19.7 7.6 4.5 3.0

【全体結果】

「該当なし（13 サンプル）」を除いた 847 サンプルを基数に算出した結果である。

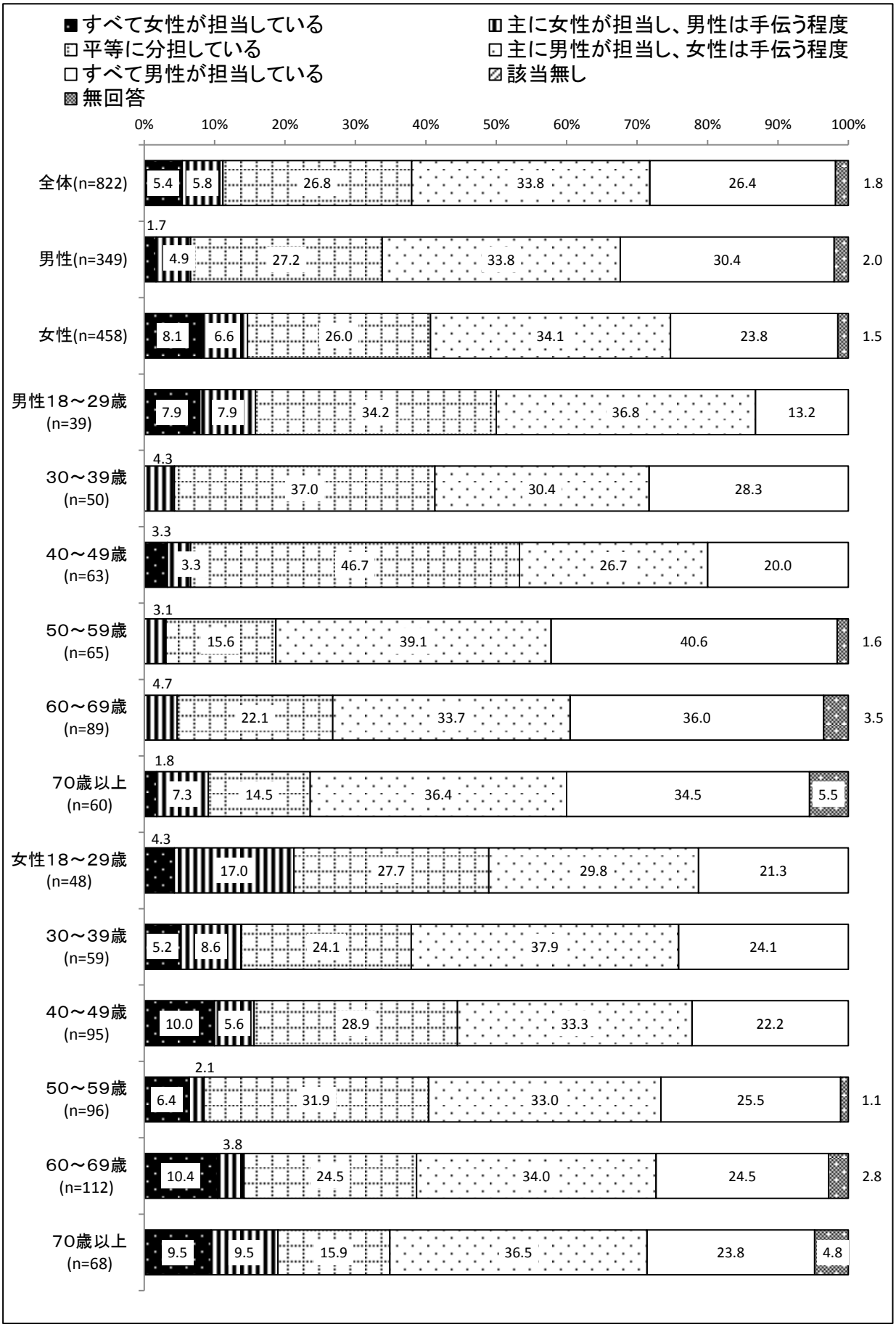
家計の管理は、『女性が担当』の割合が 58.7%で、「平等に分担」は 21.7%、『男性が担当』は 18.1%という結果となった。

【性別・年齢階層別】

『女性が担当』（男性 52.5%、女性 63.3%）は、女性の方が 10.8 ポイント高い。一方、『男性が担当』（男性 23.6%、女性 14.0%）は、男性の方が 9.6 ポイント高い。「平等に分担」（男性 21.9%、女性 21.6%）は男女の間に差が見られない。

年齢別にみると、『男性が担当』の割合は、50 歳代男性（30.8%）、60 歳代男性（28.1%）、70 歳代男性（28.8%）で高く、それ以外のすべての年代の男女は、『女性が担当』が過半数を超えている。

⑬不動産や車の購入


■すべて女性が担当している
▥主に女性が担当し、男性は手伝う程度
▦平等に分担している
□主に男性が担当し、女性は手伝う程度
□すべて男性が担当している
▨該当無し
▩無回答
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
全体(n=822) 5.4 5.8 26.8 33.8 26.4 1.8
男性(n=349) 1.7 4.9 27.2 33.8 30.4 2.0
女性(n=458) 8.1 6.6 26.0 34.1 23.8 1.5
男性18～29歳 (n=39) 7.9 7.9 34.2 36.8 13.2
30～39歳 (n=50) 4.3 37.0 30.4 28.3
40～49歳 (n=63) 3.3 3.3 46.7 26.7 20.0
50～59歳 (n=65) 3.1 15.6 39.1 40.6 1.6
60～69歳 (n=89) 4.7 22.1 33.7 36.0 3.5
70歳以上 (n=60) 1.8 7.3 14.5 36.4 34.5 5.5
女性18～29歳 (n=48) 4.3 17.0 27.7 29.8 21.3
30～39歳 (n=59) 5.2 8.6 24.1 37.9 24.1
40～49歳 (n=95) 10.0 5.6 28.9 33.3 22.2
50～59歳 (n=96) 2.1 6.4 31.9 33.0 25.5 1.1
60～69歳 (n=112) 3.8 10.4 24.5 34.0 24.5 2.8
70歳以上 (n=68) 9.5 9.5 15.9 36.5 23.8 4.8

【全体結果】

「該当なし（38 サンプル)」を除いた 822 サンプルを基数に算出した結果である。

不動産や車の購入は、『男性が担当』が 60.2%で、全 13 項目の中で最も割合が高い。「平等に分担」は 26.8%、『女性が担当』は 11.2%という結果であった。

【性別・年齢階層別】

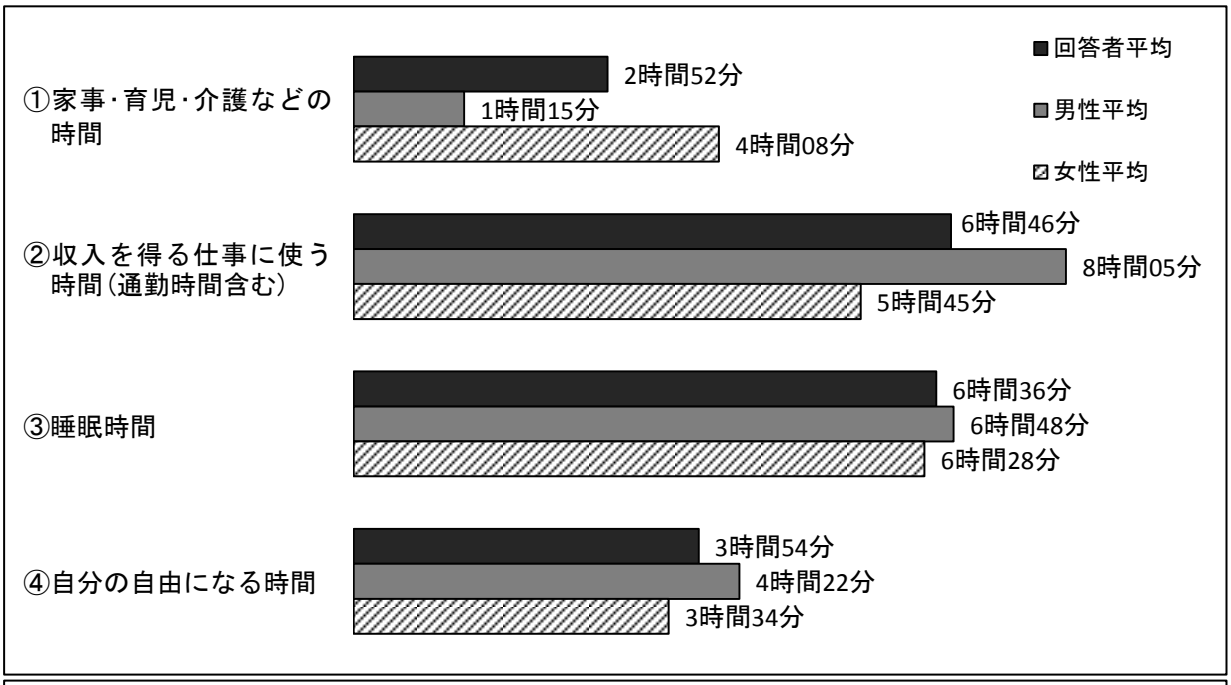
『男性が担当』（男性 64.2%、女性 57.9%）は、男性の方が 6.3 ポイント高い。『平等に分担』（男性 27.2%、女性 26.0%）は、男女で差がほとんど見られない。

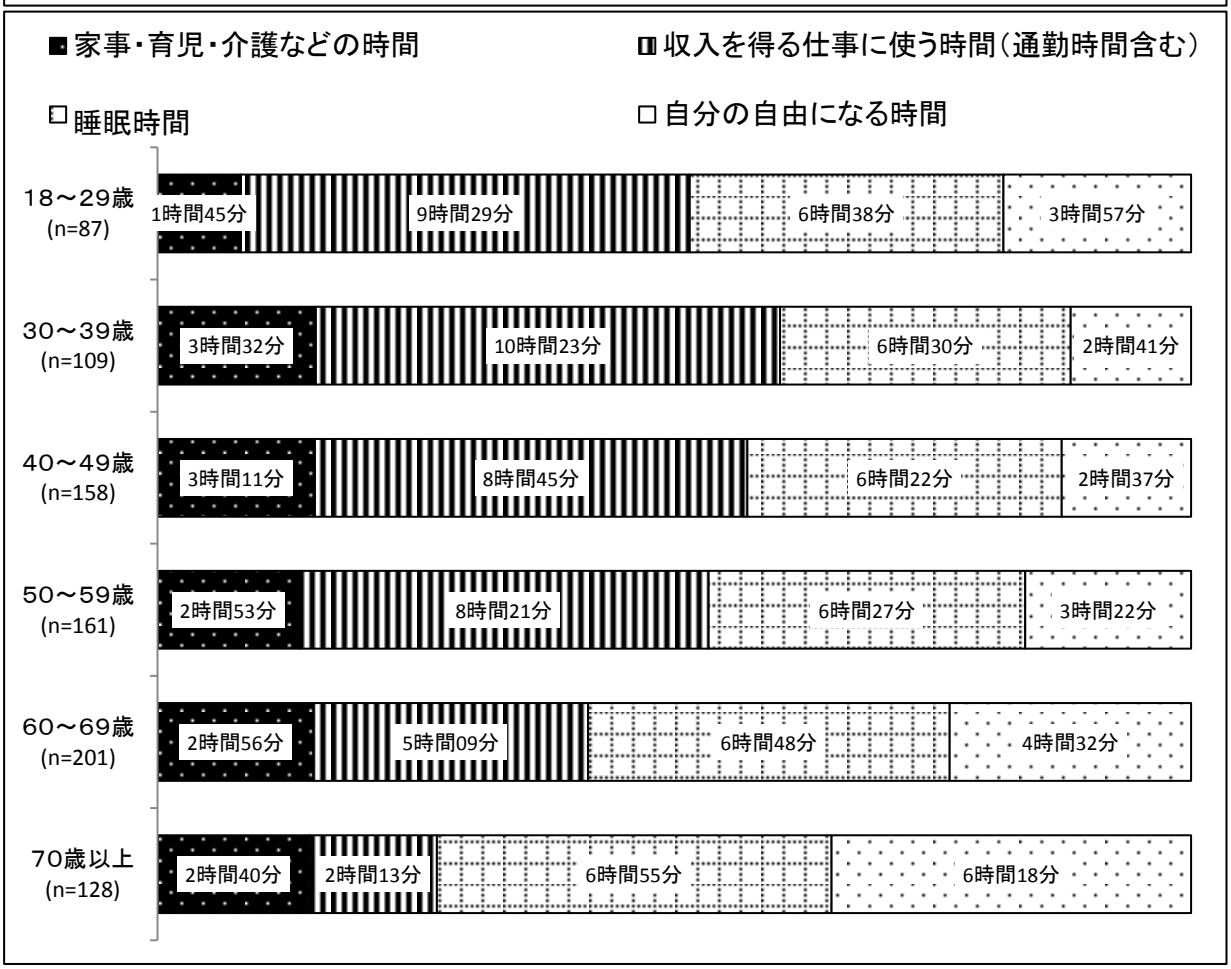
年齢別にみると、『男性が担当』の割合は、男性の 50 歳代（79.7%)、60 歳代（69.7%)、70 歳代（70.9%）で高くなっている。

３．仕事と生活の調和（ワーク･ライフ･バランス）について

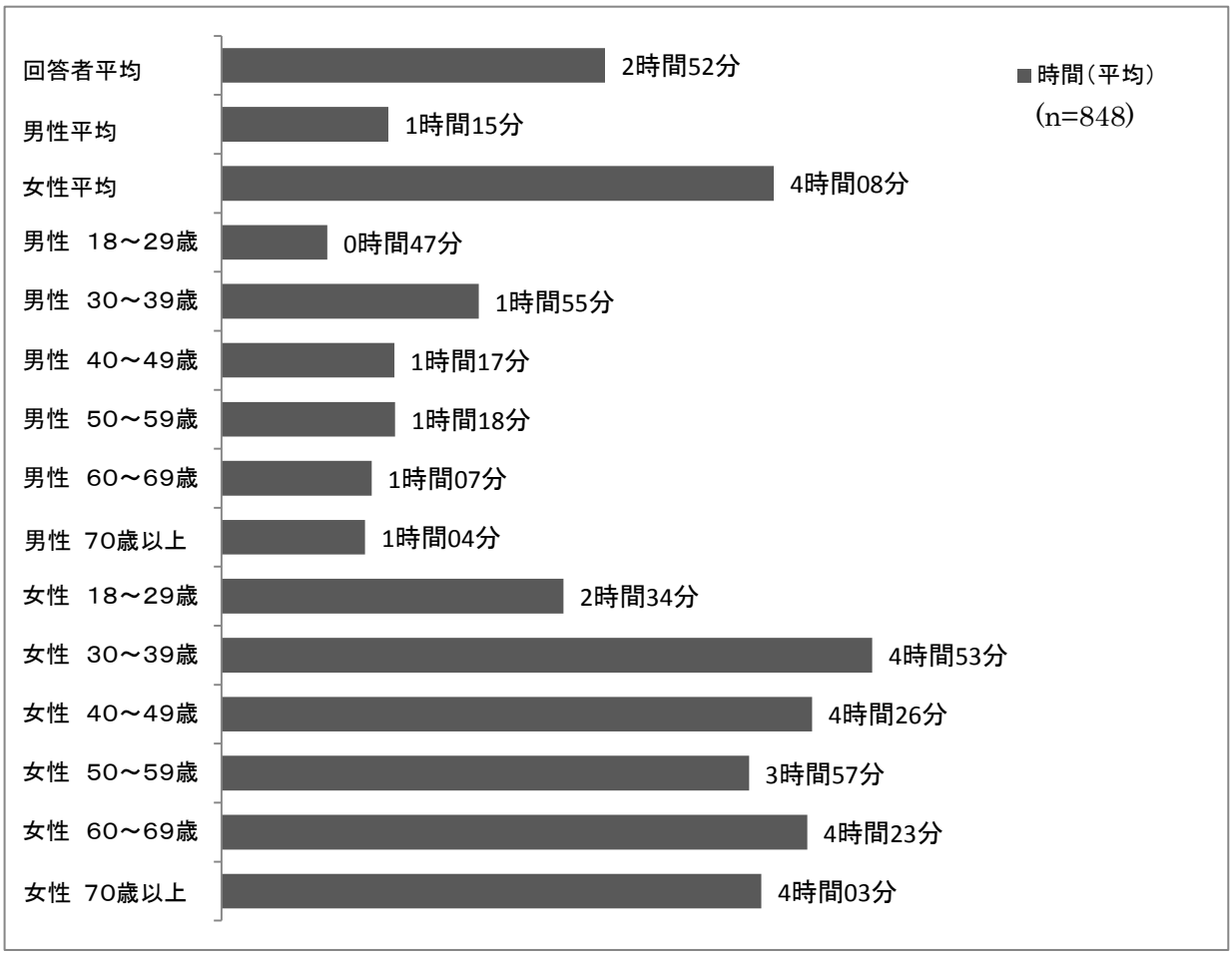
(1) 生活時間について

問５　あなたの平日の生活時間を次のとおりに分けて考えると、それぞれ平均して何時間何分くらいになりますか。（日曜・休日などは含めない）





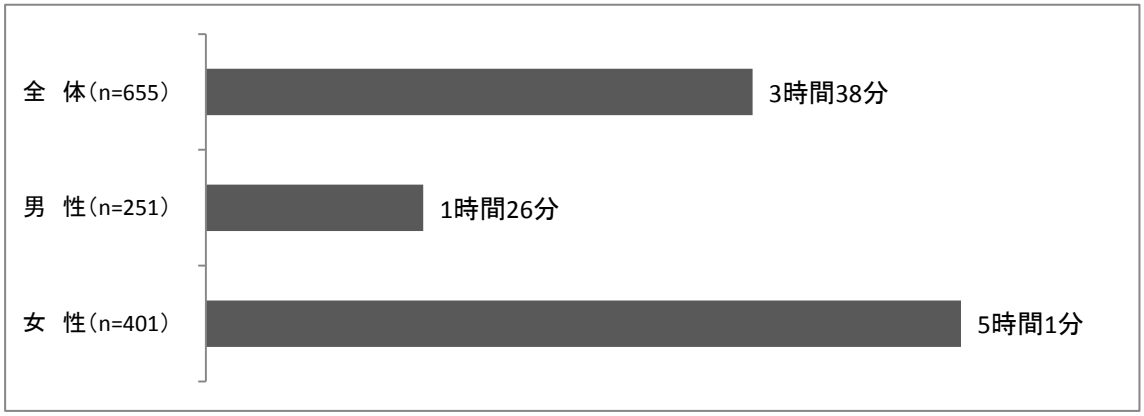
①家事・育児・介護などの時間



【性別・年齢階層別】

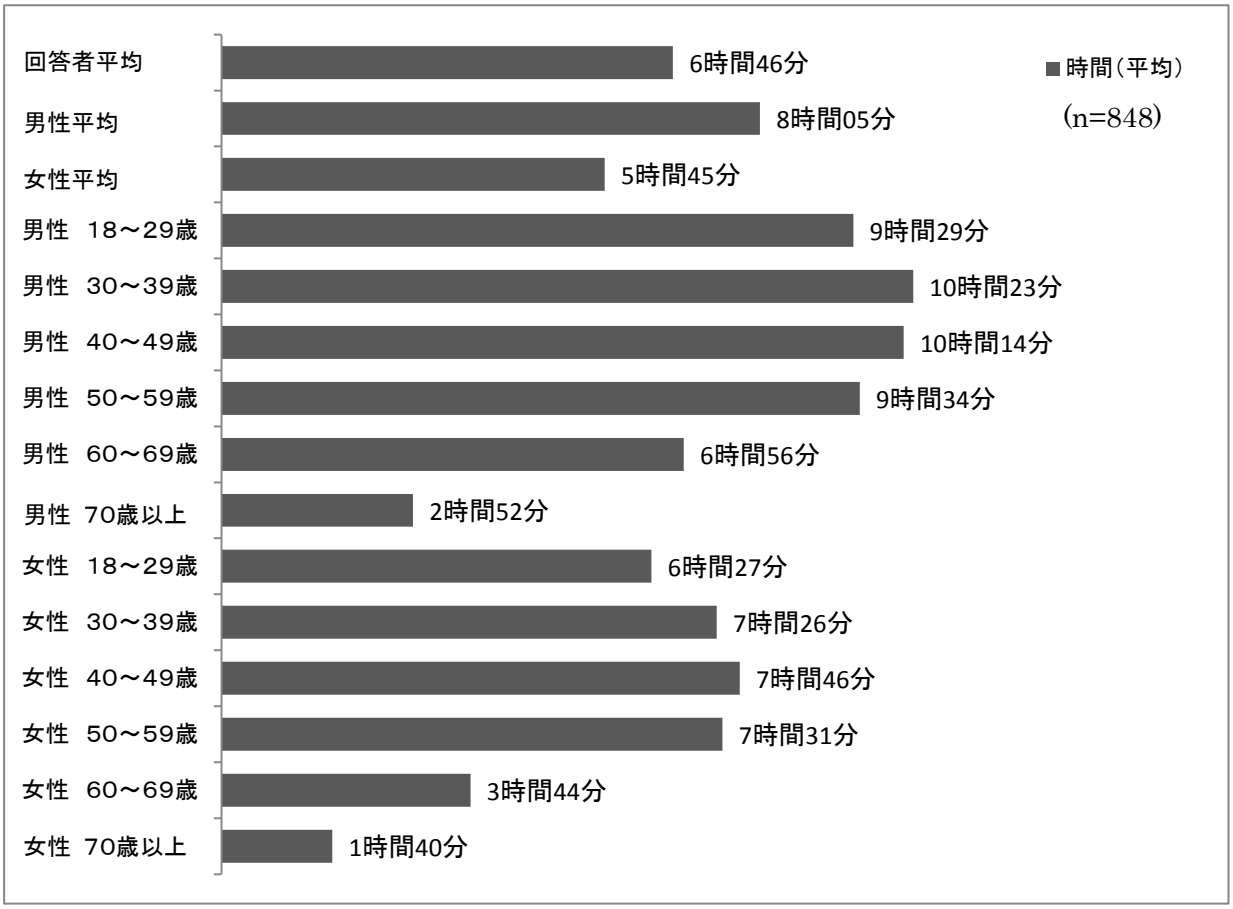
「一日の家事・育児・介護等に従事する時間（以下「家事時間」という）」（男性 1 時間 15 分、女性 4 時間 8 分）は、女性の方が、男性の約 3 倍となっている。

【前回調査（平成 23 年度）との比較】



女性（今回 4 時間 8 分、前回 5 時間 1 分）は 53 分、男性（今回 1 時間 15 分、前回 1 時間 26 分）は 11 分減少した。

②収入を得る仕事に使う時間（通勤時間含む）



【性別・年齢階層別】

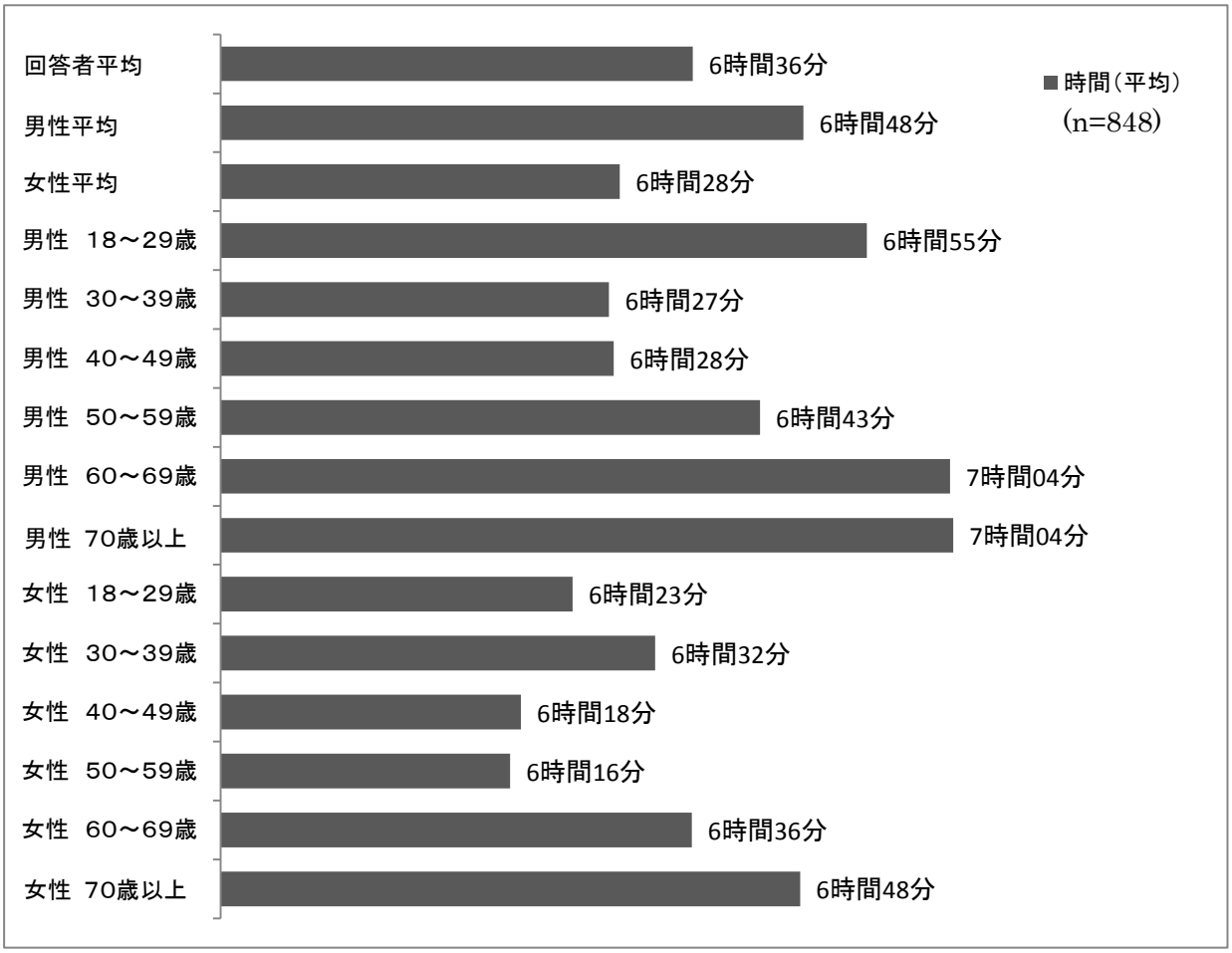
「収入を得る仕事に使う時間（通勤時間含む）」（男性 8 時間 5 分、女性 5 時間 45 分）は、男性の方が 2 時間 20 分上回っている。

年齢別にみると、18 歳～49 歳では、女性より男性の方が約 3 時間上回っている。

【前回調査（平成 23 年度）との比較】

全体（今回 6 時間 46 分、前回 8 時間 54 分）で、2 時間 8 分減少した。

③睡眠時間

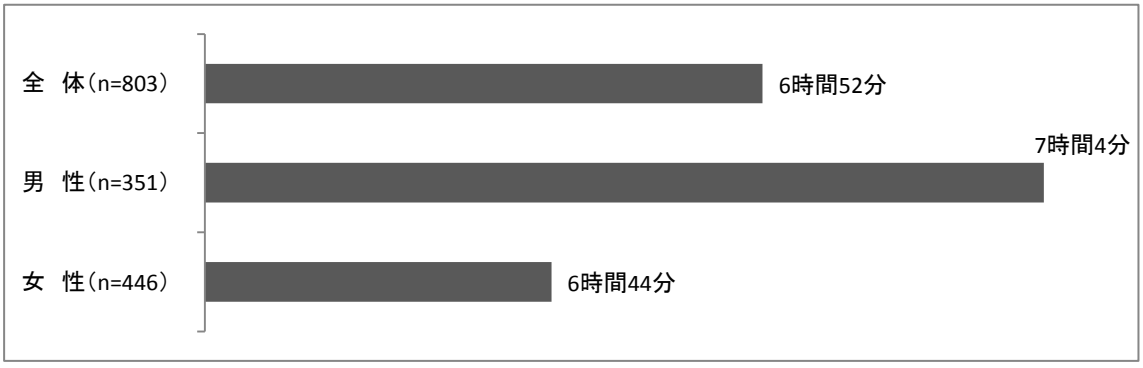


【性別・年齢階層別】

睡眠時間（男性 6 時間 48 分、女性 6 時間 28 分）は、男性の方が 20 分上回っている。

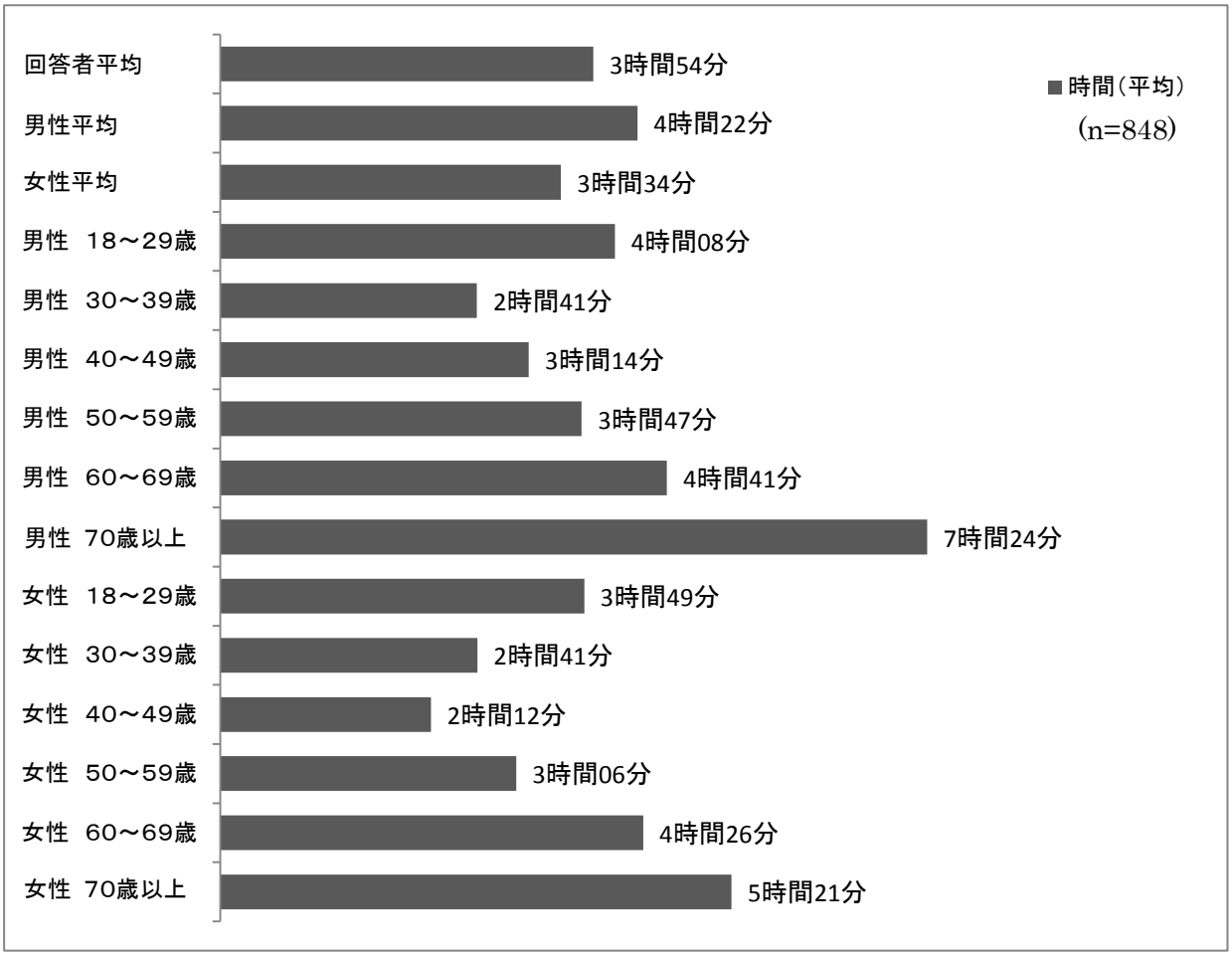
年齢別にみると、30 歳代以外は女性より男性の方が長い傾向が見られた。

【前回調査（平成 23 年度）との比較】



男性（今回 6 時間 48 分、前回 7 時間 4 分）と女性（今回 6 時間 28 分、前回 6 時間 44 分）ともに 16 分減少した。

④自分の自由になる時間

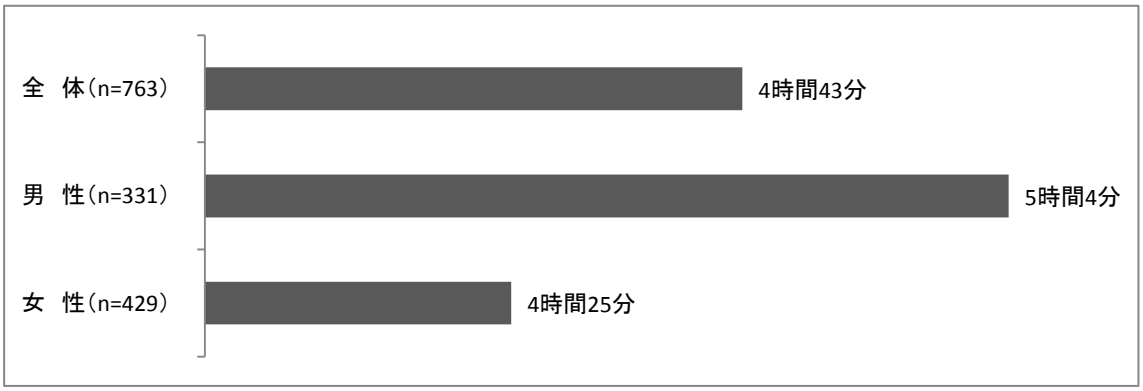


【性別・年齢階層別】

自分の自由になる時間（男性 4 時間 22 分、女性 3 時間 34 分）は、男性の方が 48 分上回っている。

年齢別にみると、40 歳代と 70 歳代は男女で時間の差が大きくなっている。

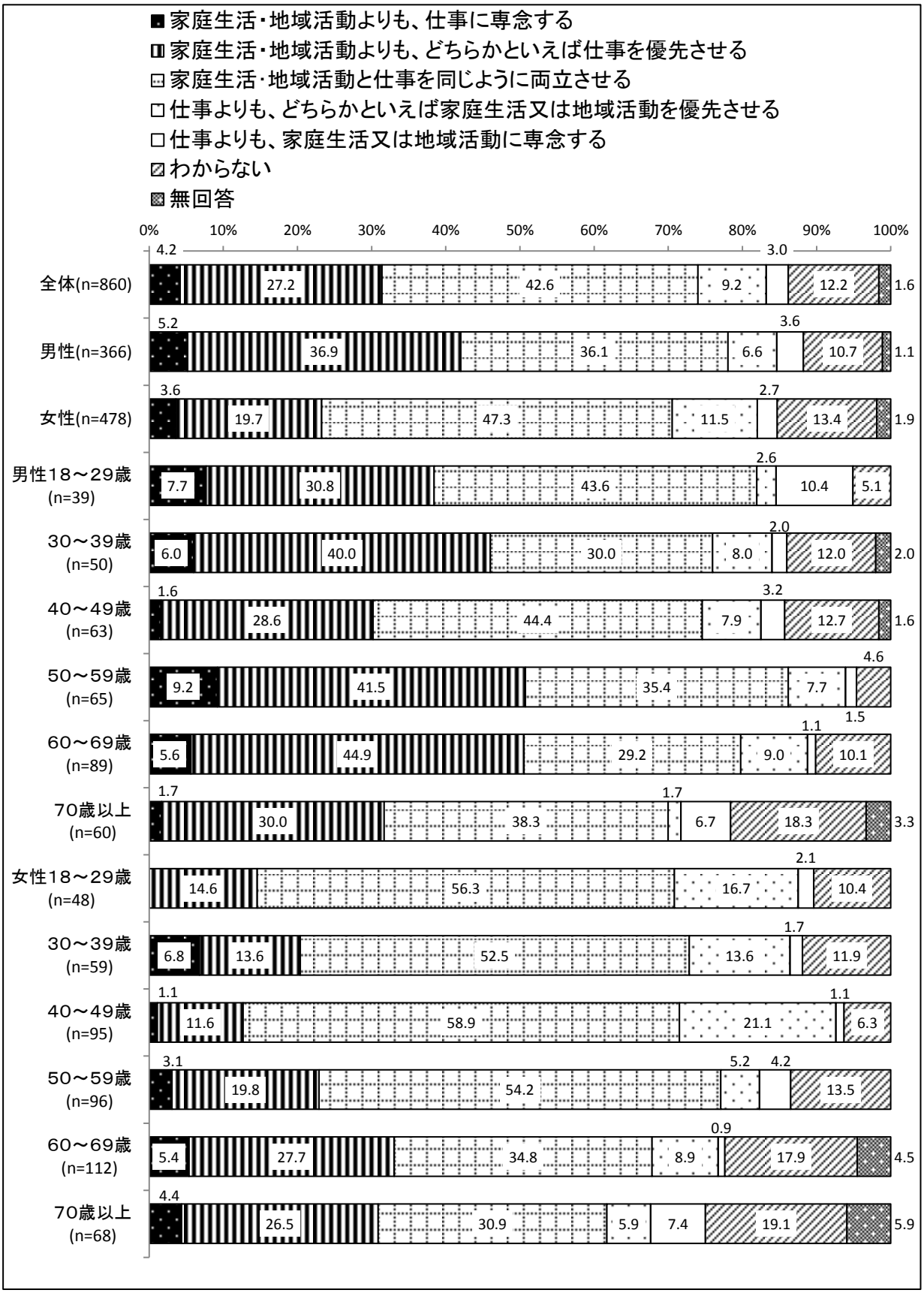
【前回調査（平成 23 年度）との比較】



男性（今回 4 時間 22 分、前回 5 時間 4 分）は 42 分、女性（今回 3 時間 34 分、前回 4 時間 25 分）は 51 分それぞれ減少した。

(2)仕事と家庭生活・地域活動などの位置づけ

問６　仕事と、家庭生活・地域活動について、どのように位置づけるのが望ましいと思いますか。（○は１つだけ）



【全体結果】

「どちらも同じように両立させる」が 42.6%で最も高く、次いで「家庭生活・地域活動よりも、どちらかといえば仕事を優先させる」が 27.2%となっている。

【性別・年齢階層別】

「どちらも同じように両立させる」（男性 36.1%、女性 47.3%）は女性で最も多く、男性は 2 番目に多くなっている。「家庭生活・地域活動よりも、どちらかといえば仕事を優先させる」（男性 36.9%、女性 19.7%）は男性で最も多く、女性は 2 番目に多くなっている。

年齢別にみると、女性の 18 歳～59 歳までは、「どちらも同じように両立させる」の割合が過半数となっている。また、男性の 18 歳～29 歳と 40 歳代は、「家庭生活・地域活動よりも、仕事に専念する」と「家庭生活・地域活動よりも、どちらかといえば仕事に専念する」の合計比率（18 歳～29 歳 38.5%、40 歳代 30.2%）より、「どちらも同じように両立させる」（18 歳～29 歳 43.6%、40 歳代 44.4%）の方が高くなっている。

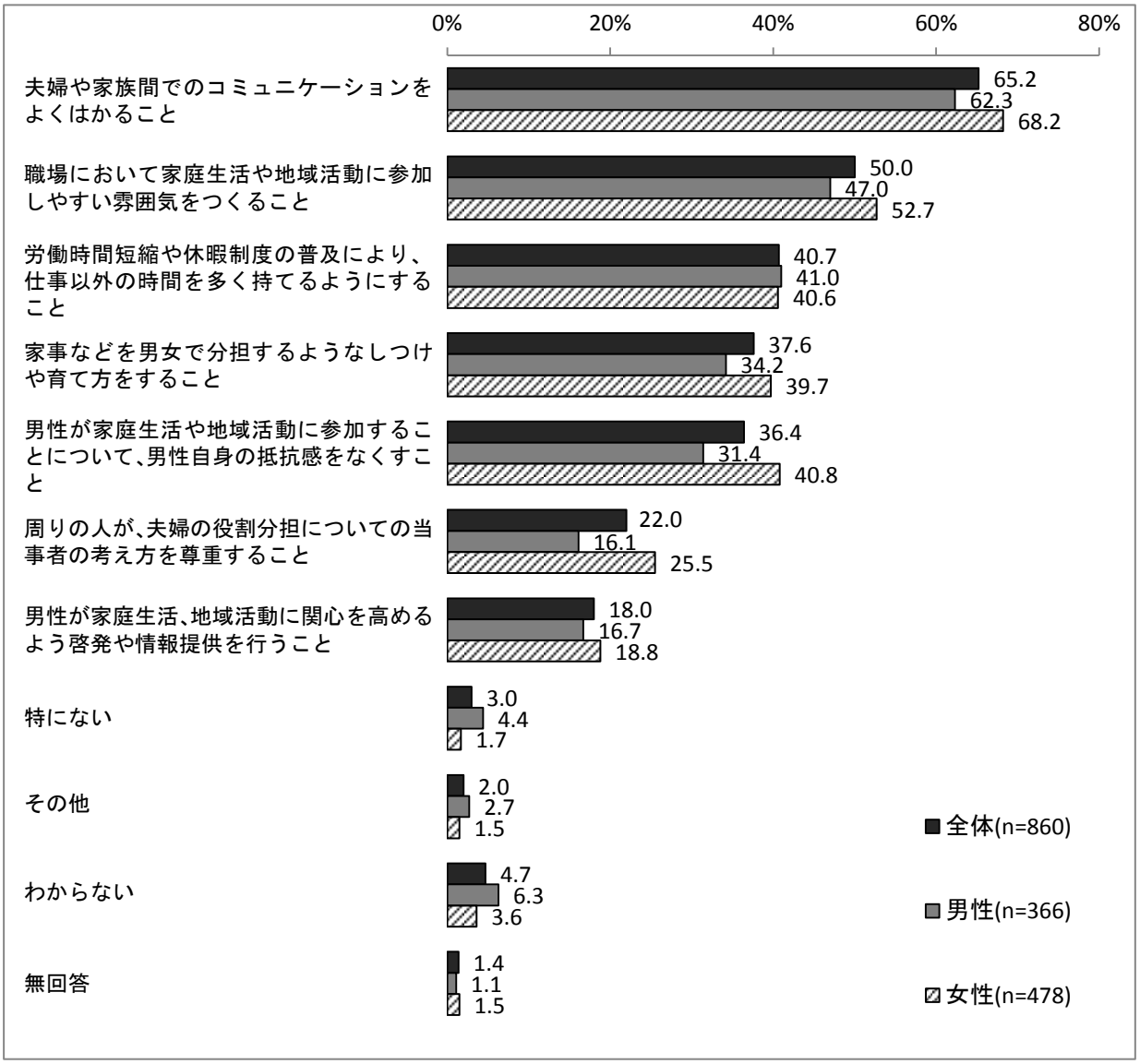
【前回調査との比較】

※この設問は今回の調査から追加した。

(3) 男性が家庭生活・地域活動に積極的に参加するために必要なこと

問７　あなたは、男性が女性とともに家庭生活（家事・育児・介護）、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。

（○はあてはまるものすべて）



【全体結果】

「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が 65.2%で最も高く、次いで「職場において家庭生活、地域活動に積極的に参加しやすい雰囲気をつくること」が 50.0%、「労働時間短縮や休暇制度の普及により、仕事以外の時間を多く持てるようにすること」が 40.7%の順となっている。

【性別による結果】

項目ごとに男女の割合にほとんど差は見られない。

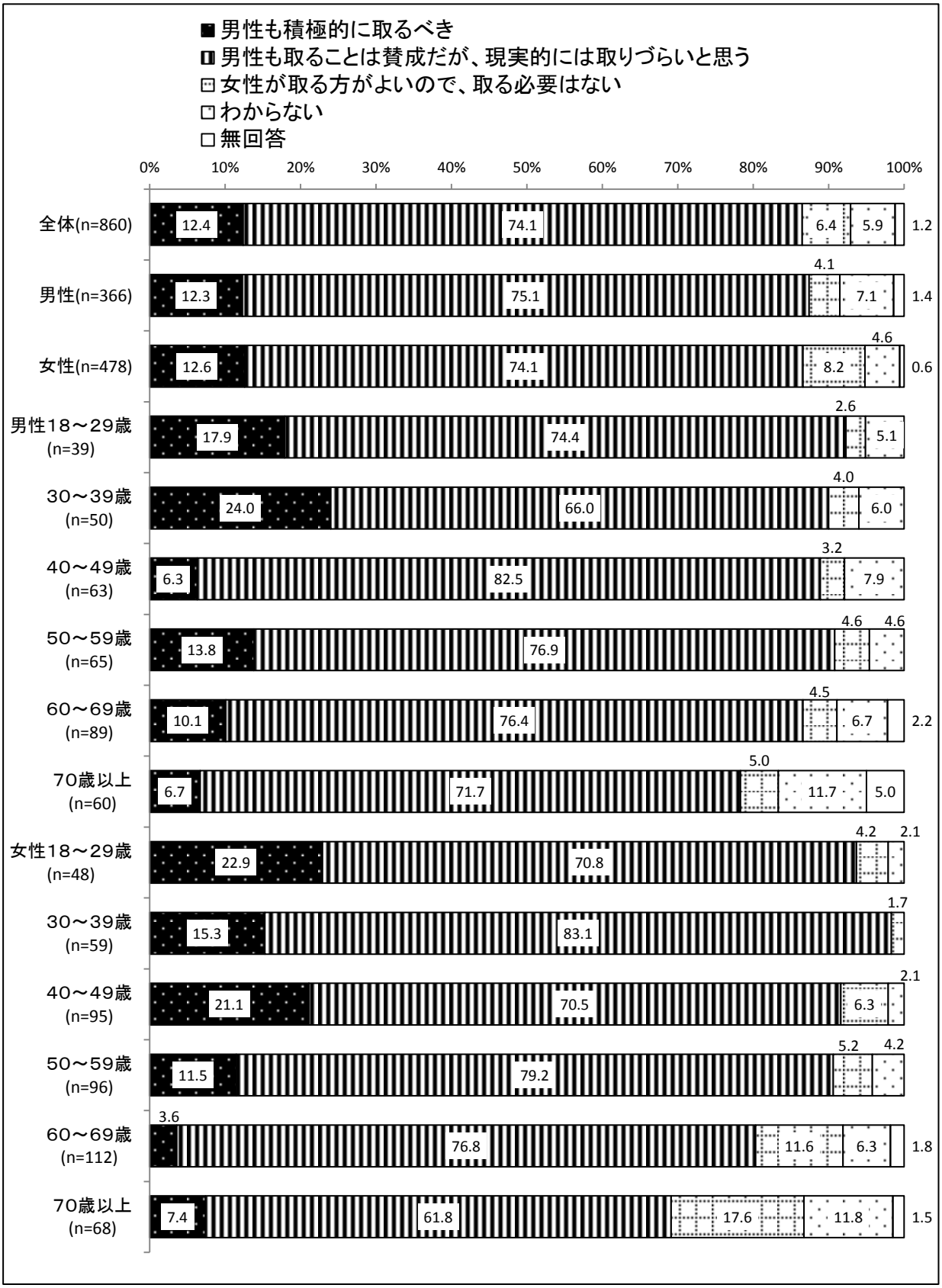
【前回調査との比較】

※この設問は今回の調査から追加した。

(4) 男性の育児休業・介護休業の取得について

問８　あなたは、男性が育児休業・介護休業をとることについてどう思いますか。それぞれあなたの考えに最も近いものをお選びください。

①男性の育児休業



【全体結果】

「男性も積極的にとるべき」は 12.4%、「男性も取ることには賛成だが、現実的に取りづらいと思う」は 74.1%、「女性が取る方が良いので、取る必要はない」が 6.4%、「わからない」は 5.9%という結果となった。

【性別・年齢階層別】

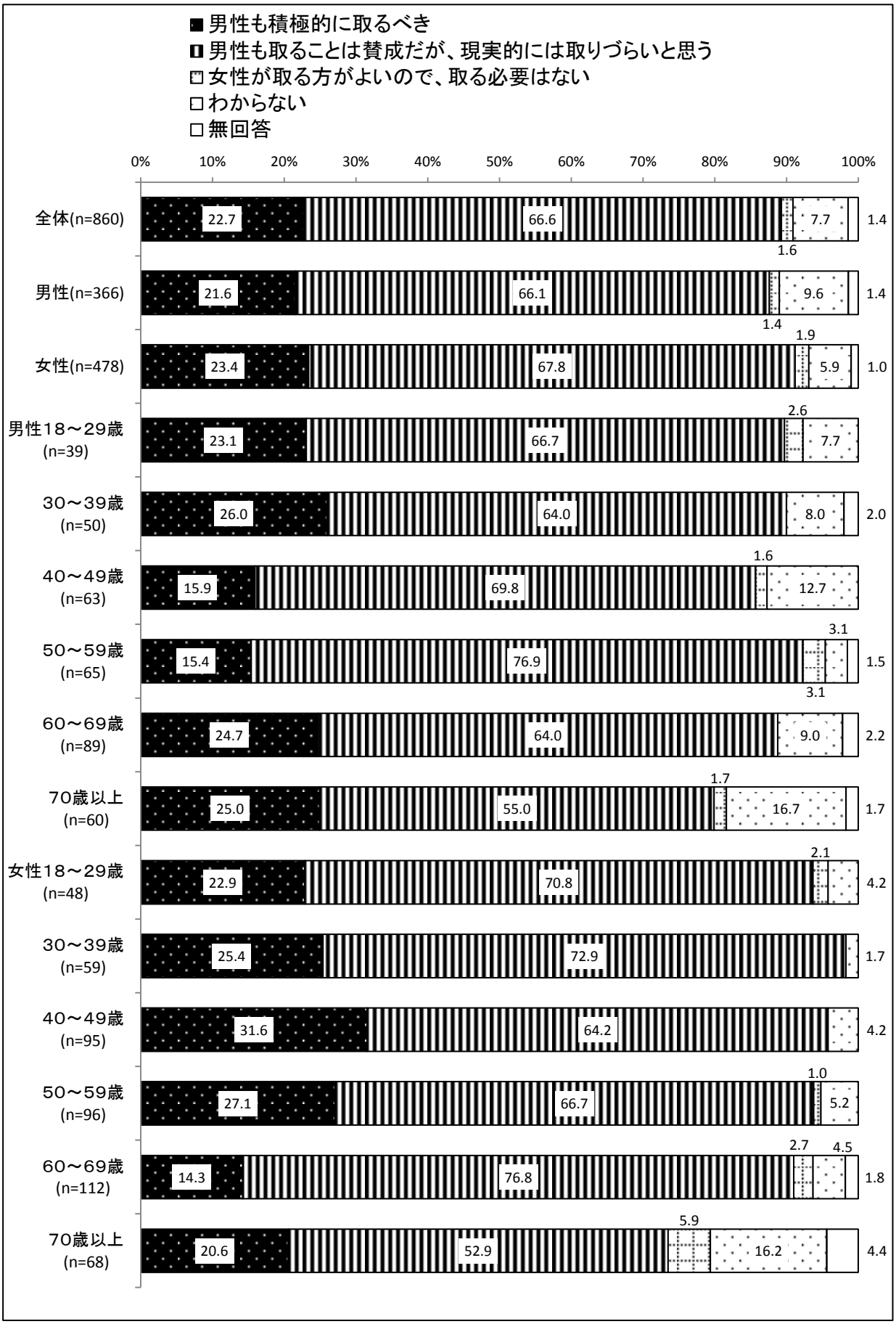
「男性も取ることには賛成だが、現実的に取りづらいと思う」（男性 75.1%、女性 74.1%）の割合は男女とも最も高い。男女の割合にほとんど差は見られなかった。

年齢別にみると、「男性も積極的に取るべき」は、男性は 30 歳代（24.0%）、女性は 18 歳～29 歳（22.9%）と 40 歳代（21.1%）で高くなっている。「男性も取ることには賛成だが、現実的には取りづらいと思う」は、男性は 40 歳代（82.5%）、女性は 30 歳代 83.1%）で最も高くなっている。

【前回調査との比較】

※この設問は今回の調査から追加した。

②男性の介護休業


■男性も積極的に取るべき
■男性も取ることは賛成だが、現実的には取りづらいと思う
□女性が取る方がよいので、取る必要はない
□わからない
□無回答
0%
10%
20%
30%
40%
50%
60%
70%
80%
90%
100%
全体(n=860) 22.7 66.6 1.6 7.7 1.4
男性(n=366) 21.6 66.1 1.4 9.6 1.4
女性(n=478) 23.4 67.8 1.9 5.9 1.0
男性18～29歳 (n=39) 23.1 66.7 2.6 7.7
30～39歳 (n=50) 26.0 64.0 8.0 2.0
40～49歳 (n=63) 15.9 69.8 1.6 12.7
50～59歳 (n=65) 15.4 76.9 3.1 3.1 1.5
60～69歳 (n=89) 24.7 64.0 9.0 2.2
70歳以上 (n=60) 25.0 55.0 1.7 16.7 1.7
女性18～29歳 (n=48) 22.9 70.8 2.1 4.2
30～39歳 (n=59) 25.4 72.9 1.7
40～49歳 (n=95) 31.6 64.2 4.2
50～59歳 (n=96) 27.1 66.7 1.0 5.2
60～69歳 (n=112) 14.3 76.8 2.7 4.5 1.8
70歳以上 (n=68) 20.6 52.9 5.9 16.2 4.4

【全体結果】

「男性も積極的にとるべき」は 22.7%、「男性も取ることには賛成だが、現実的に取りづらいと思う」が 66.6%、「女性が取る方が良いので、取る必要はない」が 1.6%、「わからない」は 7.7%という結果となった。

【性別・年齢階層別】

「男性も取ることには賛成だが、現実的に取りづらいと思う」（男性 66.1%、女性 67.8%）が男女ともに最も高い。男女の割合にほとんど差は見られなかった。

年齢別にみると、「男性も積極的に取るべき」の割合が、40 歳代（男性 15.9%、女性 31.6%）と 50 歳代（男性 15.4%、女性 27.1%）は、他の年代と比べて男性は低く、女性は高くなっている。「男性も取ることには賛成だが、現実的には取りづらいと思う」は男性は 50 歳代（76.9%）、女性は 60 歳代（76.8%）で高い結果となっている。

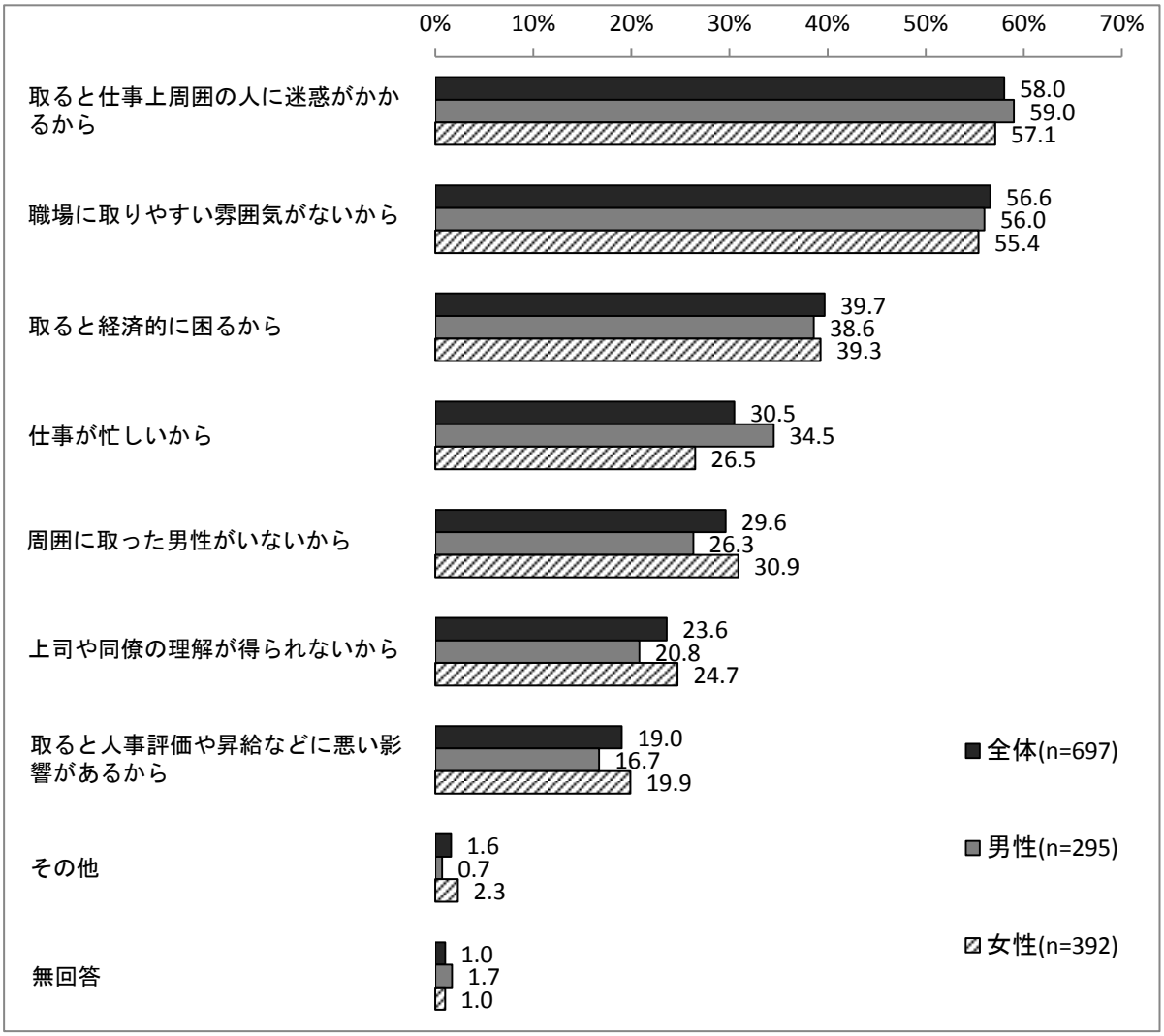
【前回調査との比較】

※この設問は今回の調査から追加した。

(5) 育児休業・介護休業が取りづらい理由

問８-１　その理由は何だと思いますか。（○は３つまで）

【問８で「男性も取ることには賛成だが、現実的には取りづらいと思う」と答えた方が回答】



【全体結果】

「取ると仕事上周囲の人に迷惑がかかるから」が 58.0%で最も多く、次いで「職場に取りやすい雰囲気がないから」が 56.6%、「取ると経済的に困るから」が 39.7%という結果となった。

【性別による結果】

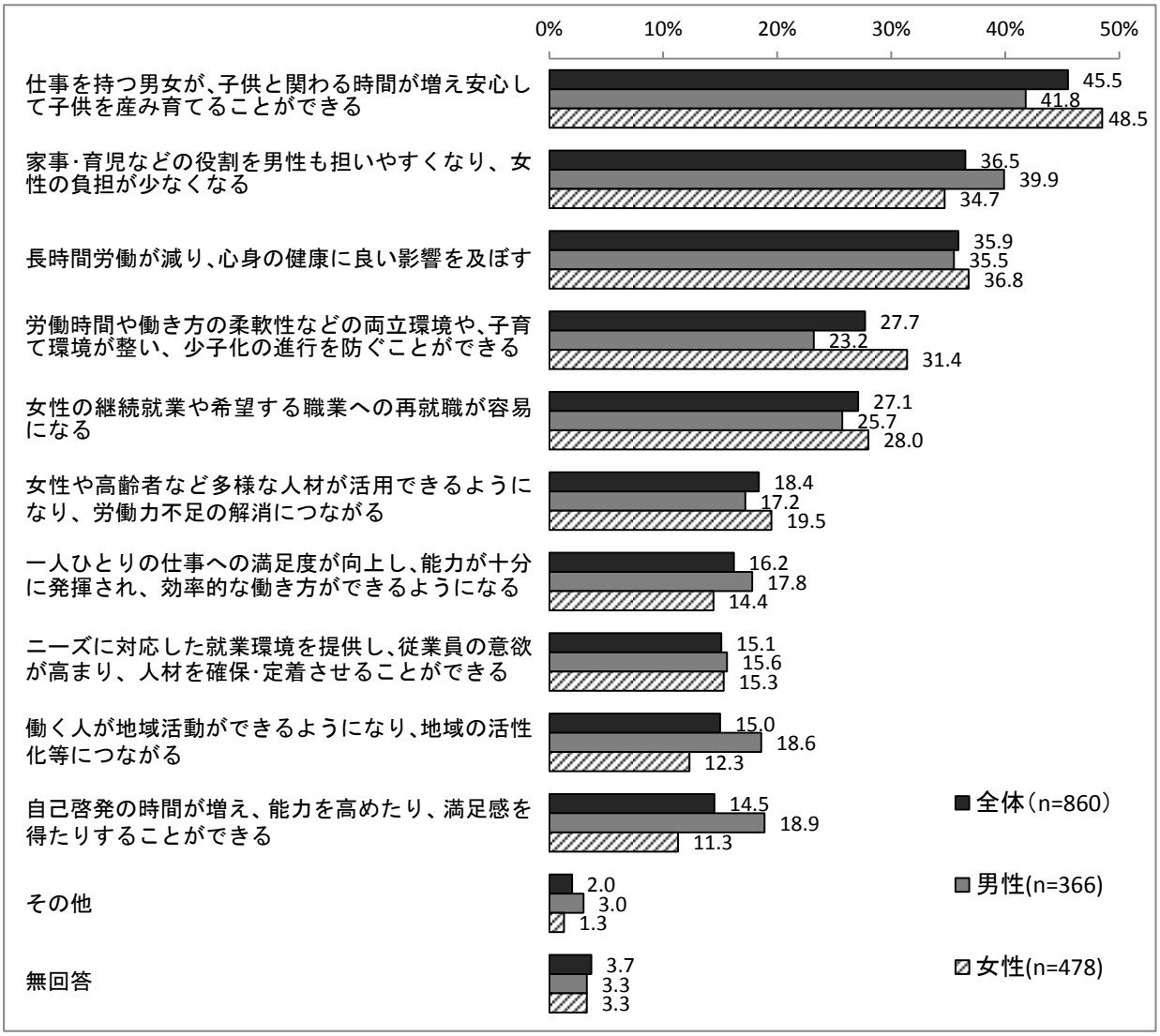
男女で差はほとんど見られなかった。

【前回調査との比較】

※この設問は今回の調査から追加した。

(6) ワーク･ライフ･バランスの効果

問９　仕事と生活の調和（ワーク･ライフ･バランス）を推進していくことによる効果について、あてはまると思うものを３つまでお選びください。（○は３つまで）



【全体結果】

「仕事をもつ男女が、子供と関わる時間が増え安心して子供を生み育てることができる」が最も高く 45.5%、次いで「家事・育児などの役割を男性も担いやすくなり、女性の負担が少なくなる」が 36.5%、「長時間労働が減り、心身の健康に良い影響を及ぼす」が 35.9%と続いている。

【性別による結果】

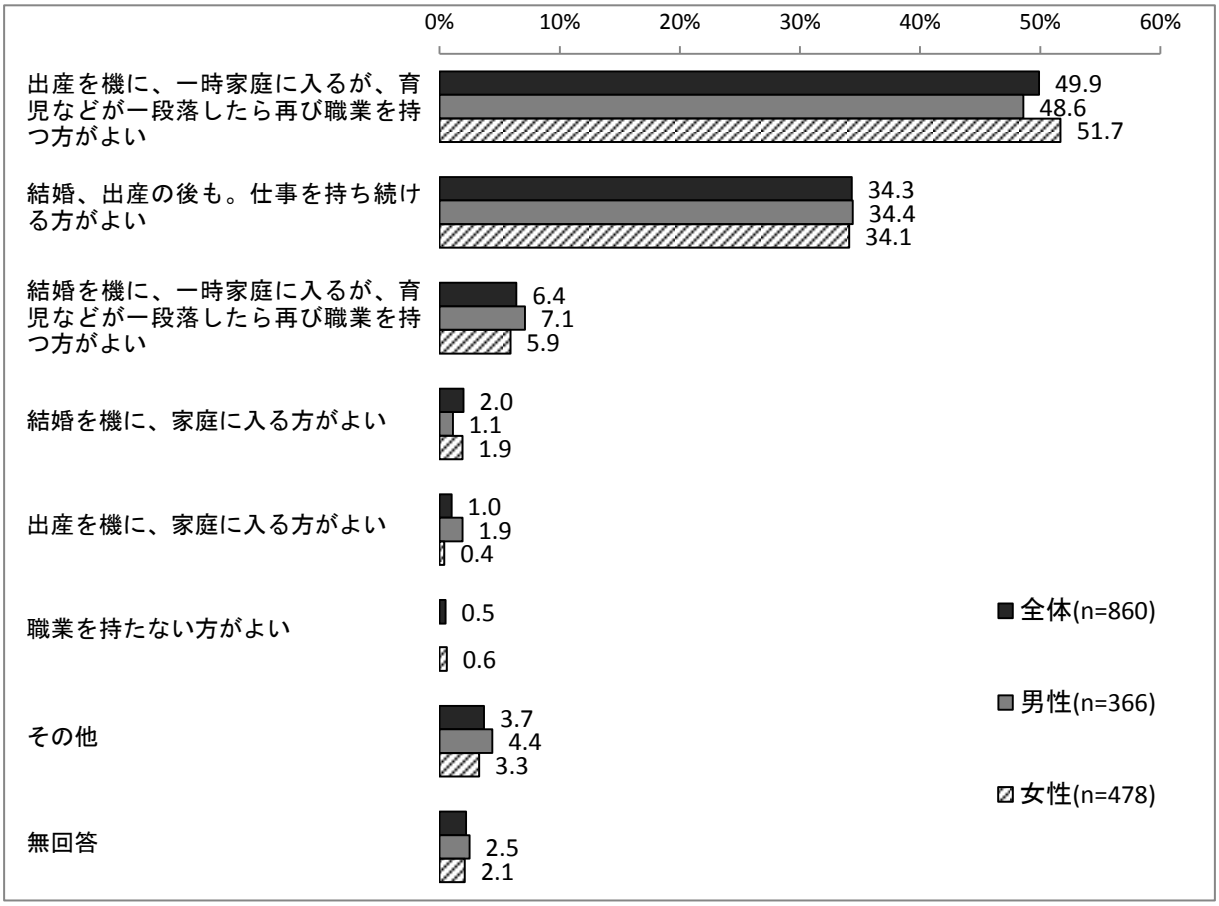
「仕事をもつ男女が、子供と関わる時間が増え安心して子供を生み育てることができる」（男性 41.8%、女性 48.5%）が男女ともに最も高くなっている。女性の 2 番目は、「長時間労働が減り、心身の健康に良い影響を及ぼす」（男性 35.5%、女性 36.8%）で、男性の 2 番目は「家事･育児などの役割を男性も担いやすくなり､女性の負担が少なくなる」（男性 39.9%、女性 34.7%）となっている。

【前回調査との比較】※この設問は今回の調査から追加した。

４．女性の社会参画について

(1) 女性の職業と生活設計についての考え方

問１０　あなたは、女性の職業と生活設計についてどのように考えますか。（○は１つだけ）



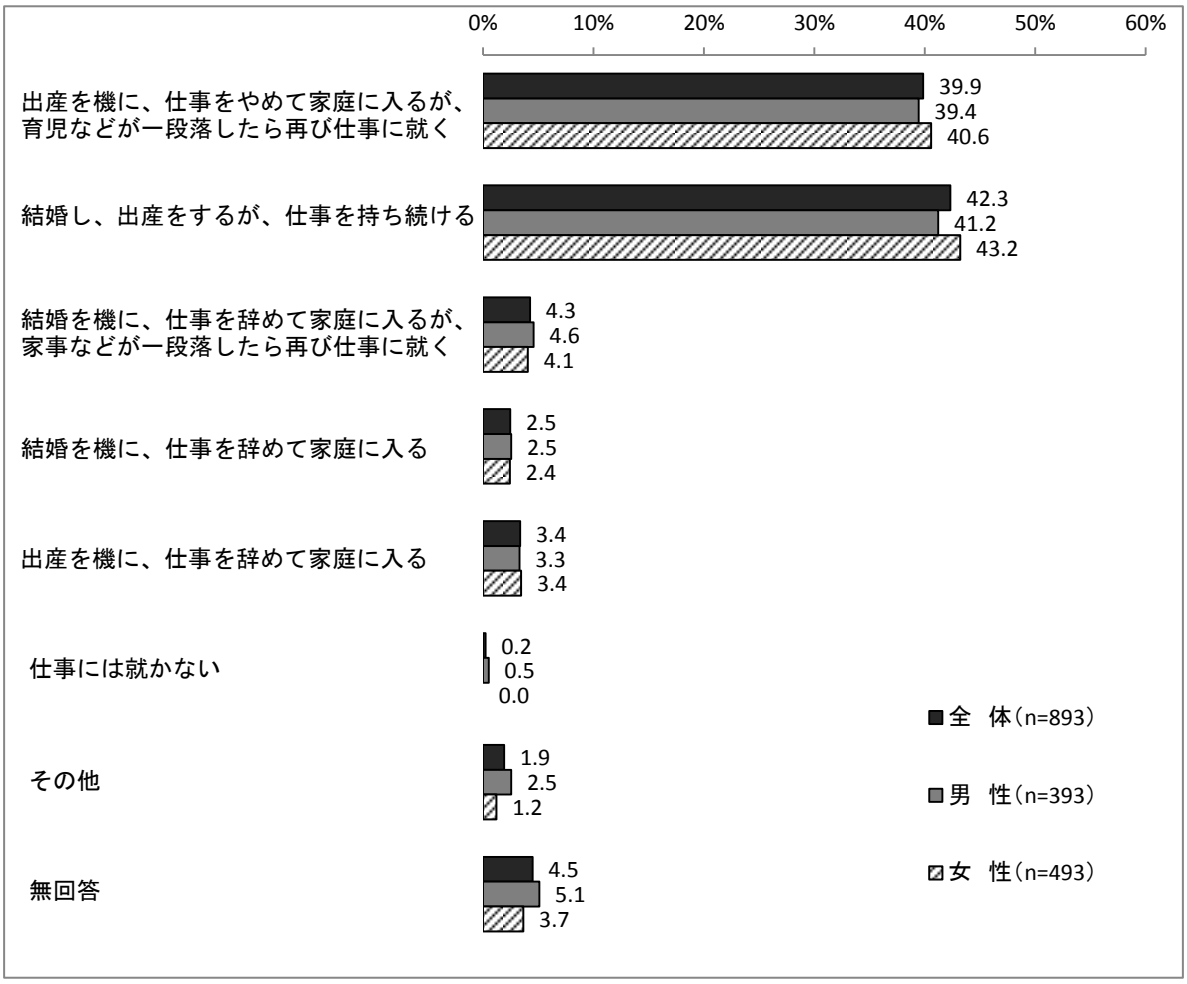
【全体結果】

「出産を機に、一時家庭に入るが、育児などが一段落したら再び職業を持つ方がよい」（以下「子育てによる就労中断型」）が 49.9％で最も高い。次いで「結婚、出産の後も仕事を続ける方がよい」（以下「就労継続型」）が 34.3％と続いている。

【性別による結果】

男女で差はほとんど見られなかった。

【前回調査（平成 23 年度）との比較】

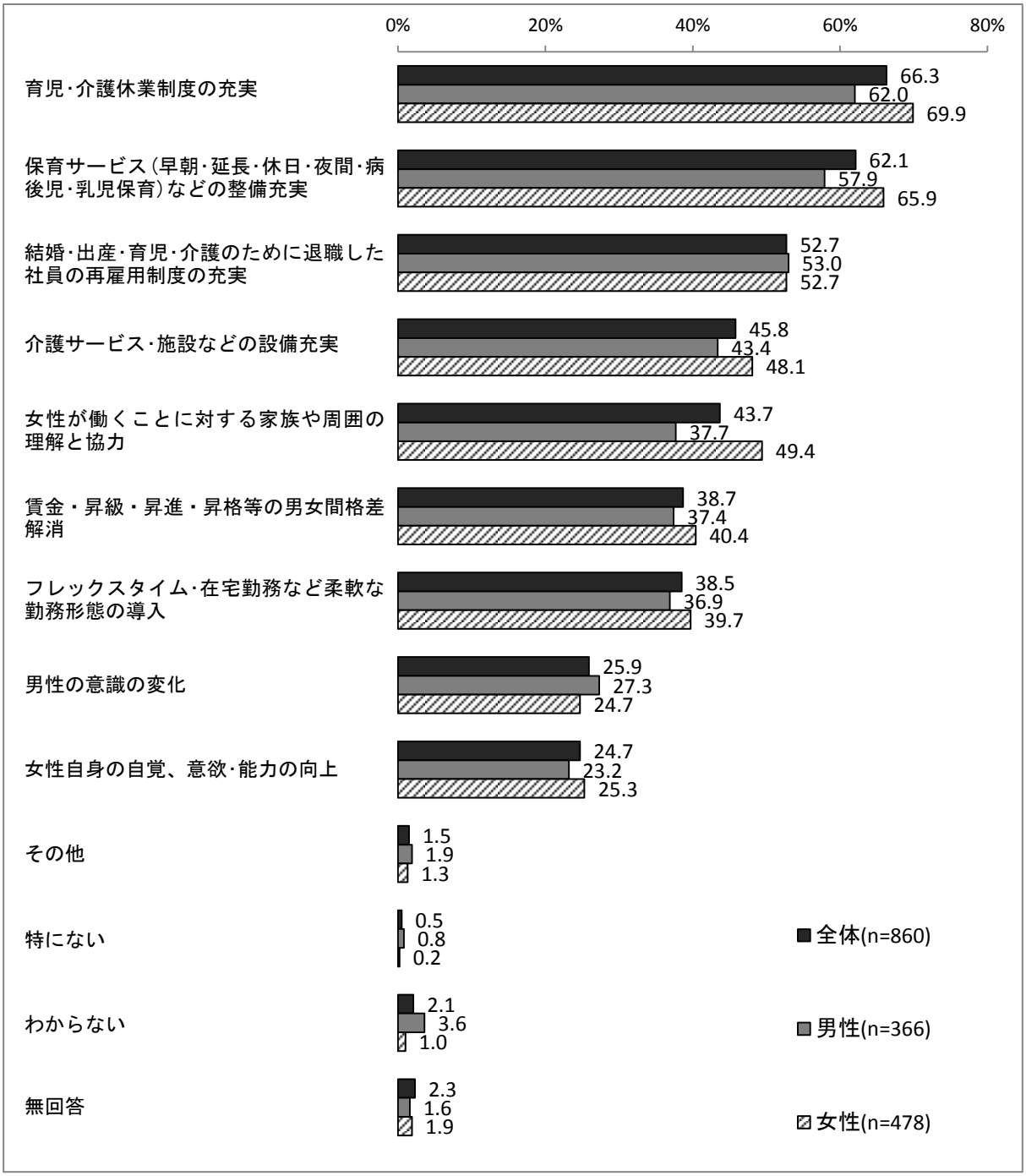


「就労継続型」（今回 34.3%、前回 42.3%）は、8 ポイント減少し、「子育てによる就労中断型」（今回 49.9%、前回 39.9%）は、10 ポイント増加している。

その他については、差はほとんど見られなかった。

(2) 女性が働き続けるために必要なこと

問１１　あなたは、女性が働き続けるためには、どのようなことが必要だと思いますか。
あてはまるものすべてお選びください。



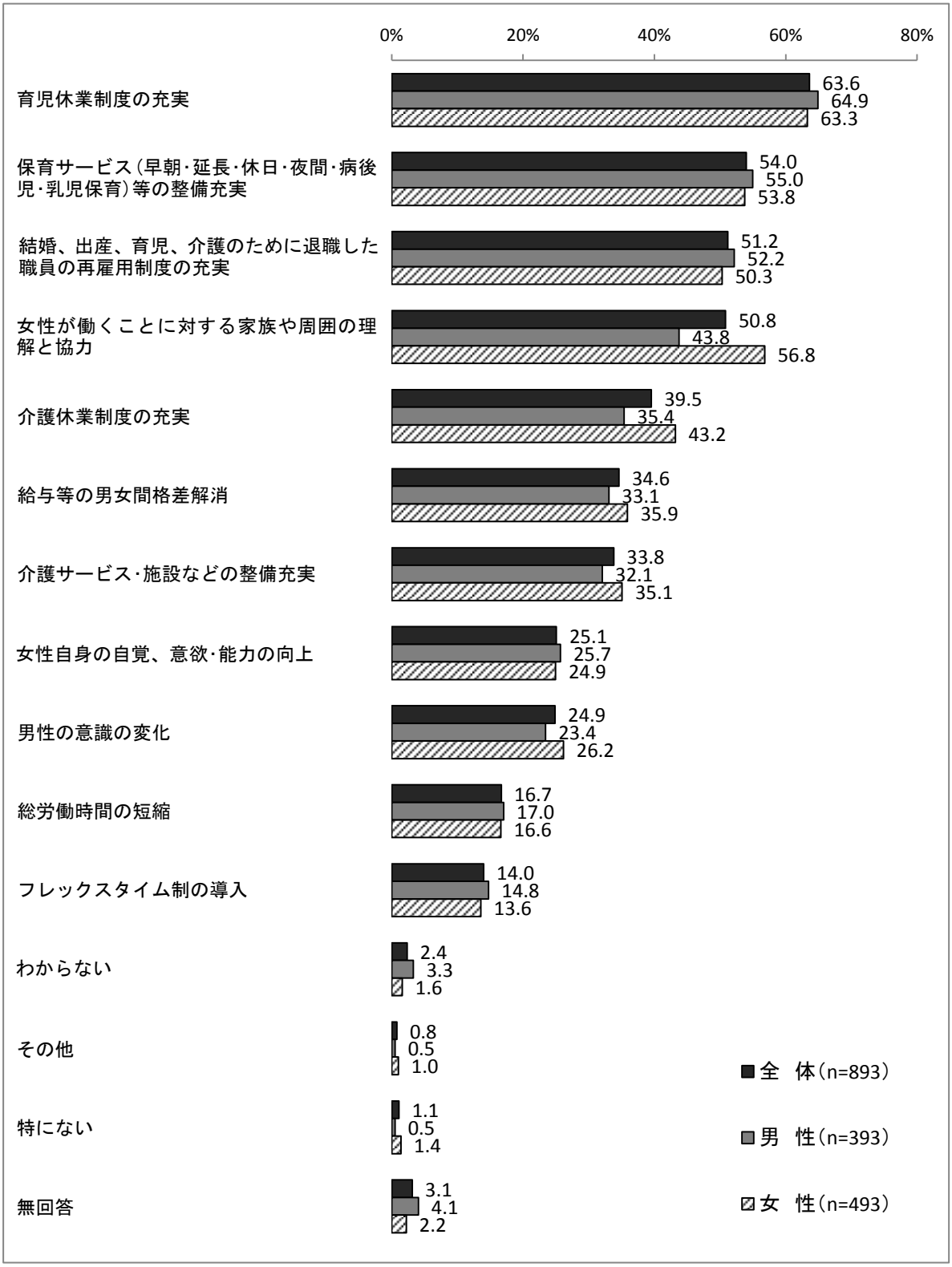
【全体結果】

「育児・介護休業制度の充実」が 66.3%で最も高く、次いで「保育サービスなどの設備充実」が 62.1%、「結婚・出産・育児・介護のために退職した社員の再雇用制度の充実」52.7%と続いている。

【性別による結果】

「女性が働くことに対する家族や周囲の理解と協力」（男性 37.7%、女性 49.4%）は、女性より男性の方が 11.7 ポイント少なく、男女の差が最もあった。

【前回調査（平成 23 年度）との比較】

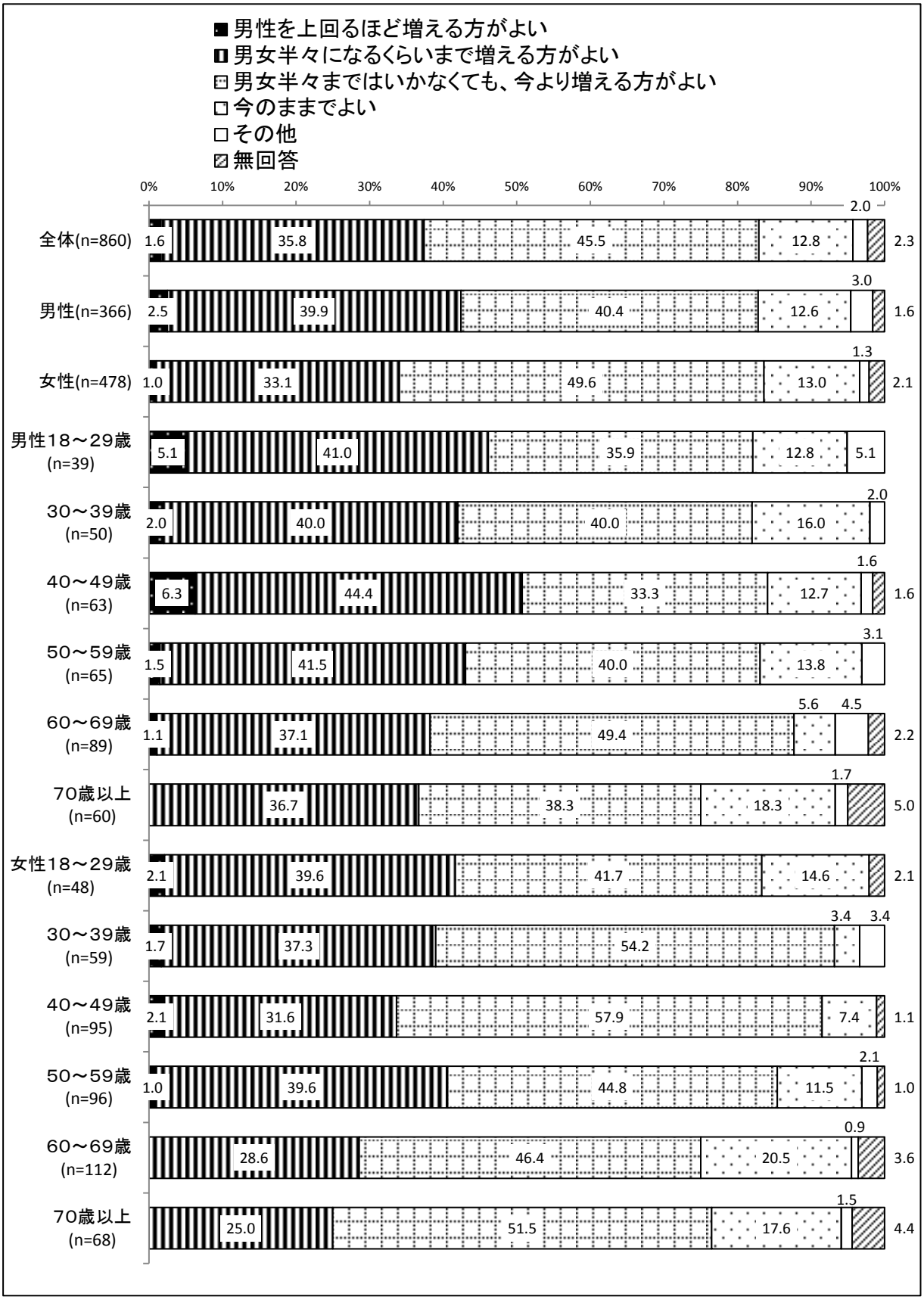


「フレックスタイム・在宅勤務などの柔軟な勤務形態の導入」（今回 38.5%、前回 14.0%）が 24.5 ポイント増加となり、最も差が大きかった。

女性は「女性が働くことに対する家族や周囲の理解と協力」（今回 49.4%、前回 56.8%）が 7.4 ポイント減少しており、「介護サービス･施設などの整備充実」（今回 48.1%、前回 35.1%）が 13.0 ポイント増加している。

(3) 政策・方針決定の場への女性の参画について

問１２　あなたは、審議会の委員など、政策・方針決定の場に女性が参画することについてどう思いますか。（○は１つだけ）



【全体結果】

「男女半々まではいかなくても、今より増える方がよい」が 45.5%で最も高く、次いで「男女半々になるくらいまで増える方がよい」が 35.8%、「今のままでよい」が 12.8%、「男性を上回るほど増える方がよい」は 1.6%という結果となった。

【性別・年齢階層別】

「男女半々になるくらいまで増える方がよい」（男性 39.9%、女性 33.1%）は 6.8 ポイント男性の方が高く、「男女半々まではいかなくても、今より増える方がよい」（男性 40.4%、女性 49.6%）は 9.2 ポイント女性の方が高くなっている。

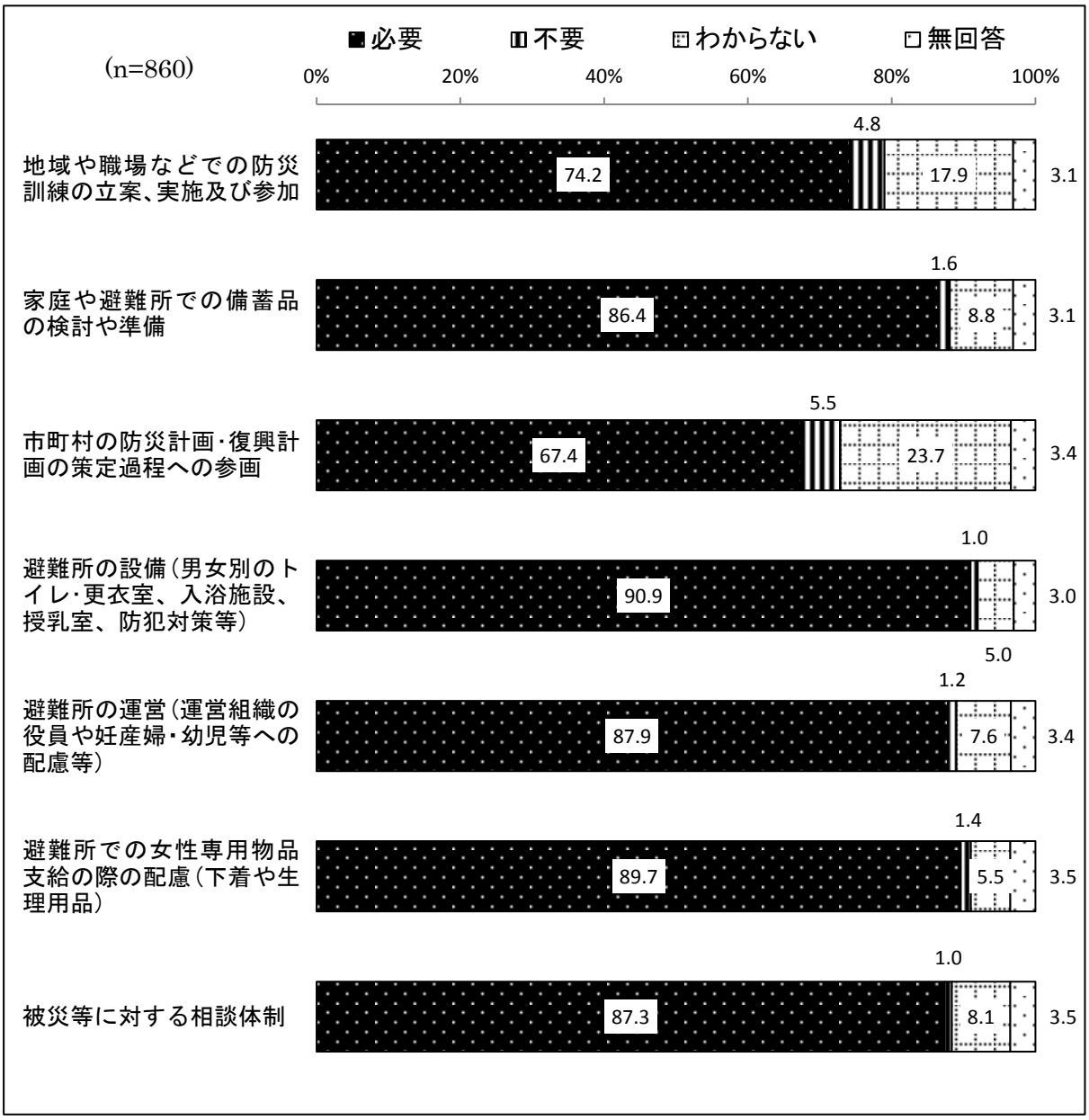
年齢別にみると、「今のままでよい」は女性は 30 歳代（3.4%）、男性は 60 歳代（5.6%）が最も低くなっている。

【前回調査との比較】

※この設問は今回の調査から追加した。

(4) 防災・災害・復興の場での女性の参画等について

問１３　東日本大震災以降、防災・災害・復興の場において、女性の参画や女性の視点の必要性が今まで以上に求められるようになってきています。あなたは、次のそれぞれの場において女性の参画や視点の活用が必要であると思いますか。



【全体結果】

すべての項目で女性の参画や視点の活用が「必要」の割合が高い結果となった。最も高いのは、「避難所の設備」（90.9%）であった。「わからない」の割合が、「市町村の防災計画・復興計画の策定過程への参画」（23.7%）と「地域や職場などでの防災訓練の立案、実施及び参加」（17.9%）で高くなっている。

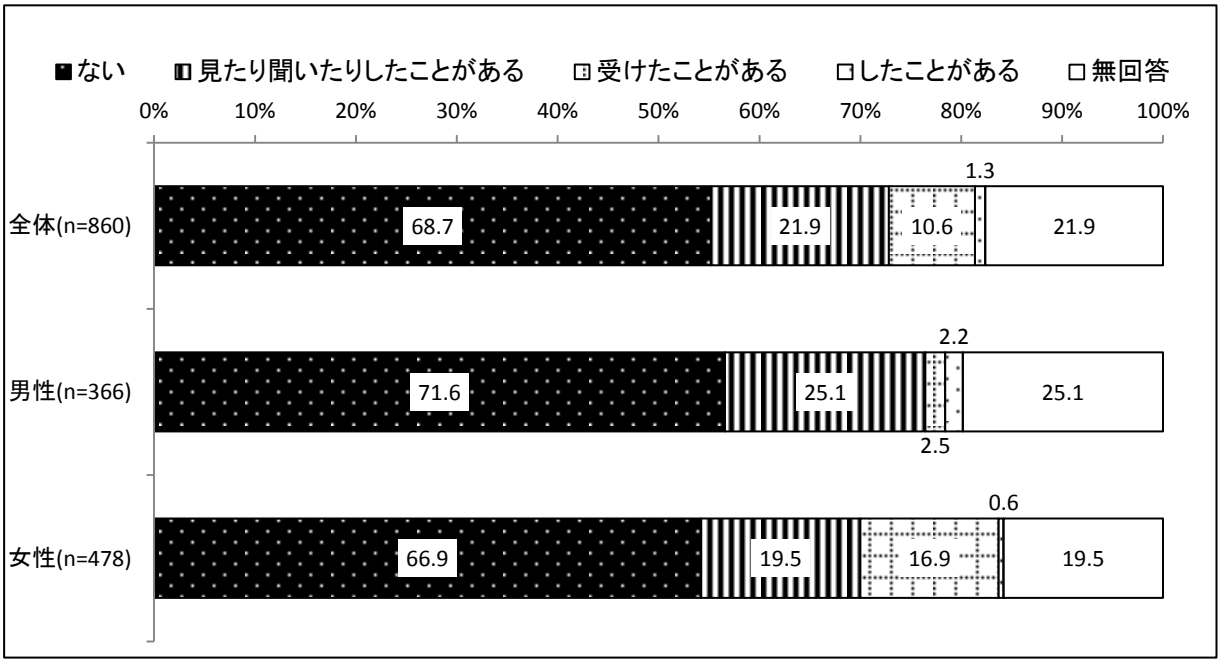
【前回調査との比較】

※この設問は今回の調査から追加した。

５．男女の人権について

(1)セクシュアル･ハラスメントの経験

問１４　あなたは身近でセクシュアル・ハラスメント（性的嫌がらせ）を見たり聞いたり、あるいは自分自身が受けたことや、したことがありますか。



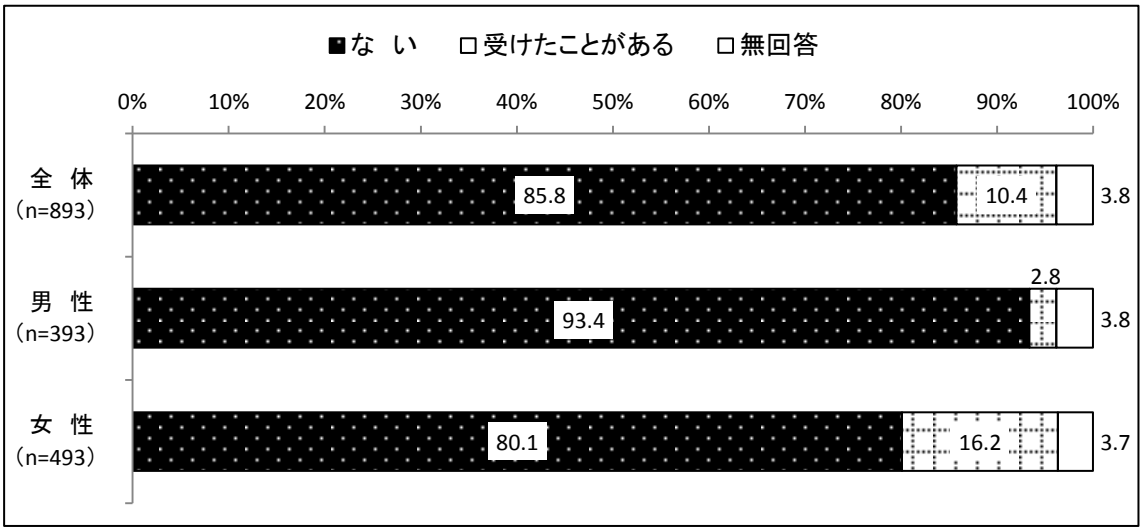
【全体結果】

「ない」の割合が 68.7%で最も高く、「見たり聞いたりしたことがある」が 21.9%、「受けたことがある」が 10.6%、「したことがある」が 1.3%という結果となった。

【性別による結果】

「受けたことがある」（男性 2.5%、女性 16.9%）は、女性の方が割合が高くなっている。

【前回調査（平成 23 年度）との比較】



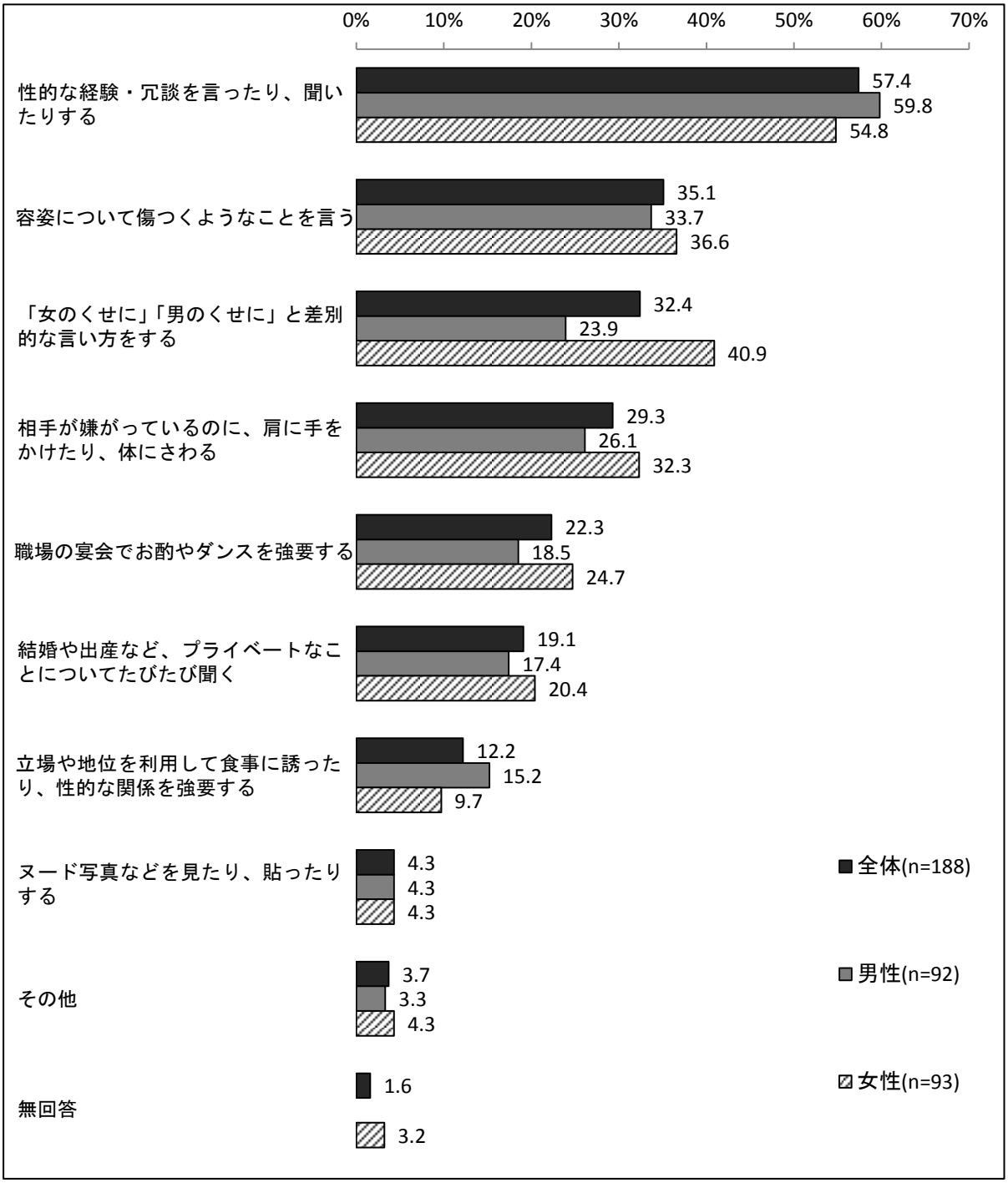
「受けたことがある」という男性（今回 2.5%、前回 2.8%）は 0.3 ポイント減少しているが、女性（今回 16.9%、前回 16.2%）は 0.7 ポイント増加している。

(2)セクシュアル･ハラスメントの内容

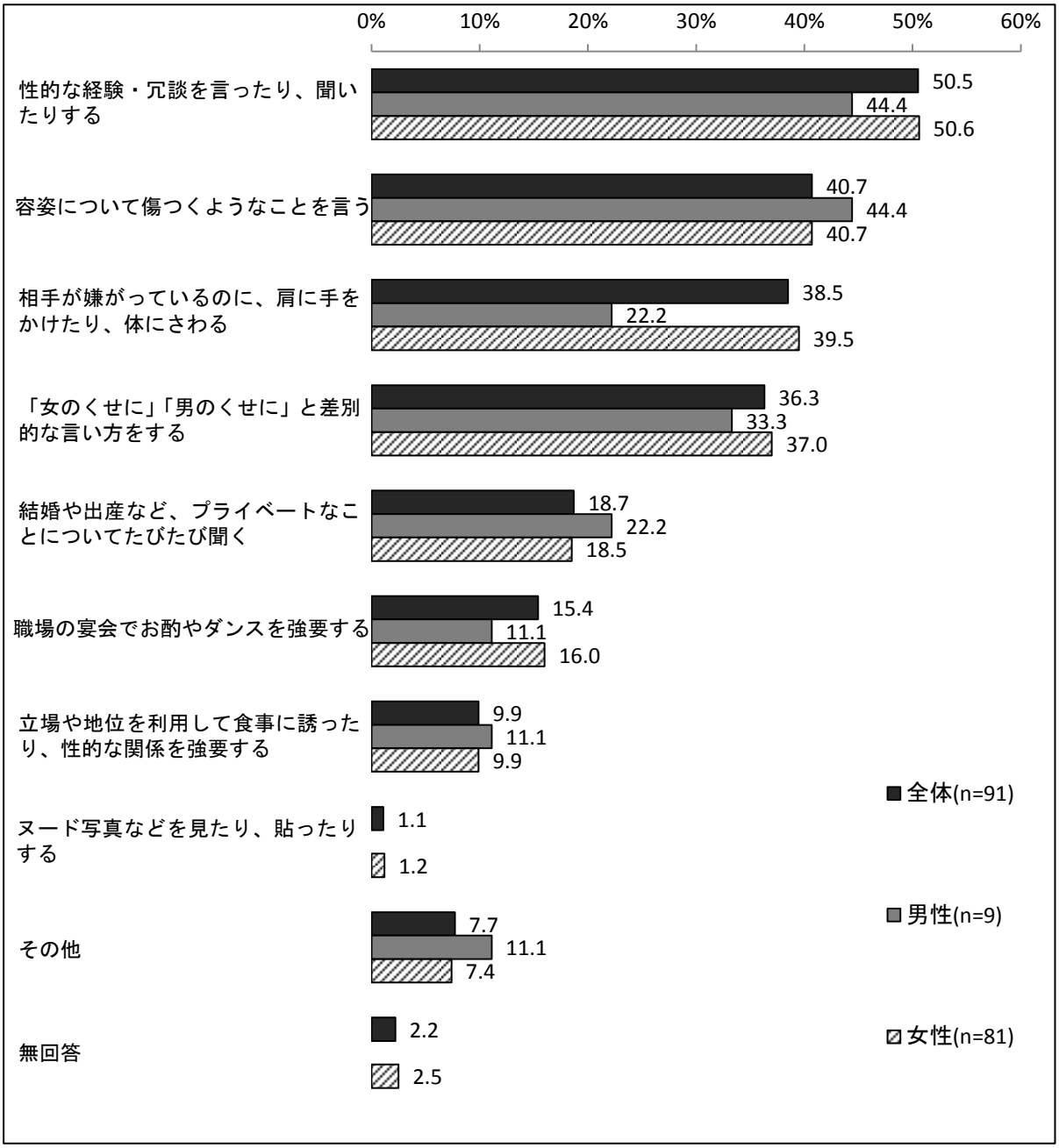
問１４-１　それはどのような内容でしたか。(○はあてはまるものすべて)

【問１４で「見たり聞いたりしたことがある」「受けたことがある」「したことがある」と答えた方が回答】

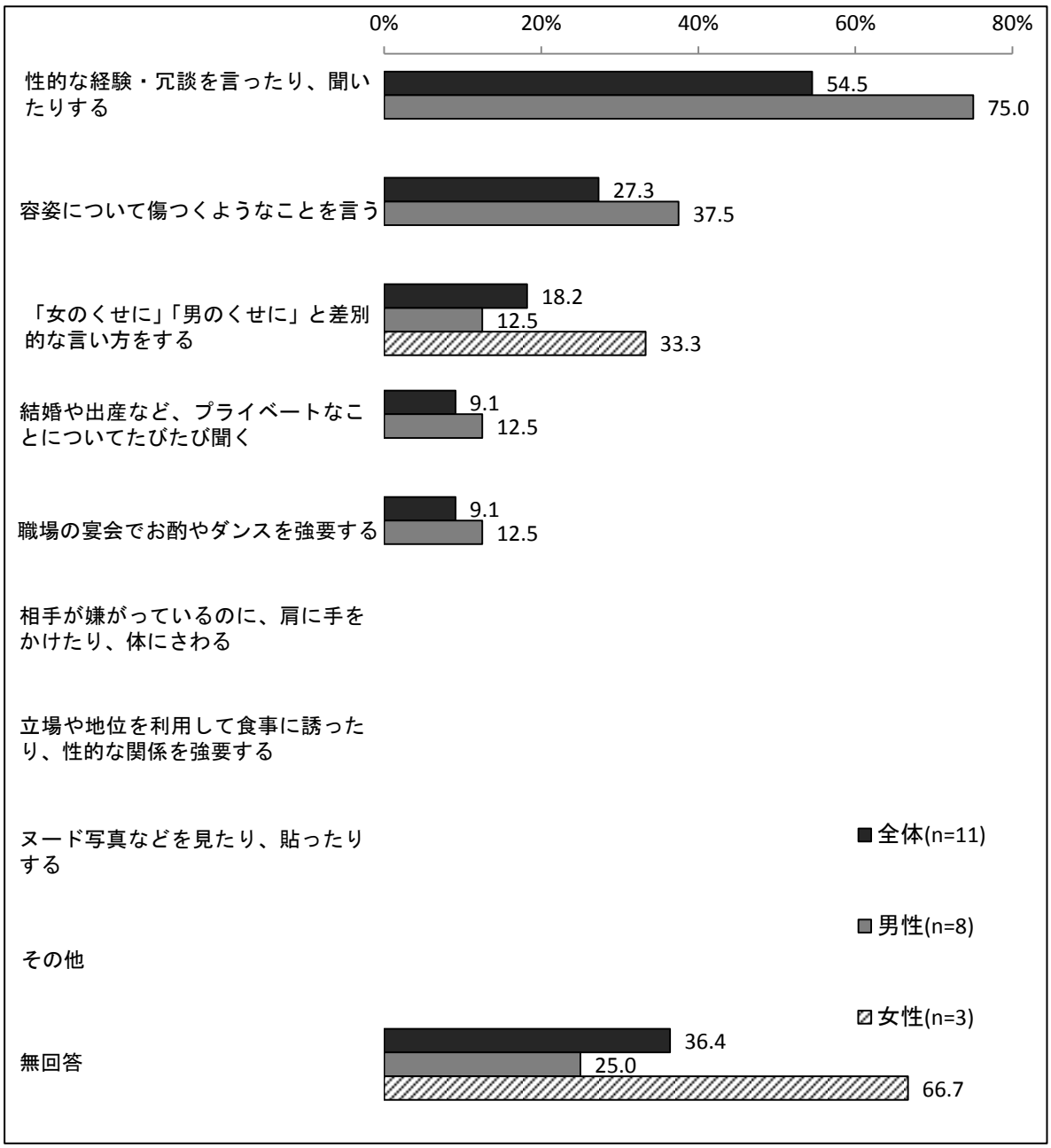
「１見たり聞いたりしたことがある」と回答した方



「２受けたことがある」と回答した方



「３　したことがある」と回答した方



【全体結果】

『見聞きしたことがある』内容は、「性的な経験・冗談を言ったり、聞いたりする」が 57.4%で最も高い。次いで「容姿について傷つくようなことを言う」（35.1%）「女のくせに、男のくせにと差別的な言い方をする」（32.4%）、「相手が嫌がっているのに、肩に手をかけたり、体に触る」（29.3%）と続いている。

『受けたことがある』内容は、「性的な経験・冗談を言ったり、聞いたりする」が 50.5%で最も高い。次いで「容姿について傷つくようなことを言う」（40.7%）、「相手が嫌がっているのに、肩に手をかけたり、体にさわる」（38.5%）「女のくせに、男のくせにと差別的な言い方をする」（36.3%）と続いている。

『したことがある』内容は、「性的な経験・冗談を言ったり、聞いたりする」が 54.5%で最も高く、次いで容姿について傷つくようなことを言う」（27.3%）と続いている。

【性別による結果】

『見聞きしたことがある』内容は、「女のくせに、男のくせにと差別的な言い方をする」（男性 23.9%、女性 40.9%）で、女性の方が 17 ポイント高く、男女の間で最も差があった。

『受けたことがある』内容は、「相手が嫌がっているのに、肩に手をかけたり、体に触る」（男性 22.2%、女性 39.5%）で、女性の方が 17.3 ポイント高く、男女の間で最も差があった。

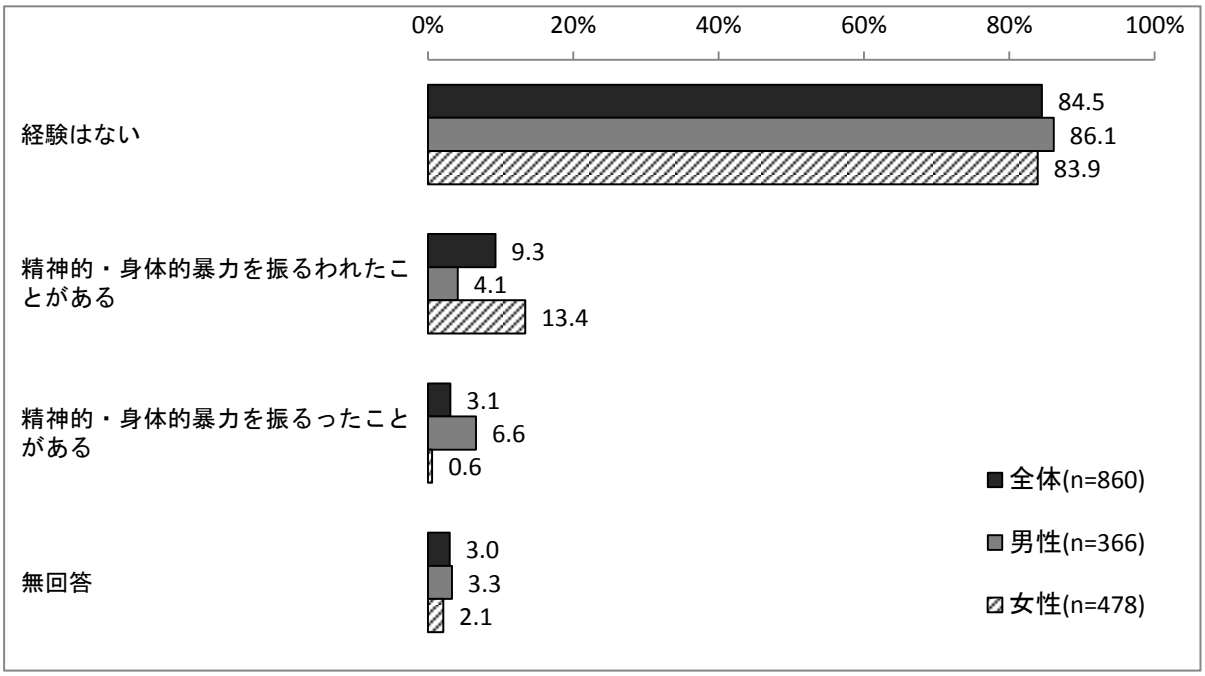
『したことがある』内容は、男性は、「性的な経験・冗談を言ったり、聞いたりする」（75.0%）が最も高く、女性は、「女のくせに、男のくせにと差別的な言い方をする」（33.3%）が最も高くなっている。

【前回調査との比較】

※この設問は今回の調査から追加した。

(3) ドメスティック・バイオレンスの経験

問１５　あなたは、配偶者やパートナーなどからの（への）精神的・身体的暴力（DV：ドメスティック・バイオレンス）を振るわれたり、振るったりした経験はありますか。



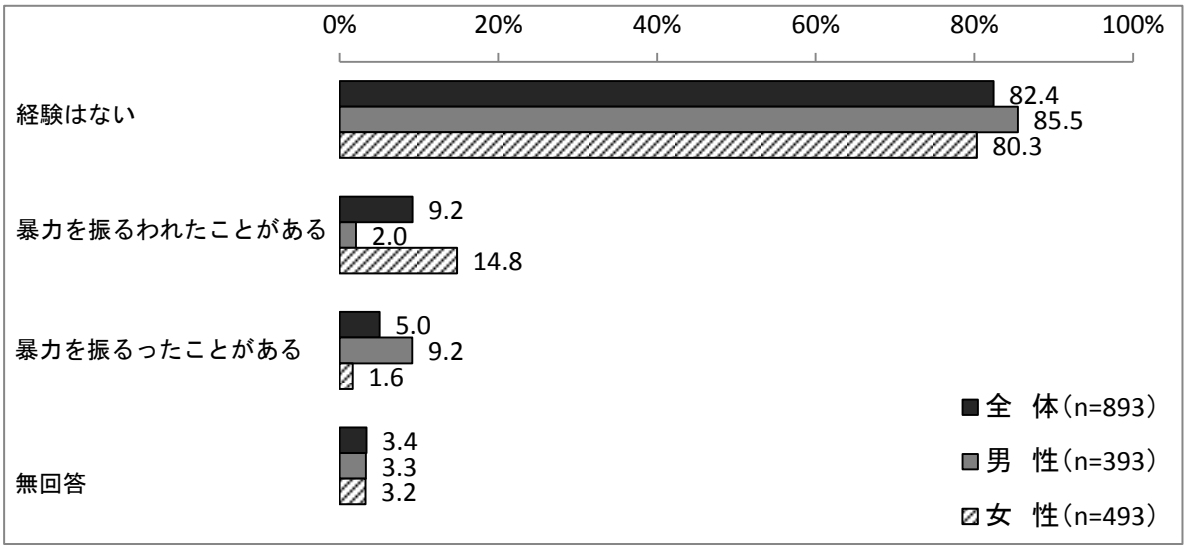
【全体・性別結果】

「経験はない」が 84.5%で最も高く、「振るわれたことがある」は 9.3%、「振るったことがある」は 3.1%という結果となった。

【性別による結果】

「振るわれたことがある」（男性 4.1%、女性 13.4%）の割合は女性の方が 9.3 ポイント高く、「振るったことがある」（男性 6.6%、女性 0.6%）は男性の方が 6 ポイント高くなっている。

【前回調査（平成 23 年度）との比較】

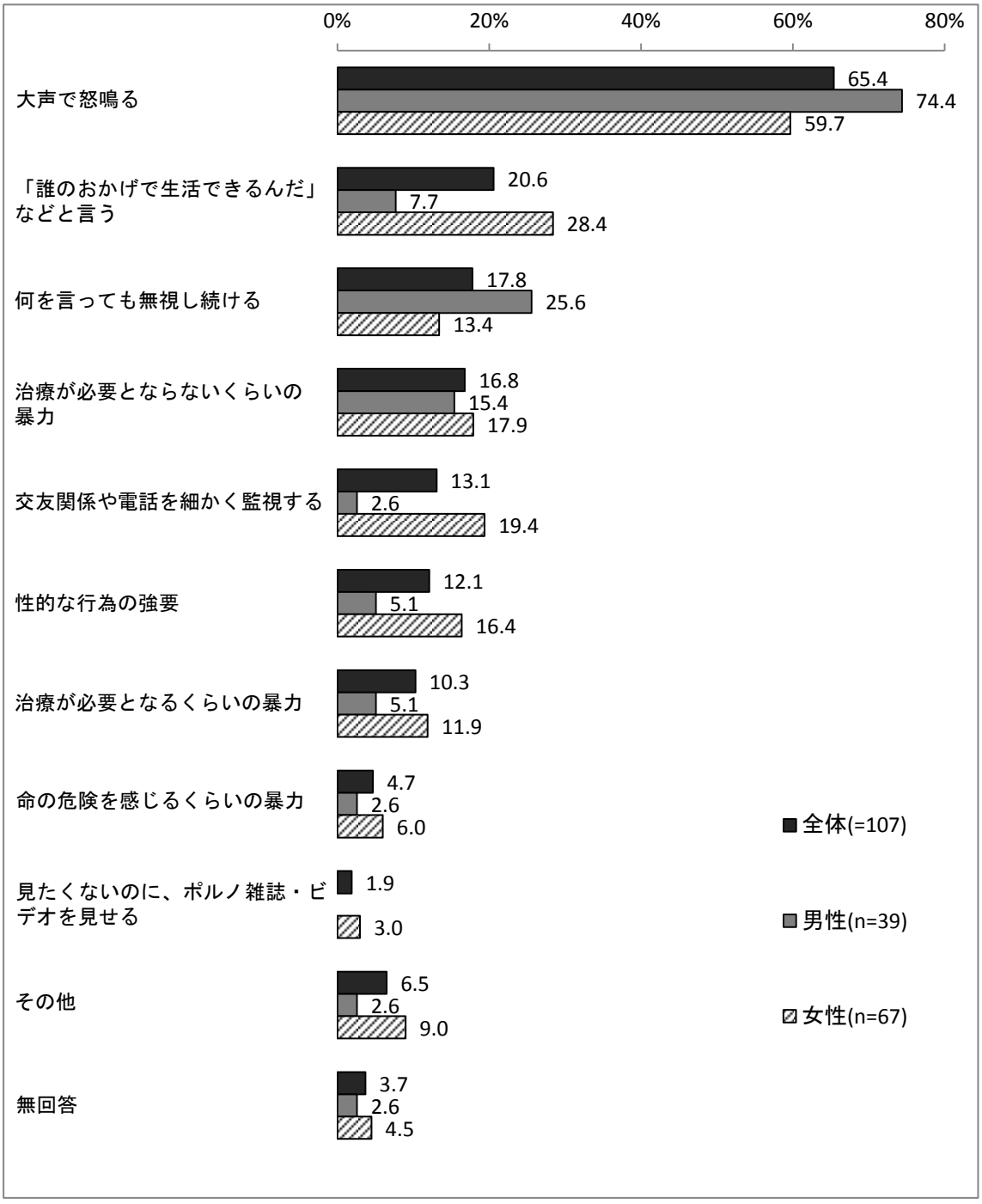


「振るわれたことがある」という男性（今回 4.1%、前回 2.0%）は 2.1 ポイント増加しているが、女性（今回 13.4%、前回 14.8%）は 1.4 ポイント減少している。「振るったことがある』男性（今回 6.6%、前回 9.2%）は 2.6 ポイント、女性（今回 0.6%、前回 1.6%）は 1 ポイントそれぞれ減少している。

(4) ドメスティック・バイオレンスの内容

問１６　あなたが経験した、配偶者やパートナーなどからの（への）精神的・身体的暴力（DV：ドメスティック・バイオレンス）はどのようなものでしたか。

【問１５で「精神的・身体的暴力を振るわれたことがある」もしくは「振るったことがある」と答えた方が回答】



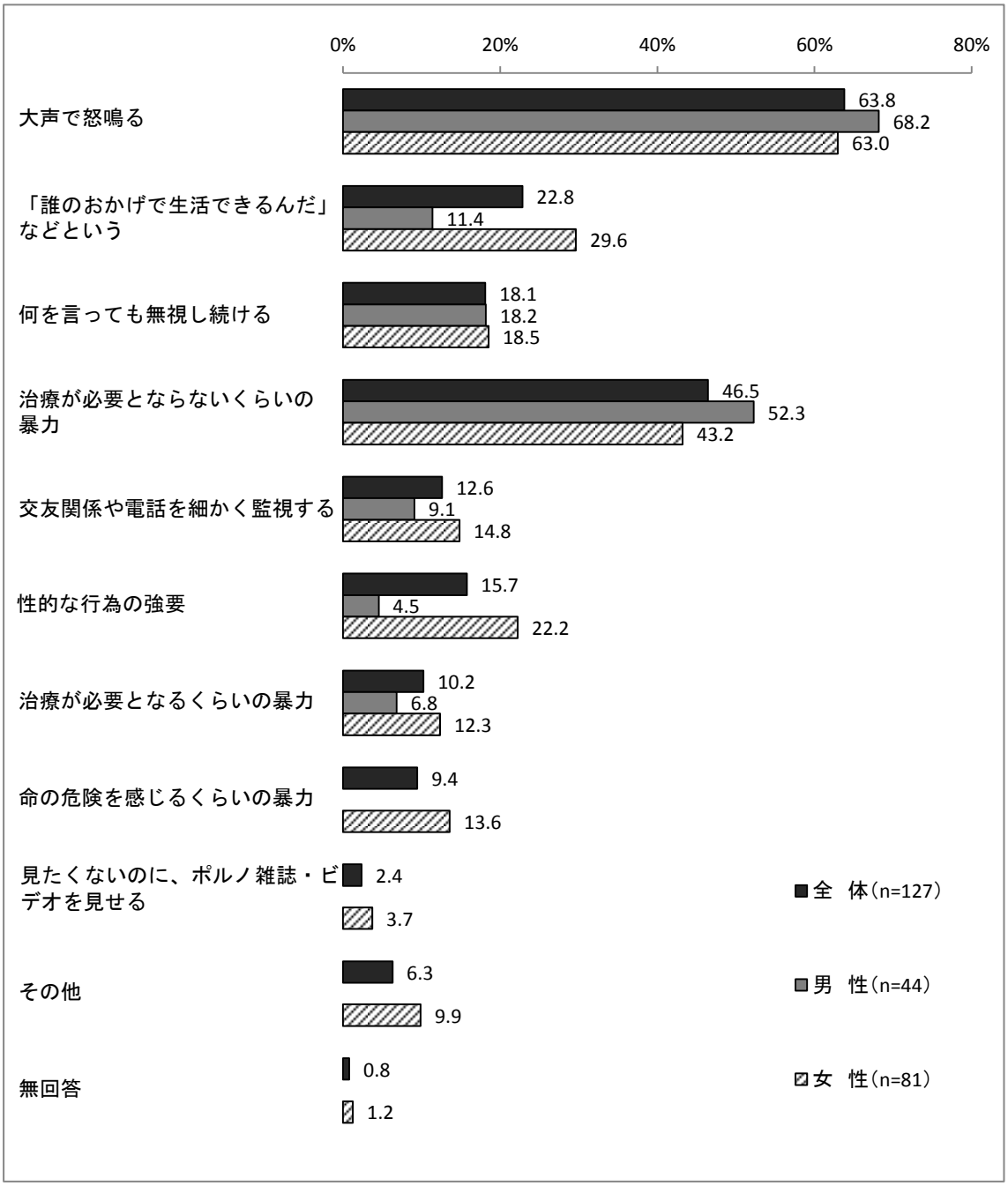
【全体結果】

「大声で怒鳴る」が 65.4%で過半数を超え、他の内容と比べて高くなっている。次いで、「誰のおかげで生活できるんだなどと言う」(20.6%)、「何を言っても無視し続ける」(17.8%)、「治療が必要とならないくらいの暴力」（16.8%）と続いている。

【性別による結果】

男女ともに「大声で怒鳴る」（男性 74.4%、女性 59.7%）が最も高く、男性の方が 14.7 ポイント高くなっている。次いで男性は「何を言っても無視し続ける」（男性 25.6%、女性 13.4%）、女性は「誰のおかげで生活できるんだなどと言う」（男性 7.7%、28.4%）と続いている。

【前回調査（平成 23 年度）との比較】

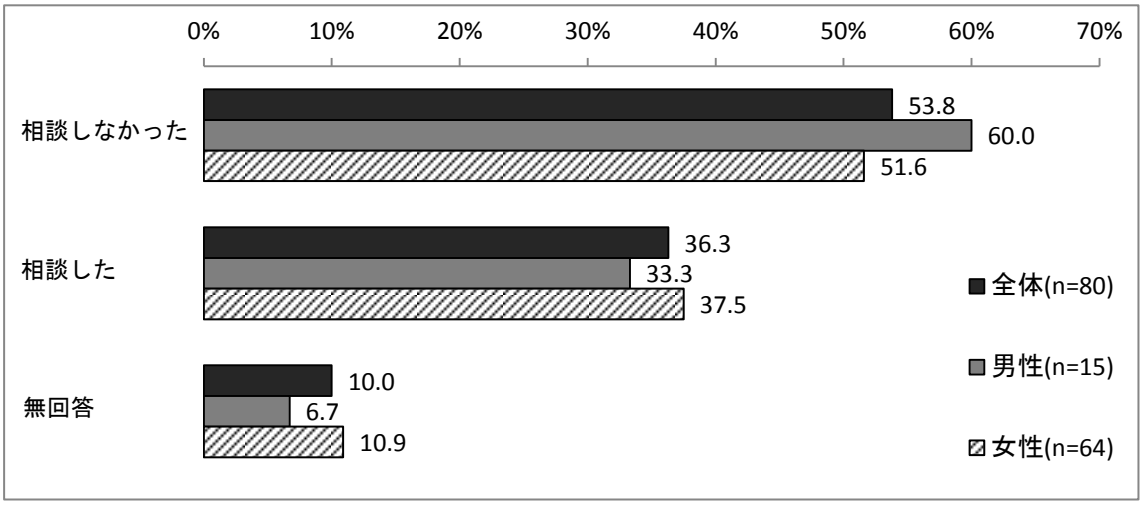


「治療が必要とならないくらいの暴力」（今回 16.8%、前回 46.5%）は、29.7 ポイント減少している。また、男性の「命の危険を感じるくらいの暴力」（今回 2.6%、前回 0%）が今回は該当があった。

(5) ドメスティック・バイオレンスに関する相談状況

問１７　あなたはこのような行為を受けていることを誰かに相談しましたか。

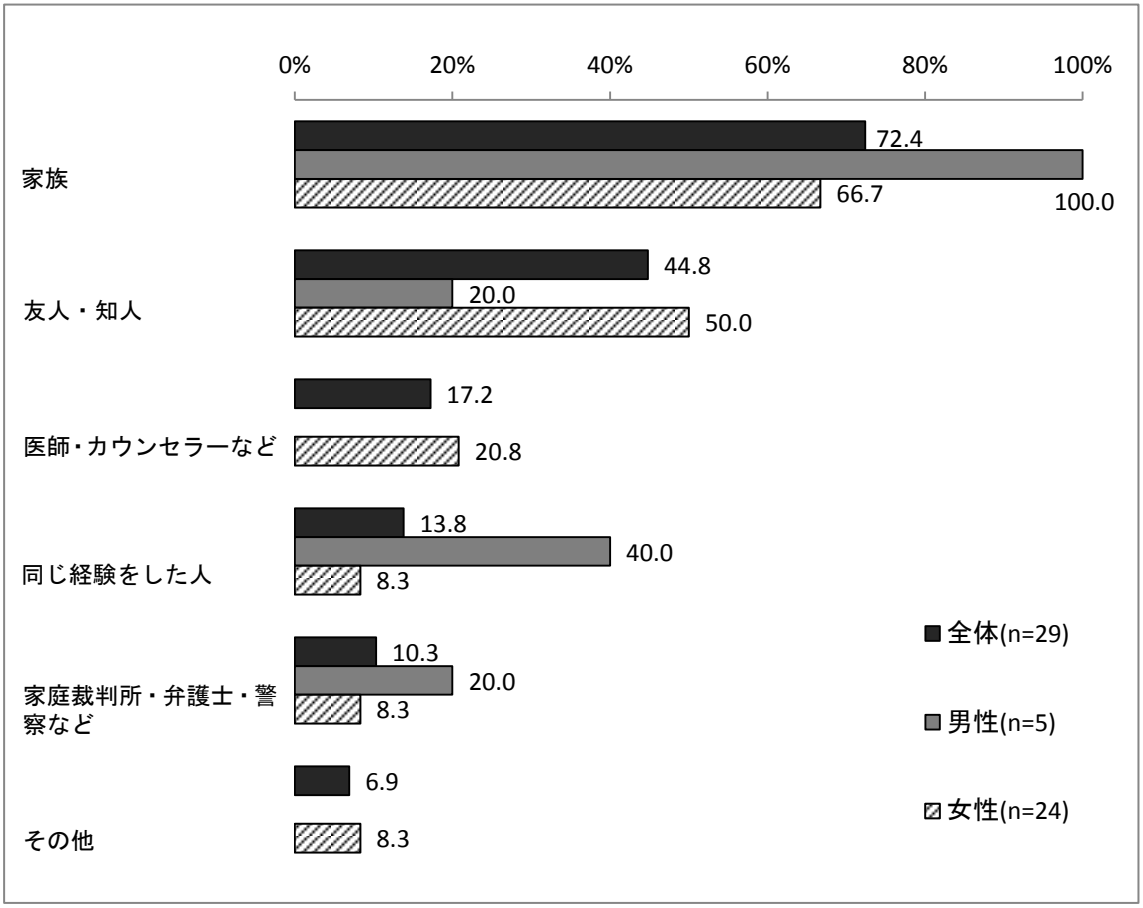
【問１５で「精神的・身体的暴力を振るわれたことがある」と答えた方が回答】



(6) ドメスティック・バイオレンスに関する相談先

問１８　実際にどこ（だれ）に相談をしましたか。

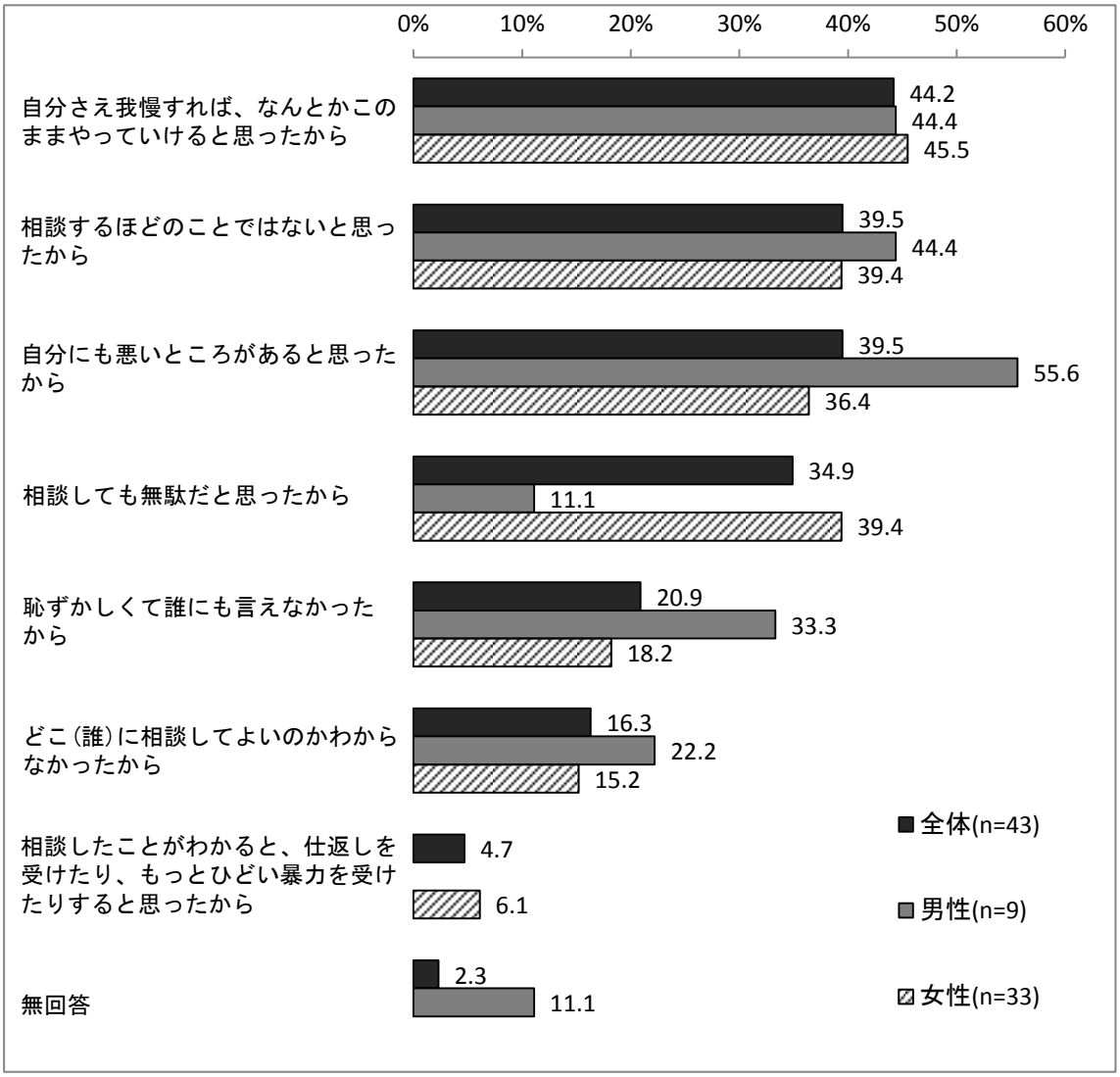
【問１７で「相談した」と答えた方が回答】



(7) ドメスティック・バイオレンスに関する相談をしなかった理由

問１９　「相談しなかった」のはなぜですか。

【問１７で「相談しなかった」と答えた方が回答】



【全体・性別結果】

『相談状況』は、「相談した」の割合が 36.3%で、「相談しなかった」の 53.8%よりも 17.5 ポイント低くなっている。

性別でみると、「相談した」（男性 33.3%、女性 37.5%）は、男性の方が 4.2 ポイント低く、「相談しなかった」（男性 60.0%、女性 51.6%）は、女性の方が 8.4 ポイント低くなっている。

『相談先』は、「家族」が 72.4%で最も高く、次いで「友人・知人」（44.8%）、「医師・カウンセラー」（17.2%）と続いている。

性別でみると、男性は「家族」が 100%となっており、次いで「同じ経験をした人」（40.0%）と続いている。女性では、「家族」が 66.7%で最も高く、次いで「友人・知人」（50.0%）となっている。女性で 3 番目に高い「医師・カウンセラー」（20.8%）に、男性が相談先として回答した人はいなかった。

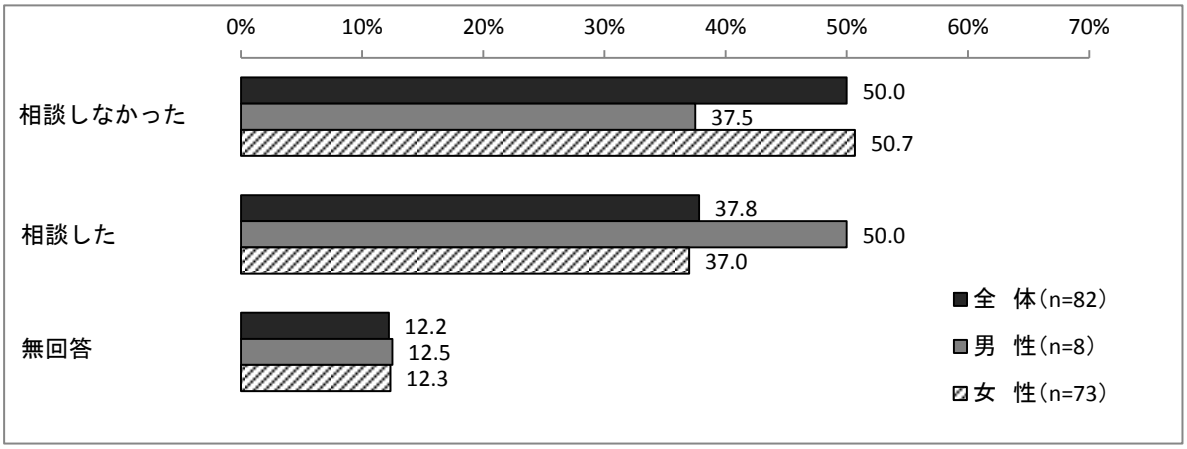
『相談しなかった理由』は、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が 44.2%で最も高くなっている。次いで「相談するほどのことではないと思ったか

ら」（39.5%）、「自分にも悪いところがあると思ったから」（39.5%）と続いている。

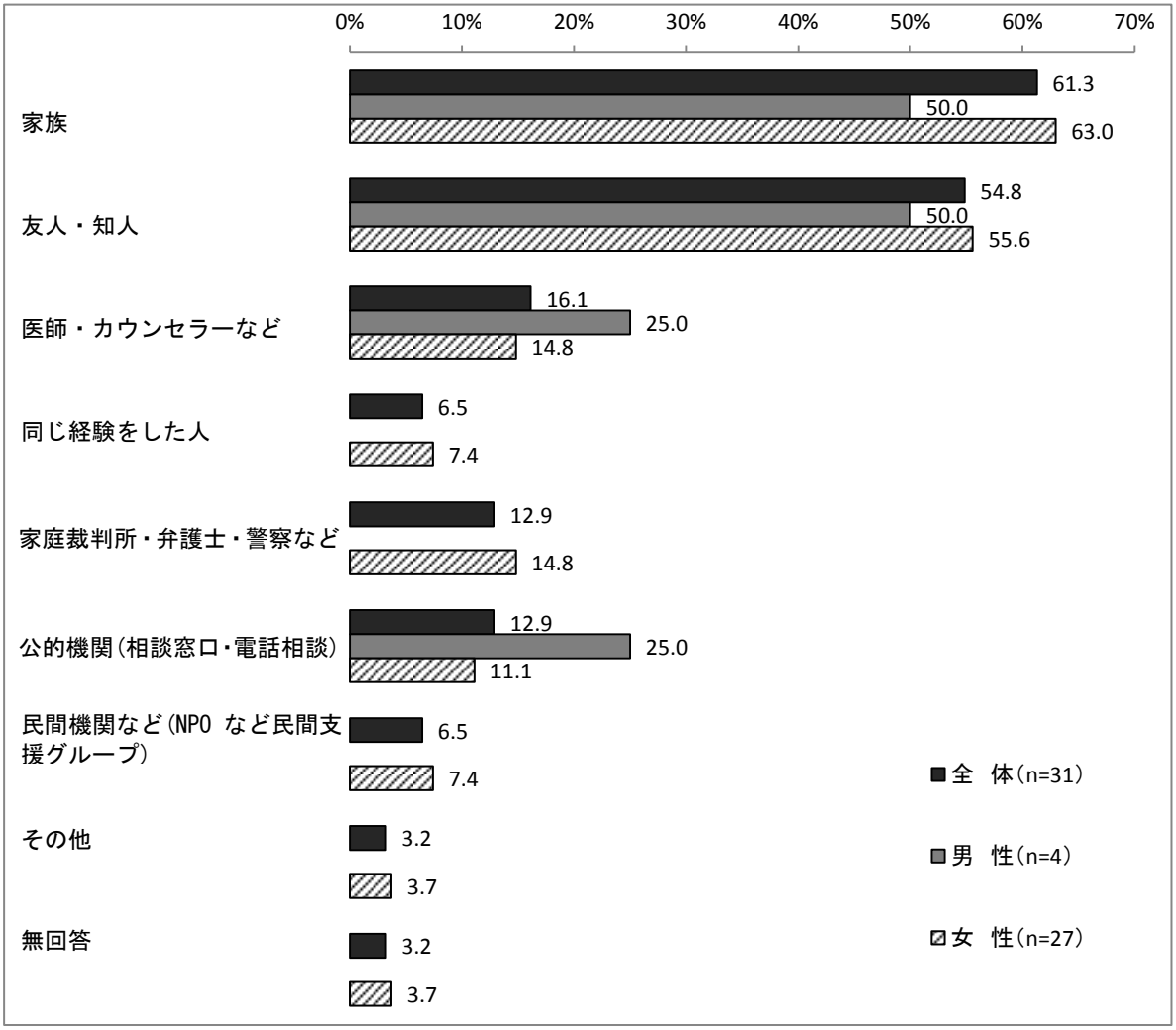
性別でみると、男性は「自分にも悪いところがあると思ったから」（55.6%）が最も高く、女性は「自分さえ我慢すればなんとかこのままやっていけると思ったから」（45.5%）が最も高くなっている。

【前回調査（平成 23 年度）との比較】

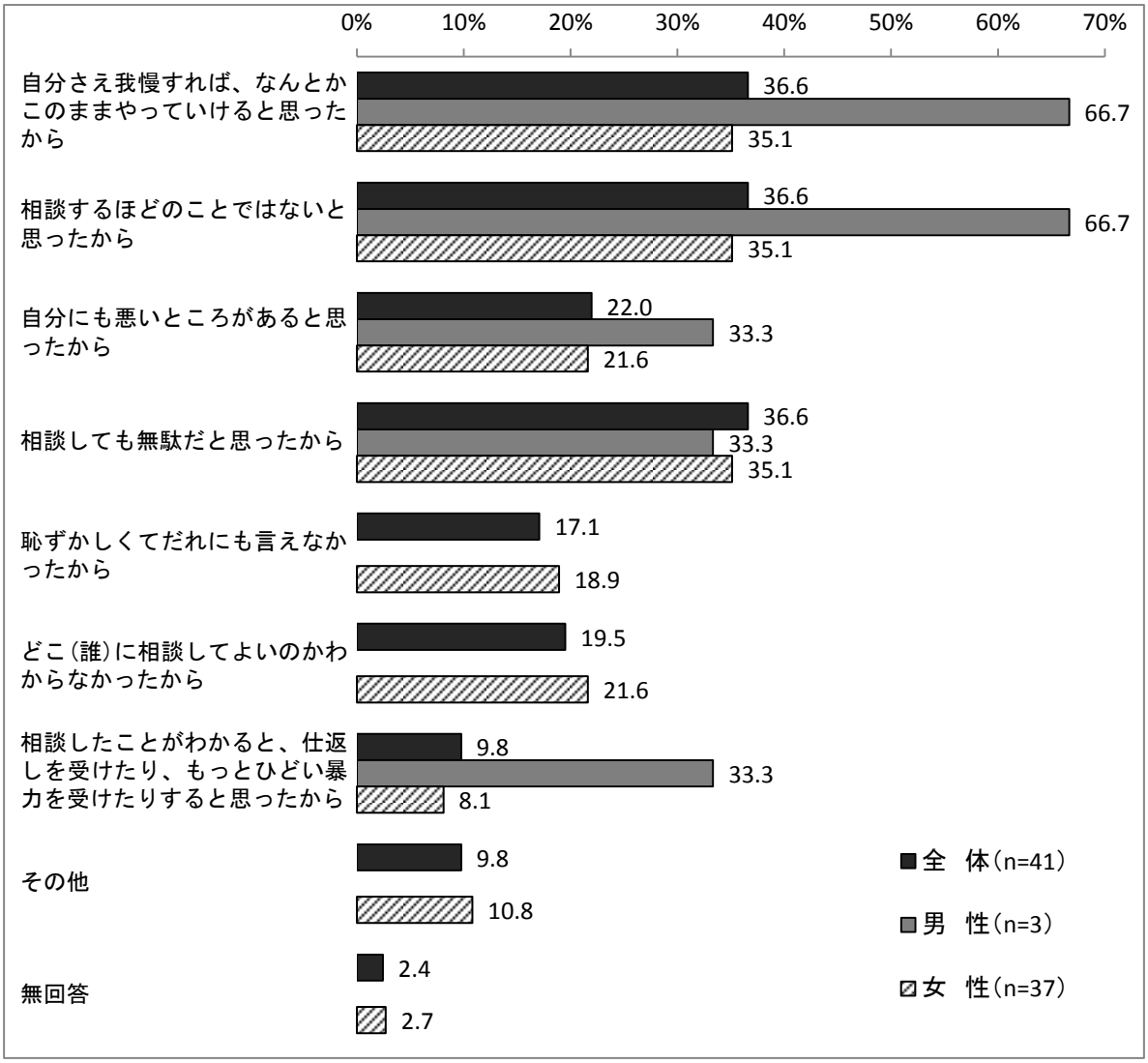
・誰かに相談したかどうか



・実際にどこに相談したか



・相談しなかったのはなぜか

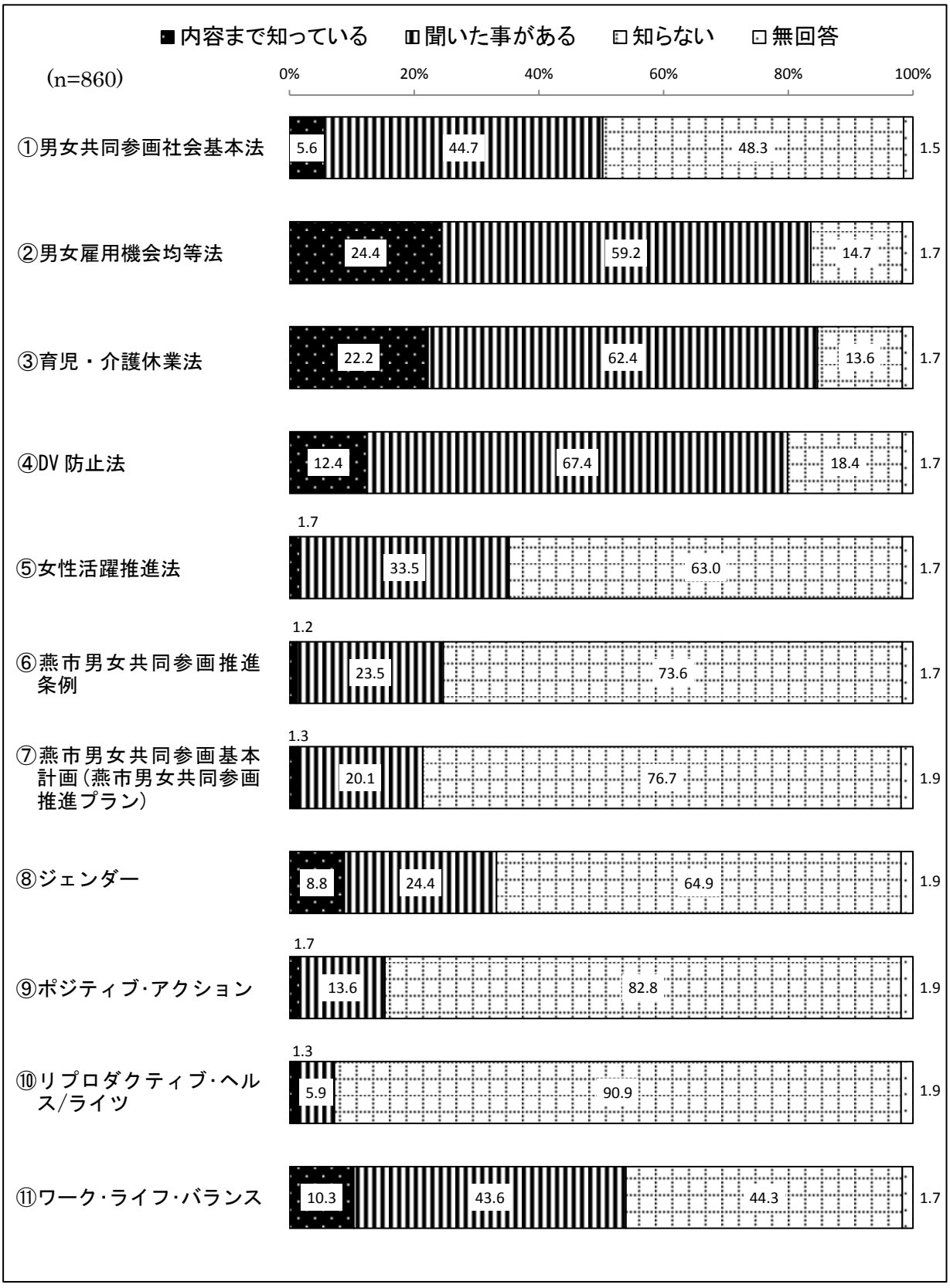


男性の「相談した」（今回 33.3%、前回 50.0%）は 16.7 ポイント減少し、「相談しなかった」（今回 60.0%、前回 37.5%）は 22.5 ポイント増加した。女性は、前回との差はほとんど見られなかった。

６．男女共同参画社会に向けた法制度等について

(1) 男女共同参画社会に関する言葉の認知度

問２０　あなたは、次にあげるものの名称や言葉についてご存じですか。



※⑤「女性活躍推進法」と⑥「燕市男女共同参画推進条例」、⑦「燕市男女共同参画推進計画」は今回の意識調査から追加した項目。

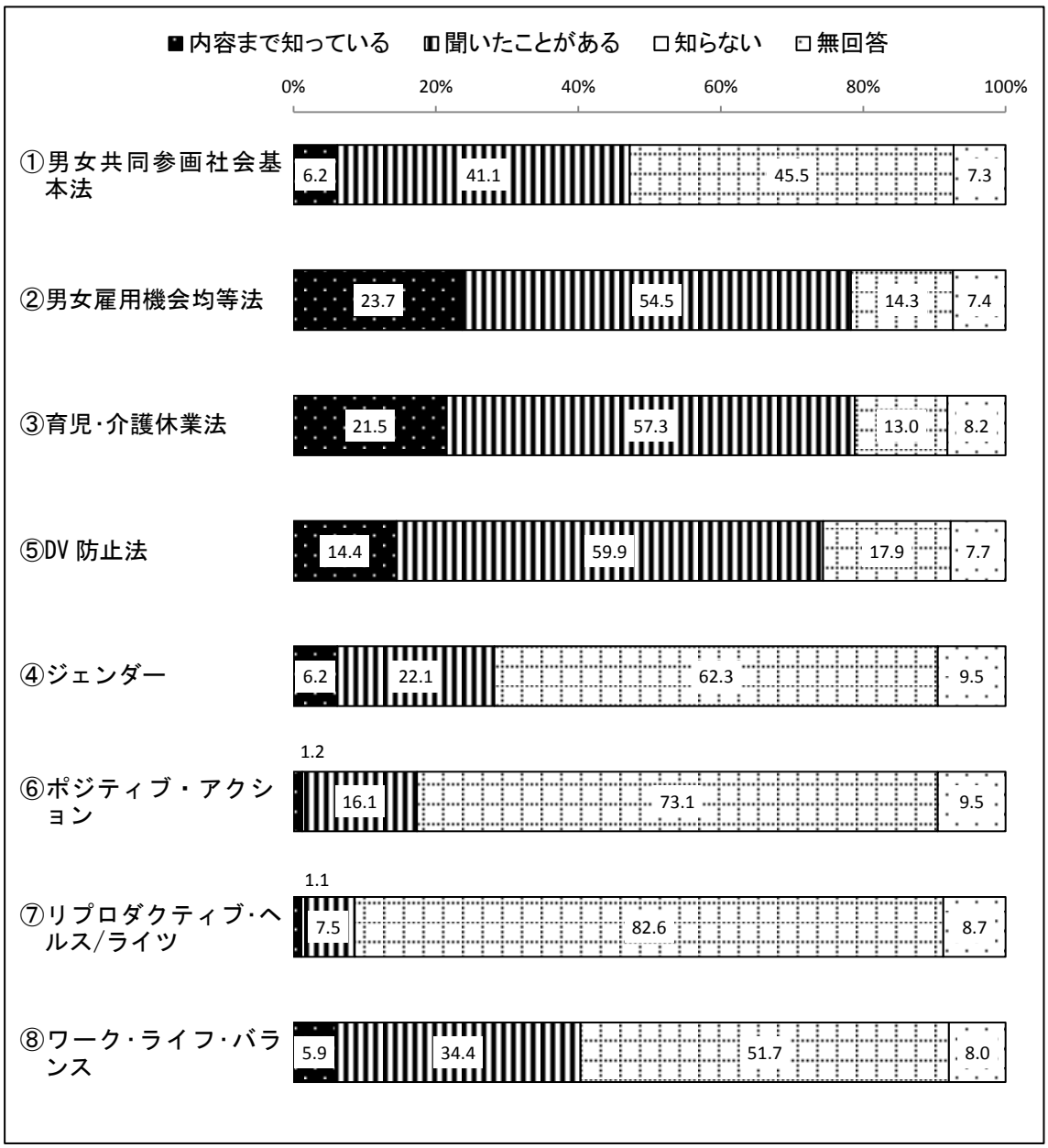
【全体結果】

『内容まで知っている』の割合が高いのは、②「男女雇用機会均等法」24.4%、③「育児・介護休業法」22.2%、④「ＤＶ防止法」12.4%の順になっている。

『聞いたことがある』の割合が高いのは、④「ＤＶ防止法」67.4%、③「育児・介護休業法」62.4%、②「男女雇用機会均等法」59.2%の順になっている。

『知らない』の割合が高いのは、⑩「リプロダクティブヘルス／ライツ」90.9%、⑨「ポジティブ・アクション」82.8%、⑦「燕市男女共同参画推進計画」76.7%、⑥「燕市男女共同参画推進条例」73.6%の順になっている。

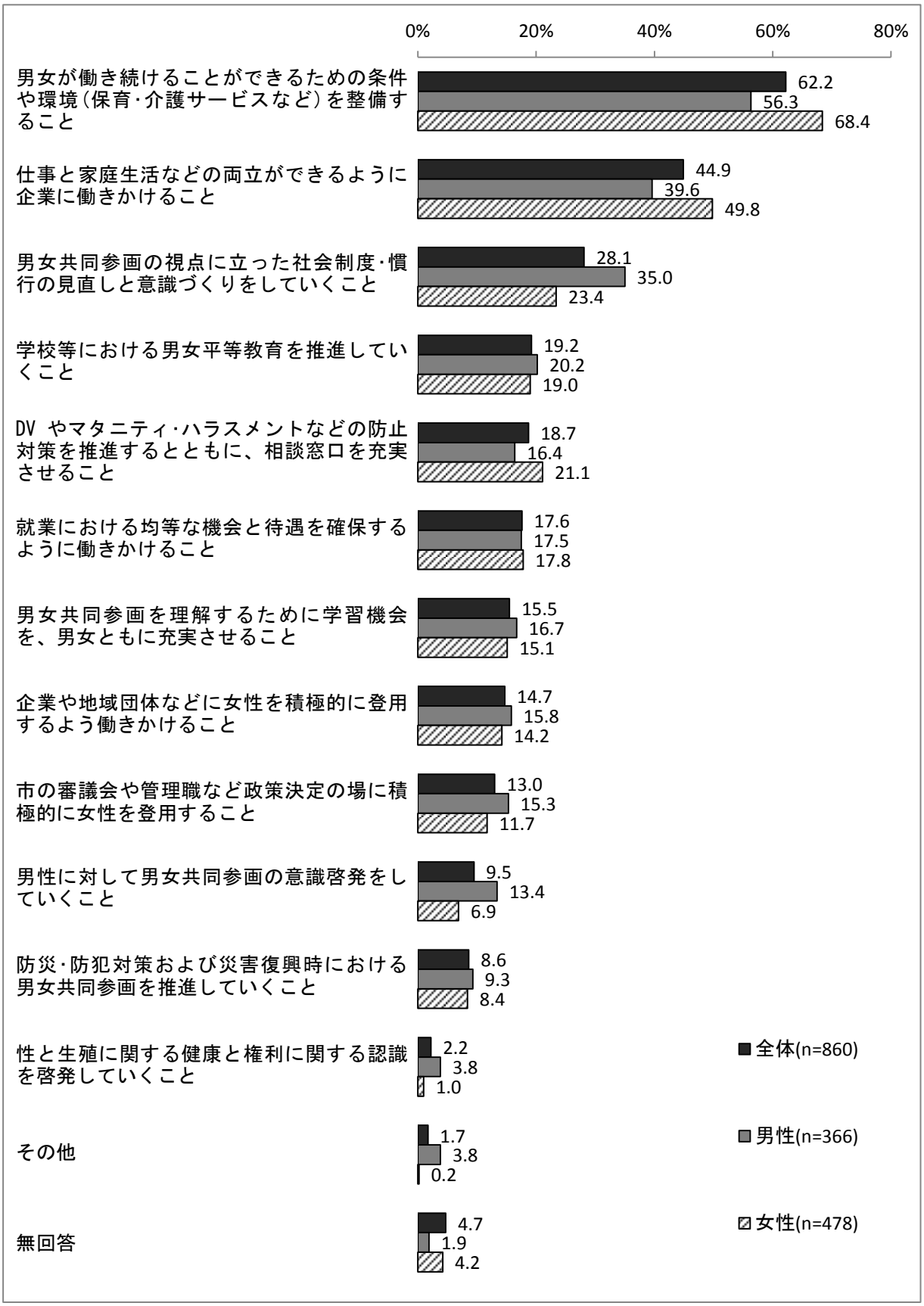
【前回調査（平成 23 年度）との比較】



④「ＤＶ防止法」を『内容まで知っている』（今回 12.4%、前回 14.4%）は 2 ポイント減少し、⑪「ワーク・ライフ・バランス」を『内容まで知っている』（今回 10.3%、前回 5.9%）は 4.4 ポイント増加している。その他のことばの認知度は、前回との差はほとんど見られなかった。

(2) 男女共同参画社会推進のために市が力を入れるべきことについて

問２１　あなたは、男女共同参画を進めていくために、今後、市がどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。（○は３つまで）



【全体結果】

「男女が働き続けることができるための、条件や環境（保育・介護サービスなど）を整備すること」が 62.2%で最も高く、次いで「仕事と家庭生活などの両立ができるように企業に働きかけること」（44.9%）、「男女共同参画の視点に立った社会制度・慣行の見直しと意識づくりをしていくこと」（28.1%）と続いている。

【性別による結果】

性別でみると、「男女が働き続けることができるための条件や環境（保育・介護サービスなど）を整備すること」（男性 56.3%、女性 68.4%）は、女性の方が 12.1 ポイント、「仕事と家庭生活などの両立ができるように企業に働きかけること」（男性 39.6%、女性 49.8%）は、女性の方が 10.2 ポイントそれぞれ高くなっている。「男女共同参画の視点に立った社会制度や慣行の見直しと意識づくりをしていくこと」（男性 35.0%、女性 23.4%）は 11.6 ポイント男性の方が高くなっている。それ以外の項目は、男女で差はほとんど見られなかった。

【前回調査との比較】

※この設問は今回の調査から追加した。

（付）調　査　票

平成 27 年度

男女共同参画に関する市民意識調査

報　告　書

平成 28 年 3 月発行

燕市 企画財政部 地域振興課

〒959-0295　燕市吉田西太田 1934 番地

電話番号　(0256) 77-8361